

ナ意識セヌヲアリ。而モ又其間ハ意識ノ一時卒然清明トナ
リ。忽ニシテ又舊ノ缺亡状態ニ陥ルヲアルモノナリ。醉後暴
行ハ人又物ニ對シ、害ヲ加ヘ、風俗ヲ紊リ(強姦)、名譽ヲ毀テ、貴
尊ヲ犯ス等ノヲアリ。

(口)病醜 疾病性酩酊 (Pathologische Rauschzustände)

尋常酩酊ノ他。一種ノ疾病性酒精反應アリ。特別ナル體質ニ
ヨリ。又ハ之ニ他ノ誘因加ハリテ、酒ノ爲ニ急性躁暴狂ノ如
キ精神症狀ヲ呈ス。之ヲ病醜(疾病性酩酊)ト云ヒ。之ニハ多ク
ハ體質ニ基ク素因アリ。皆酒精ノ衝逆性作用ニ對スル抵抗
力ヲ減シ(血管運動ニ阻礙シ)。大脳ノ精神機能ヲナス部ニ衝逆
性充血ヲ致スモノナリ(之ヲ飲酒不堪症トス)。飲酒不堪ハ屢
腦病ノ遺傳素性アルモノニ來リ。其人ハ激シ易ク、感シ易ク。
屢頭痛、眩暈、勦血、五官感覺過敏ニ惱ミ。熱ニヨリテ直ニ腦上
衝ヲ來タス。

病醜

其前世又ハ血統ニ腦病、癲癇、精神病、酒客、卒中等アリ。
病醜ハ又後天性ニ頭傷、腦震盪、腦膜腦焮衝、精神病及ヒ室扶
斯等ノ爲ニ起リ。又是等ノ素性ナクモ。急劇ノ感動(酒客ハ傾切
向ア)、身體過勞、色慾亢激、飢時ノ飲酒、甚キ外熱、日熱、飲料中ノ
麻醉劑混入(依的兒油、アブシント)、甚キ吹烟等ノ酒精ノ衝逆
作用ヲ激厲スルモノハ病醜ヲ起スヲアリ。

病醜ハ又腦病ニ前發スル緊要ノ徵候タルモノニシテ。慢性
中酒狂、麻痺狂、癲癇ニ前驅ス。

臨牀上ニハ譫妄性ノ朦朧状態アリ。幻覺性譫妄性激越状態
アリ(精溢ヲ用アルノ長細ノ酒)。一時性躁狂ノ激越状態タルヲアリ。
急性譫妄ノ状態ハ癲癇者ノ大發作ニ類シ。多少分明ナル中
酒ノ症狀(前驅症)アリテ後。前兆狀ノ増進性苦悶、恐怖性幻聽
幻視アリテ。意識消失シ。恐怖性苦悶ト頻多ノ幻覺トハ。患者
ヲ苦惱ニシ。爲ニ妄行妄走シ。旁人ヲ視ルヲ讐敵ノ如ク。恍々

中毒ニ基ク無意識状態

トシテ夢中ノモノ、如ク。批攫性トナリテ躁動シ。其苦悶性
激越ノ甚キ。猛怒暴亂スルニモ至リ。而シテ其間ニハ往々ニ
シテ昏迷狀ノ寛解狀態ヲ交ユルヲアリ。斯ノ如クニシテ患
者ハ數時數日ノ後、病瘥テ常ニ復シ。病後更ニ病中ノ事ヲ記
スルナシ。

診斷上ニハ之ヲ尋常ノ酩酊ト區別スルヲ要ス。

(イ)飲量ト作用トノ間ニ不權衡アリ。少量ニシテ甚ク酩酊
ス。是レ内部ノ器質ニ基キ、又ハ偶然ノ事狀之ニ加ハリ
テ累積作用ヲナスニ由ルナリ。

(ロ)原因ト作用トノ時間上ノ關係ハ尋常酩酊ノ如クナラ
ス。酩酊ナラハ酒精症狀ハ次第ニ増進スヘキナレド。病
酩ニ在リテハ。過飲ノ初ヨリシテ既ニ之アリ。或ハ過荒
ノ後ニ誘因ノアルヤ。酒精上衝ノ潛匿セルモノ一時ニ
暴發スルヲアリ。

(ハ)病酩ト酩酊トハ性質上ニモ區別アリ。病酩ニ在リテハ
多少聯貫セル譫妄アリ。幻覺ノ爲ニ深ク障礙セラル、
アリ。躁狂狀症狀アリテ。性慾性所爲、暴猛、破壞ノ急迫ヲ
帶ヒ來リ。其運動ハ蕩搖性(踰限)ニアラス。失節性ニアラ
ス。躁狂ニ似テ。準確ニシテ力アリ、勢アリ。意識ノ深障礙
ハ發作間ノ追想ヲシテ全然缺亡セシメ。發作ハ腦充血
ノ症狀(血氣衝逆、潮紅、頭痛、眩暈、五官ノ感覺過敏)ヲ以テ
前驅トナシ或ハ之ヲ附隨スルナリ。

(ハ)其他ノ急性中毒狂

非沃斯、曼陀羅華、莨菪、有毒菌類等ノ中毒狀態ニハ。夥多ノ妄
覺妄想アリ。躁擾アリ。荒暴アリ。苦悶ノ甚キ怔忡アリ。其間爲
ニ背法ノ所行ヲナス。阿片、印度大麻ノ濫用、鉛中毒ニモ譫妄
狀態アリ。依的兒、嚼囉仿謨ヲ麻醉ニ用フルモ。完全奏効ノ前
ニ譫妄アリ。時ニ躁暴シテ人ニ批攫スルヲアリ。

急性中毒狂

中毒ニ基ク無意識狀態

(四)熱譫妄。飢乏譫妄。神經性譫妄 (Delirium febrile,

inanihonis, nervosum)

熱譫妄

身體病ノ經過中、精神機能ノ障礙ヲ見ルヲアリ。其症狀ハ或
ハ精神原障礙ニ限リ(妄覺又ハ觀念經過ノ障礙)或ハ幻覺性
錯亂症ノ形ヲナスアリ(獨立ノ精神病トハ經過ノ急促)。
譫妄ハ通例重キ熱病、殊ニ所謂傳染病(麻疹、猩紅熱、痘瘡、羅斯、
間歇熱、室扶斯)ニ見。其經過中ノ二病期、即チ病頂期ト恢復期
トニ發スルナリ。病頂期ノ譫妄ニハ病毒ト熱トノ爲ニ、血液
混合ノ深障礙及ヒ衝逆機轉アリ。鬱悶狀ナルモノ多キモ、亦
苦悶ノ爲ニ興奮シ之ニ相當ノ妄覺、追跡妄想アルヲアリ。恢
復期ノ妄覺ハ、飢乏譫妄、虛脫譫妄ニ相當スルモノニシテ、腦
榮養ノ不足ハ之カ原因タリ。虛脫譫妄ハ肺炎、間歇熱、室扶斯、
急性關節痲麻室斯及ヒ虎列刺ノ後ニアルヲ稀ナラス。妄覺

飢乏譫妄

提

神經性譫妄

及ヒ譫妄アリ。其内容ハ恐ルヘキモノ又ハ何厄ナキモノタ
リ。而シテ之カ爲ニ苦悶發作、苦惱、不安、時トシテハ輕度ナル
興奮狀態ヲナスヲアリ。
間歇熱ニハ熱發作ノ高頂ニテ。熱ノ高騰、腦上衝ノ劇甚ノ時
ニ、憤怒性譫妄アルヲアリ。又病初ヨリ熱發作ノ代リニ譫妄
發作アリ。其間恐ルヘキ幻覺多シ。甚キ苦悶アリテ。爲ニ暴行
ヲナスヲアリ。其持續ハ數時間ニシテ。意識深障礙アリ。追想
多クハ缺亡ス。此ノ如キ潜伏性間歇熱ハ通例其病ノ流行地
ノ患者ニ見ル所ナリ。
又熱低キ病又ハ熱ナキ病ニ。譫妄ノアルヲ稀ナラス。是レ其
人ニ神經病性體質アリテ。腦ハ病ノ爲ニ興奮性トナレルル
ニ然リ。例ヘハ神經病、久時ノ不眠、疼痛強キ外傷ノ爲ニ譫妄
ヲ起ス如キモノ是ナリ。

熱譫妄、飢乏譫妄、神經性譫妄

尋常ノ感動

(五)感動ノ状態 (Affektzustände)

(イ)尋常ノ感動 (Physiologischer Affekt)

感動トハ生理界ニ屬スレバ。其甚キモノハ著キ身體及ヒ精神ノ機能障礙ヲ起シ。其人ノ思慮ハ一時著ク溷濁スルモノナリ。但生理界ニ於テハ。一定ノ年齢ト相當ノ教育ハ。感動ノ爲ニ起リシ觀念欲向ヲ矯制控御スルヲ得ヘキモノナリ。然レバ感動ノ状態ハ。一時經過性ニ精神機制ノ障礙ヲ致シ。其人ノ法律道德ノ觀念ニ關スル精神抵抗力ヲシテ薄弱ナラシムルモノニシテ。其箇人性、其事狀及ヒ感動ノ誘因ハ其人ノ行爲ニ付其結果ニ付テ緊要ニシテ。而モ人ニヨリテ各異ナリ。氣風、性質、教育等ニヨリテ、感動ノ經過ハ同一ナラス。又感動ヨリ其行爲ニ發スル迄ノ時間モ、人ニヨリ事狀ニヨリテ同カラス。

疾病性感動

精神ノ障礙ハ通例感情ノ障礙ヲ以テ初マルモノ(感情興奮性ノ變化、自發ノ劇烈ナル感動)ナレハ。感動ノ起リ易キモノアラハ。精神病ノ初ニハアラサルヤ否ヲ察スヘシ。

(ロ)疾病性感動 (Pathologischer Affekt)

感動ノ機轉ニシテ。異常ニ劇シ且其均平スルニ異常ノ長時ヲ要スルモノ。之ヲ疾病性感動状態(疾病感動)ト云フ。感動ノ異常ニ劇甚ナリトハ。其人ノ意識消失シ。其運動反應ノ隨意行爲ノ形容ヲ失フヲ云ヒ。其異常ニ長續スルトハ。數時ヨリ數日ニ至ルヲ云フナリ。

之ヲ精窮スレバ。疾病感動ハ既ニ感動ニアラスシテ。感動ノ震撼ニヨリテ生シタル一時性精神障礙ナリ。感動ノ震撼ハ血管神經作用ニ深重持久ノ變化ヲ提起スルヲ尋常ノ(意識ニ均平スル)感動ニ於ケルヨリモ甚ク。感動ノ種類、感動ノ原因ニヨリテ血管攣攣性ノ神經作用障礙ヲナシ(驚愕)。又ハ血

感動ノ状態

管麻痺性ノ障礙(憤怒)ヲナスモノナリ。其障礙ノ範域ハ極メテ廣クシテ。感動震撼ノ直ニ血管運動中樞ニ加ハリ、血液分配ト血壓トニ急速且深厚ノ障礙ヲ起スニヨリテ。其疾病症狀ノ較明ナル(即意識ノ深ク溷濁シ又ハ缺血シ、追想モ亦之ニ從テ不完全又缺血スル)ヲ説明スヘシ。感動ノ形種ハ最モ之ト緊要ナル關係アリテ。苦悶恐怖等ノ鬱抑性感動及ヒ憤怒感動ハ疾病性反應ヲ呈スルニ至リ易ク。其ノ不意ニ起リ且其本人ノ感興(利害)ヲ震動スルモノ(又生命ヲ危害ニシ公名譽ヲ毀損ス)最モ之ヲ致シ易シ。發揚性感動ノ如キハ速ニ均平シテ自家意識ノ缺亡ヲ致スヲナシ。

若シ夫レ其結果ノ如何ニ至リテハ。一ニ其人、其時(感動震撼ノ作用セシ時)ノ血管中樞ガ、如何ノ狀態ニ在リシカニヨルモノニシテ。血管中樞ノ異常興奮性、異常虛脱性ハ、或ハ一時性タルコトアリ、或ハ長續性タルコトアリ。其長續スルハ遺傳素

質(疾病性感情刺戟性)アリ、腦髓發育制止(癡愚)アリ、機能性神經病(癲癇、癩病、心氣病、神經衰弱、舞蹈病)アリ、卒中、頭傷、精神病等ノ後ナル腦髓衰弱狀態アリ、又ハ現時ノ腦髓疾病(精神障礙ノ初、慢性中酒、腦微毒等)アリテ、其一證候タルノ時ニ之アリテ。從ヒテ血管系統ノ酒精ニ對スル異常ノ反挑性(病醜)アルコト多シトス。其一時性ナルハ血管神經中樞ノ機能障礙ヨリ出テ。消削性、疼痛性、妨眠性疾病ニヨリ、産褥ニヨリ、精神身體ノ過勞ニヨリ、食物缺乏、悲苦、憂慮、情慾ニヨリテ之ヲ致スナリ。

夫レ健強ノ腦髓モ亦感動アルニ當リテハ。之ニ疾病性反應ヲナスコトナカラス。感動震撼ト同時ニ酒精劇熱ノ合併作用スルアルキニ然リ。

疾病感動ノ證狀ハ、或ハ一時性躁狂ノ證狀ニ近似シ。或ハ昏迷狀ノ制止狀態(血管痙攣發又ハ血管麻痺ノ)トナリ。又或ハ錯

亂症ノ状態トナリテ呈露ス。其錯亂狀ナルモノハ急遽ニ妄
覺又譫妄ノ發呈スルカ、又ハ其觀念、夢中ノ如クニ錯綜糾紛
トナリ、聯合ノ制止及ヒ自覺ノ深障礙アルノミナルカニヨ
リテ、其證狀少ク異ナルアリ。精神機能ノ障礙ハ其他ニ猶ホ
（驚愕ナトニ）失語症、錯語症ノ加ハルニヨリテ益繁多トナル
ナリ。

疾病感動ノ去ルハ、多クハ急遽ニシテ、數時數日ノ後ニ來リ。
或ハ其ヨリシテ慢性精神障礙ニ移リ。又或ハ直ニ重症持續
性癡狂ニ陥キルコトアリ。

（六）分娩時及ビ分娩後ノ無意識狀態

分娩ノ際ナル身體上及ヒ精神上ノ要素ノ爲ニ精神障礙ヲ
起スコトアリ。而シテ其間ニ殺兒ノ行爲多シ。蓋シ產褥時ニ劇
甚ナル身體機轉アリ、劇甚ナル感動アリ、精神ノ紛亂アリ、一
時意識ノ溷濁乃至缺亡アリテ然ルモノナリ。

分娩時及ビ分娩後
ノ無意識狀態

分娩時ニ較著ナル失血アリ。劇烈ノ陣痛及ヒ分娩動作ノ爲
ニ神經性虛脱ヲナスアリ。臍蹻家癩痲家ニハ蠟屈症、昏醉症、
昏迷症アリテ、完全無意識狀態トナリ。其兒ニ必須ナル保助
ヲナス能ハサルモノアリ。兒ヲシテ糞中、母血中、褥物内ニ窒
息シ。又ハ臍帶ヲ結ハス、口中ノ粘液ヲ去ラス、善ク之ヲ煖包
セサルカ爲ニ死セシメ。或ハ又不完全ノ意識障礙アリ、又ハ
甚キ感動、激憤、譫妄幻覺アリテ自ラ兒ヲ殺スモノアリ。乙者
ノ如キハ重要ニシテ、診査モ難シ。

增補 法醫學提綱下編卷二

醫科大學教授醫學博士 柳

倣 纂著

醫科大學助教授醫學士 吳

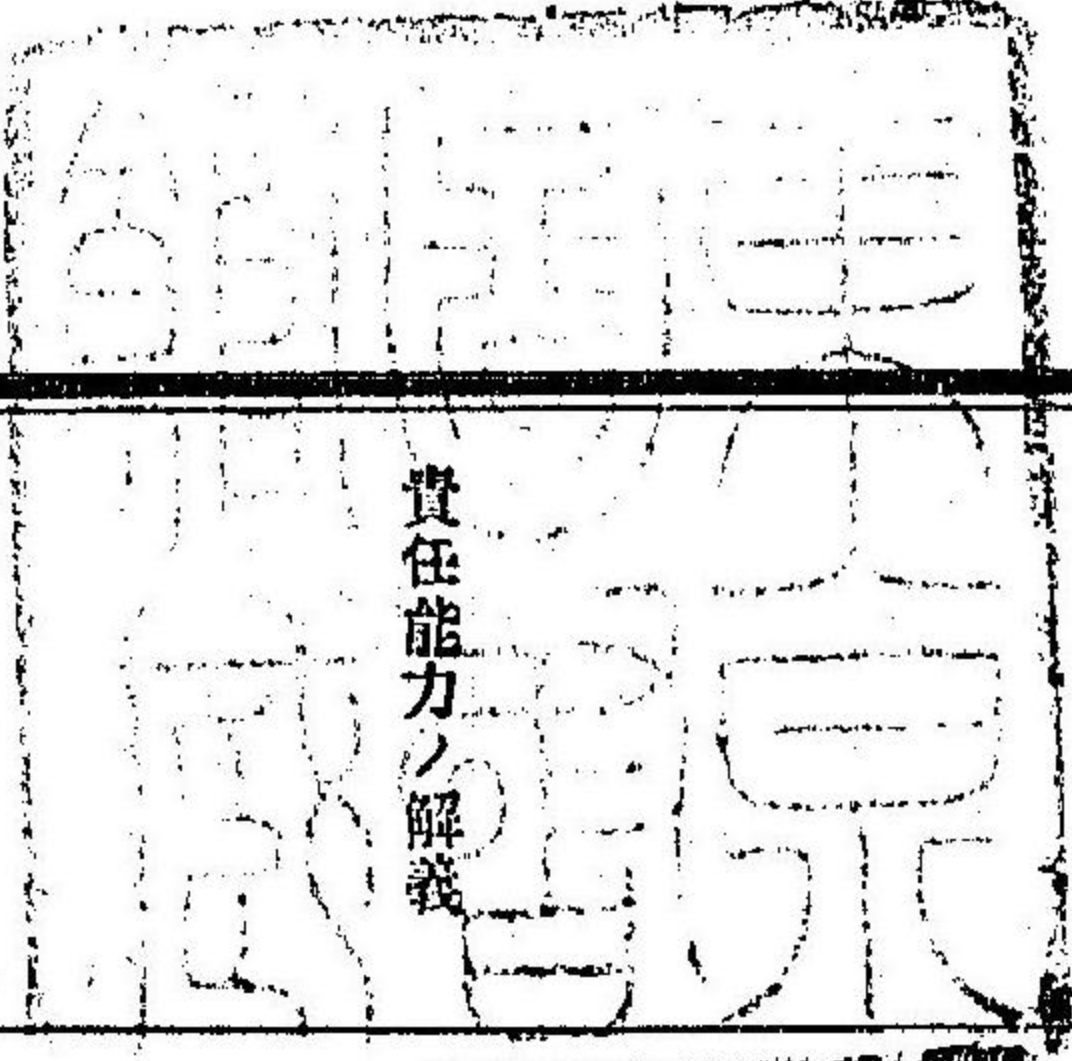
秀 三

各 論

第三十一章 責任能力ノ有無ニ就キテ

責任能力トハ、一箇人ガ一定年齒ニ達シテヨリ、法律ニ禁スル行爲ニ對シ、之ヲ行フト行フベカラサルトヲ辨ジ、自ラ之ヲ處決スルノ能力ヲ云ヒ。法律カ一箇人ニ責任ヲ負ハシムルニハ、客觀上、犯法的事實アリ、主觀上、之ヲ行フノ意思(法ヲ犯スノ故意)ト爲不爲ノ選擇能力トアルベシ。故ニ法律ハ犯罪ノ意思ノミナルヲ罪トセス。其意思ナクテ行ヒシ所爲ヲ罪トセズ。爲不爲ノ自由ナクシテ行ヒタル所爲ヲ罪トセズ。

責任能力ノ有無ニ就キテ



責任能力ノ解義

提

法律文(刑法)

第七十五條 抵抗ス可カラザル強制ニ遇ヒ其意ニ非ザルノ行爲ハ其罪ヲ論ゼズ

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラザル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同ジ

第七十七條 罪ヲ犯スノ意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論ゼズ但シ法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラズ

罪トナル可キ事實ヲ知ラズシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論ゼズ

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラザル者ハ其重キニ從テ論ズルコトヲ得ズ

法律規則ヲ知ラザルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スコト

ヲ得ズ

改正刑法草案

第六十七條 罪ヲ犯スノ意ナクシテ行ヒタル所爲ハ罪トシテ論ゼズ但法律ニ於テ其規則ヲ遵守セザルノミヲ罰シ又ハ不注意ヨリ損害ヲ生ジタル所爲ヲ罰スル場合ハ此限ニ在ラズ

第六十九條 爲、不爲ノ自由ナクシテ行ヒタル所爲ハ罪トシテ論ゼズ

此規定ハ左ニ記載シタル場合ニ於テ必ス之ヲ適用ス
(一)抗拒ス可カラザル脅迫又ハ身體ノ強制ヲ受ケタルトキ

(二)天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラザル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ救護スルニ出タルトキ
(三)自己及ビ本屬長官ノ職權内ニ在ル事件ニ付キ其長

責任能力ノ有無ニ就キテ

官ノ命令ヲ執行シ又ハ執行スルモノト相當ニ信ジ
タルトキ

第七十一條 危急ノ暴行ニ對シ自己又ハ他人ノ身體財
産ヲ防衛スル爲メ已ムヲ得ズシテ行ヒタル所爲ハ罪
トシテ論ゼズ

其防衛ノ度ヲ超ユルモ暴行ニ因リ激シキ感動ヲ發シ
直チニ行ヒタル所爲ハ亦罪トシテ論ゼズ

第七十二條 自己又ハ親屬ニ暴行若クハ重大ナル侮辱
ヲ受クルニ因リ怒ヲ發シ直チニ加害者ニ害ヲ加ヘタ
ル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ズ

第七十三條 前二條ノ規定ハ不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴
行又ハ侮辱ヲ招キタル者ニ之ヲ適用セズ但シ其所爲
ノ性質ニ因リ第七十一條ノ場合ニ於テハ其罪ヲ宥恕
シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ジ第七十二條ノ場合ニ

於テハ一等又ハ二等ヲ減ズルコトヲ得

爲不爲ノ自由之ヲ自由意思ト云ヒ其有無ヲ以テ責任能力
ノ有無ヲ云フノ標準トナス。

爲不爲ノ自由アルモノハ必ス

(一)如何ナル所爲ガ道德上排斥スベク法律上禁罰スベキ
モノナルヤヲ辨知シ。

(二)右ノ是非禁罰ニ關スル辨知ヲ以テ自家ノ感動、性慾、煩
情ヲ制遏シ之ニヨリテ我意思ヲ處決スルヲ得ルモ
ノナリ。

而シテ此二個能力ハ前掲法律文ノ如ク外來原因ノ爲ニ無
ミセラハ他又必ズ一定年齒ニ達シ精神發育ノ一定度
ナルニ至リテ後初メテ之アルベク一定年齒ニ達スト雖モ
精神ノ發育ハ單ニ年齒増加ト竝進スルモノニアラサルカ
故ニ一定度ノ教化ト撫育トヲ經ザレハ誰人モ此二個能力

責任能力ノ有無ニ就キテ

ヲ偶然ニ領得スルヲ能ハズ。不具者ハ此點ニ於テ最モ觀察
スベキモノタリ。猶又一定年齒ニ達スルモ精神發育ノ缺ケ
タルカ爲ニ彼ノ二個能力ヲ得ザルヲアリ。精神發育ノ一定
度ナルニ及ヒテモ。責任能力ハ猶疾病其他ノ爲ニ大ニ減殺
セラレ又ハ減却セラレ、トアリ。

(甲)法律上ノ未成年者(幼年者及ビ未丁年者)ノ責
任能力

法律文(刑法)

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論
ゼズ但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過ギ
ザル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得
第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者
ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナク
シテ犯シタル時ハ其罪ヲ論ゼズ但情狀ニ因リ滿二十

歳ニ過ギザル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得若シ
辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等
ヲ減ズ

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル
者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ズ

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者
ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ズ

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本
刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者……ハ其罪ヲ論ゼ
ズ

改正刑法草案

第七十四條 十歳ニ滿ザル者ノ行ヒタル所爲ハ罪トシ
テ論ゼズ但シ裁判所ハ所爲ノ情狀ニ因リ滿十五歳ニ
過ギザル時間懲治場留置ヲ命ズルコトヲ得

法律上ノ未成年者(幼年者及ビ未丁年者)ノ責任能力

第七十五條 滿十歲以上十五歲ニ滿サル者ノ行ヒタル所爲ハ其是非ヲ辨別シタルト否トヲ判決シ辨別ナクシテ行ヒタルトキハ罪トシテ論ゼズ但裁判所ハ所爲ノ情狀ニ因リ滿二十歲ニ過キザル時間懲治場留置ヲ命スルコトヲ得若シ辨別アリテ行ヒタルトキハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ズ但此場合ニ於テモ裁判所ハ刑期滿限ノ後滿二十歲ニ過キサル時間懲治場留置ヲ命スルコトヲ得

第七十六條 罪ヲ犯ストキ滿十五歲以上二十歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第七十九條 違警罪ニ付テハ滿十五歲以上二十歲ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕セス
 滿十歲以上十五歲ニ滿サル者……ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

法律上ノ成人

責任能力具備ノ初限タル年齢

法律上成人ト認ムルハ滿二十歲以上ニシテ其以下ノ年齢ハ現行刑法ニテハ之ヲ三等ニ別テ滿十二歲以下、滿十二歲以上滿十六歲以下、滿十六歲以上滿二十歲以下トナセリ。改正刑法草案ニテハ此諸區劃ニ於テ十二歲ヲ十歲トシ十六歲ヲ十五歲トシタリ。即チ現行日本法律ハ刑法上責任能力ヲ有スル年齢ノ初限ヲ以テ十二歲トスルヲハ後來ニ於テ之ヲ十歲トセントスルナリ。

埃地利國ノ刑法ヲ見ルニ。同刑法草案ハ共ニ滿十歲ヲ以テ此時期トセリ。現時法醫學ノ巨擘タル維也納府ノ大學教授ホフマン氏ハ自國ノ現行刑法カ滿十歲ヲ以テ刑法上ノ責任能力ヲ有スルノ初限トスルヲ非トシテ論シテ曰ク「此規定ニハ先一誤アリ。假令減酌スルコトハアリトモ、刑法上責任能力ヲ初ムルコト早キニ過ギタリ。滿十歲後ニモ個人ノ身體上精神上發育ハ猶ホ甚少ナキニ過ギテ。字義ヲ恢ニセハ

法律上ノ未成年者(幼年者及ビ未丁年者)ノ責任能力

猶小兒トモ謂フベク。其教育ハ初歩ノ小學訓誨サヘモ未ダ了ラズノ、風儀道德及ビ法律上ノ概念ヲ蘊蓄スルコト猶ホ甚少ナク其ノ骨肉心血ニ浸濡スルヲ甚薄シ。一面ニハ法禁ノ行爲ノ當ニ罰スベキヲ明ニスルノ辨知未タ須要ノ度ニ存セズ。他面ニハ所謂性格ナルモノ、發育少クシテ肉體ノ興發ト傾好トニ對シテ相當ノ克制ヲナスコト能ハザルモノナリ。サレハ南方ノ邦國ニテハ成熟ノ早キニモ關セズ。伊太利人サヘ新刑法ノ評議ノキニハ責任能力ノ初限ヲ滿十歳ニスルコトヲ趨起シ。少ナクハ猶半年ヲ遅クシ。猶良キハ滿一年ヲ推延セントセリ。同國ノ新刑法草案ハ爲ニ十歳ナルヲ改メテ十二歳トセリ。蓋シ埃地利刑法ハ十歳以下ノ者ノ犯行ヲナセシキ之ヲ家内懲治ニ附シ。十歳以上滿十四歳ノモノ、犯行ハ違警罪ト認メ。十四歳以上ナル人ノ犯行ハ之ヲ犯罪ト認メタルナリ。然ルニ新案刑法ハ從來刑法ニ十二

歳ヲ責任能力アル初限トセルニ。更ニ之ヲ改メテ十歳トナサントス。余輩ハ此點ニ付キテ刑法草案ニ於テ責任能力ノ領得年齡ノ初限ヲ定ムルコト早キニ失スルナキヤヲ疑フナリ。少年ニ付キテハ是非ノ辨別即チ前ニ所謂法禁行爲ヲ辨知スルノ力ハ準他、夙成シテ其非行ヲ隱秘シ又屢狡獪手段ヲ以テ之ヲ爲サントスルモノナレバ。而モ自克能力ハ其發育遅クシテ其行爲ノ法禁行爲タルヲ辨ズルニモセヨ之ニヨリテ我感動情慾ヲ制シテ爲不爲ノ間ニ選擇スルコト能ハズ能ク此境涯ニ至ルニハ各人ノ性格ノ確立シ、道德上法律上ノ觀念概念ノ完整シ以テ自姿ノ驅動ヲ抑壓スルニ足ラザルベカラズ。是ヲ十歳ノ小兒ニ望ムハ稍難キモノ、如シ。責任能力ハ單ニ年齡ヲ以テ其有無ノ限界ヲ立ツベカラズ。假令一定年齡ニ達スレハ之アリトス。一刀物ヲ斷ツカ如ク。其ヨリ以上ニ之アリ。其ヨリ以下ニ之ナシトスベキモノ

十二歳以上ノ者ノ
發成

ナラズ。責任能力ノ發達ハ漸ク以テ成ル。身體發育ノ如ク。而モ其限界ハ猶モ不分明ニシテ。且又精神ノ發育ハ人ニヨリテ各異ナルモノナルガ故ニ。彼ハ能ク責任能力アルノ程度ニ達スルモ。此ハ未タ甚遲滯セルモノアリ。故ニ日本刑法ハ滿十二歳以上十六歳未滿(草案ニテハ滿十歳以上十五歳未滿)ナルモノハ通常責任能力アリト認メテ。而モ猶ホ各人悉ク然ルベキモノトナサズ。其所爲ヲハ刑法上ニ審査シテ其犯人ニ責任能力ノ有無如何ヲ鑑考シテ。責任能力アリト認ムベキヲノミ罰シテ。而シテ他ニ特別ノ減輕事情ナキモ本刑ニ二等ヲ宥恕スベシト規定セリ。

サレハ日本刑法ニヨルニ刑法上成熟ノ疑ハシクシテ之ヲ考試スベキハ犯者カ滿十二歳以上十六歳未滿ナルキニアリ。法禁行為ヲ辨知スルノ能力アリヤ否ヤノ問題ハ之ヲ決スルハ甚難シ。醫ハ唯各箇人毎ニ其精神及ヒ身體ノ發育程

度ヲ審査シ、殊ニ機質性發育障礙ノ有無、其障礙ノ影響如何ヲ考ヘテ之ヲ具案スルノミ。此問題ノ對策ハ擔任判官ノ方寸中ヨリ出ツベキナレ。而モ其往々ニシテ當ヲ得サルモノアリ。蓋シ此問題ヲ決スルニハ當人カ多少ノ叡智、一二ノ道德上叡智上ノ辨別、事ヲ行フノ狡猾奸惡ヨリ偏頗ナル斷定ヲ下サズ。教師郷黨ノ陳述ノミニヨラズ。醫師ノ輕卒ナル審査ノミニヨラス。本人ノ自ラ罪ヲ引クノ陳述ニヨリテ決セス。是等ノ置カ法禁所爲ノ辨知力ハ淺薄ニシテ須ラク當人カ從來ノ境遇如何、法律ノ領會ヲ生ズベキヤ如何、從前辨別又ハ行為ニ於テ法律ノ領會アルヲ示セシアルヤ如何ヲ考ヘ、各箇ニ付キテ之ヲ講究スベク。又其行為自家ノ性質ヲモ願ミルベシ。蓋シ竊盜ヲ不正ナリト辨知スルハ早ク之アルモ。遺物ヲ匿取シ貨幣證券ヲ偽造スルナトノ不正ナルハ、放火ノ人家ヲ災スルハ深クシテ思フヨリモ罹災ノ廣

法律上ノ未成年者(幼年者及ビ未丁年者)ノ責任能力
十三

破瓜期

クナルベキヲナトハ之ヲ辨知スルヲ遲シ。假令此辨知ノ能力アリトスルモ、亦未タ速ニ以テ責任能力アリトスベカラズ。自由處決力ノ缺亡ハ又責任能力ヲ無ミスルヲ前ニ論ズルガ如クナレバナリ。吾人ハ日本刑法ニ是非ノ辨別ヲノミ舉ゲタルヲ以テ充分ナル義ヲ盡シタル者ト解スル能ハス。刑法ハ責任能力ノ有無ヲ審査スベキ年期ヲ滿十二歳以上(草案滿十歳以上)十六歳以下(草案十五歳以下)トセリ。然ルニ吾人精神病學者ノ經驗ニヨレハ破瓜期(即春機發動期)ハ精神機能ノ完整スルト否トニ大影響アルモノニシテ。色情ノ發育尋常ナル場合ニ於テスラ、感情ノ變化、性格ノ變化ヲナスアリ、況ンヤ其發育ニ障礙アリ、色情ノ濫妄(手淫)ヲ致シ、遺傳素累ニ基キテ精神異常又ハ神經病(癡、癱、病、等)ノ起リシキニ於テヲヤ。放火ノ如キ、放恣騷佚ヨリナス惡戯ノ如キ、旅行發明及ビ投機ノ執心ヨリ起リシ行爲ノ如キ、無謀ノ誓盟、秘

密ノ契約、他人ノ財産ノ侵奪ノ如キ此時ニ少ナカラズ。又色情充奮ノ爲ニハ風儀ノ壞亂(陰具曝露等)少女ニ對スル色情的暴虐動作(斷髮、墨、衣服等)強姦、脅迫、雞姦等アリ。女子ニ在リテハ破瓜期ノ發育障礙、萎黃症、基_之ニ機能、性神經病、精神憂鬱(望_望心、苦悶、妄覺、強_強)ノ爲ニ放火犯ヲナス_{多ク}。往時ハ之カ爲ニ追_追觀念等アリ。放火偏狂ノ目サヘ立テシ_アリキ。又性格ノ確立セサル爲メ感動(憤怒及ヒ報_報)ヨリ意外ノ犯行ヲナス_モ此年齡ニ少ナカラズ。且此年齡ニ於テハ精神病狀態ノアル_ト甚屢ナリ。サレバ責任能力ノ通常具備スベクシテ。而モ其具ラザル_トモアルヲ認許スベキノ年齡ハ之ヲ破瓜期迄ニ及ホス_ト最適當ナリ。明治二十二年中帝國大學本邦男女婚姻年齡取調委員ノ報告ニヨレハ本邦女子ノ春機發動期ハ平均十四年八ヶ月ニシテ。男子ノ同期ハ女子ニ後ル、_ト凡ソ一年ナレハ。破瓜期ハ女子ニ在リテ十五歳、男子ニ在リテ十六歳トス

法律上ノ未成年者(幼年者及ビ未丁年者)ノ責任能力

ベク。而モ千十五人ノ女子月經初潮ヲ通覽スルニ。十三年乃至十七年ハ其多分ヲ占メタリ。故ニ破瓜ノ年齢ハ男女ニ概算シテ凡ソ十三乃至十八歳ナリト謂ハサルヘカラス。サレバ現行刑法ノ十六歳ヲ以テ限リトセル。余猶ホ其稍早キニ生スルヲ疑フ。況ンヤ草案ニ於テ之ヲ十五歳ニ下セルニ於テヤ。

未成年者ノ精神病

以上ハ滿十二歳以上十六歳ニ滿サルモノニシテ、責任能力ノ發育ノ疾病ニアラズシテ遲滯セルモノヲ論セシナリ。其他此年齢ニ於テ疾病ノ爲ニ責任能力ノ廢亡スルアリ。幼者及ヒ未丁年者ニ來ル精神障礙ハ精神發育制止ノ状態(白癡、癡愚)及ビ狹義ノ精神病ニシテ、白癡并ビニ癡愚ハ或ハ生來ニ出デ、或ハ他病殊ニ腦病腦膜病ニ續發シ。或ハ頭傷ノ爲ニ起ルアリ。悖德狂又ハ衝動狂モ生來ニ出ヅルモノアリ。精神病ニテハ鬱狂ハ小兒ニ稀ニシテ、破瓜期ニ多ク、暴動發

作等激越状態ニテ傍人ニ危險ナルモノアリ。躁狂ハ準他稀ナリ。二者並ニ定期狂ノ形種ヲナスアリ。妄覺狂モ偏執狂(生來偏執狂)モアリ。破瓜期ニ於ケル精神病ハ通常臟躁、神經衰弱病、癲癩、舞蹈病等機能性神經病ト因果ノ關係アリ。

日本刑法ハ他國ノ刑法ニ同ク、犯者カ滿十六歳以上ニシテ責任能力ニ必須ナル是非ノ辨別力及ビ自由處決力トアリト認ムルモ、其ノ未タ二十歳ニ滿サルトキハ、其身體及ヒ精神ノ發育ノ完備セサルヲ打算シテ、猶成年者ヨリモ其刑ヲ輕クシ。本刑ニ一等ヲ宥恕スベシト規定セリ。故ニ我邦刑法ニ從ヘハ刑法上ノ成熟年齢ハ滿二十歳ナリ。

乙 聾啞者ノ責任能力

法律文(刑法)

第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論ゼズ但情狀ニ因リ五年ニ過キササル時間之ヲ懲治場ニ留置ス

聾啞者ノ責任能力

ルコトヲ得

改正刑法草案

聾啞者

第七十七條 生來又ハ幼稚ヨリノ聾啞ニノ滿十歲以上ノ者ノ行ヒタル所爲ニ付テハ第七十五條ノ規定ヲ適用ス但懲治場留置ノ期限ハ五年ヲ超過スルコトヲ得ズ生來又ハ最幼時ニ得シ聽覺缺亡即聾啞ハ、特別ナル教訓方ヲ以テスレハ、其精神ノ素質ヲシテ發達セシメ、其辨知力其自家處決力ヲシテ精神完備ノ常人ト甚異ナラサルノ度ニ至ラシムベキコトアリ。然レモ其教訓ハ通常人ヲ教訓スルヨリモ甚困難ニシテ、言語ノ缺亡ハ概念ノ精當廣深ヲ程度ニ於テ限狹スルコトヲ免カレズシテ、要スルニ聾啞者ノ被告タル場合ニ審査ヲ經ズシテ直ニ其責任能力ヲ有リトスルハ何ノ時ニ於テモ失當タリ。故ニ法律ハ聾啞者ニハ必ズ其是非ノ辨別(責任能力)ノ有無ヲ判決スベキヲ規定シタリ

聾啞者ノ教訓ヲ受ケシト然ラサルトノ區別

聾啞者ノ責任能力ヲ判スルニハ先ツ聾啞教訓方ヲ受ケタルト否トヲ明ニスベシ。之ヲ受ケザルモノハ白癡ト同一視スベクシテ、責任能力ノ無キコト勿論ナルモ、之ヲ受ケタルモノハ、教訓方ノ完備ナルキハ、其精神能力ノ發達益良シト雖モ、其責任能力ヲ生ズル年齢ノ初限ハ如何ニシテモ尋常人ニ後ルベク。且其發達ノ完全ヲ望ムコトハ極メテ難ク。聾啞者ハ假令的當ノ教育ヲ受ケ、其精神素質左程缺損ナク、其發育ノ充分ナル場合ニ在リテモ、猶ホ相當ノ宥恕減輕ヲ與ヘテ可ナルヘキノ理ナリ。故ニ刑法草案ニ於テ聾啞者ノ責任能力具備ノ年齢初限ヲ常人ト同ク滿十歲トセルハ他ニ對シテ權衡ノ宜シキヲ得ス。而シテ同草案ニ聾啞者ニシテ是非ノ辨別アルモノハ本刑ニ二等ヲ減シテ處分スベシト規定セルハ至當ナリ。而シテ精神發育後聾啞トナリシモノ、如キハ如何ニ之ヲ處セントスルヤ。

聾啞者ノ責任能力

聾啞者ハ是非ノ辨別アリテ而モ責任能力ノナキモノアル
 一猶ホ若年者ニ然ルカ如シ。聾啞者重聽者ハ旁人ヲ猜疑ス
 ルヲ甚シキモノニシテ。感動ハ容易ニ他ヲ克勝シテ尋常度
 ヲ踰越スルナリ。聾啞者ハ多クハ皆感動ノ爲メ又ハ強キ肉
 體慾ノ爲ニ法ニ禁スル行爲ヲナスモノナリ（報仇ノ目的ヨ
 ノ爲ニ人ヲ殺シム）
 聾啞者ノ鑑定ニハ必ス通譯家（聾啞教師）ヲ用フベシ。
 聾啞ノ伴作アリ。伴作聾啞ハ床地ノ震動ヲ知覺セズ、齒間ニ
 挿ム聲又ノ震動ヲ感覺スト稱シ。之ヲ驚慌セシメ、之ヲ感動
 セシメ、其酩酊嘔囉仿謨魔醉ヨリ醒來スル狀況ヲ察スレハ
 以テ其假面ヲ剝グヘク。又教育ヲ受ケシ聾啞家ハ筆ヲ執リ
 テ字法文法ヲ誤ラサルモ。伴作家ハ故ニ多ク之ヲ誤リ爲ス。

（丙）白癡者及ヒ精神病者ノ責任能力
 法律文（刑法）

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ
 辨別セザル者ハ其罪ヲ論ゼズ

改正刑法草案

第七十條 知覺精神ノ喪失ニ因リ是非ヲ辨別セスシテ
 行ヒタル所爲ハ罪トシテ論ゼズ

法律ガ責任能力アリト認ムル年齒ニ達シタル後モ固ヨリ
 之ガ破格タルモノナキニアラズ。通例成熟スベキ年齒ニ達
 シテ其精神ノ發育完成セシ後ニ至ルモ。猶ホ責任能力ハ疾
 病其他ノ爲ニ大ニ減殺セラレ又ハ滅却セラレ、トアリ。之
 ヲ精神病又ハ他ノ無意識ノ状態ニ罹ルモノトス。其他又腦
 髓發育制止ノ爲ニ精神作能ノ初メヨリ全ク發育セヌモノ
 發育ノ甚不充分ナル者アリ。之ヲ精神發育制止ノ爲ニ然ル
 者トス。法律ハ則チ此二者ヲ一括シテ知覺精神ノ喪失ト稱
 スレモ。醫學上ノ見解ヨリハ固ヨリ失當ノ稱ト云フベク。已

ムナクハ之ヲ尋常ナル知覺精神ノ喪失ト解釋スベシト雖
 凡。是猶ホ的當トハ認ムベカラズ。況ンヤ此内ニ於テ初メヨ
 リ精神ノ發育セサルモノヲモ包括セントスルニ於テヲヤ。
 現行刑法ニハ是非ノ辨別以外ニ術語ラシキモノヲ用ヒス。
 故ニ已ムナシ。唯改正草案ハ其第六十九條ニ爲不爲ノ自由
 ナクシテ「ノ文字ヲ用ヒナカラ。之ニ對照シテ「知覺精神ノ喪
 失ニ因リ是非ヲ辨別セズ」ト云フ。果シテ何ノ意ゾヤ。是非ノ
 辨別ナク爲不爲ノ自由ナキノ二點ハ精神病者カ犯罪ニ無
 責任ナル所以ニシテ。其一方ヲ舉ゲテ足レリトスベカラズ

(一)白癡者ノ責任能力

廣義ノ白癡ト云フ名稱ヲ以テハ白癡、癡愚(其輕キモノ)、及ヒ
 悖德狂ヲ包括シ論セントス

廣義ノ白癡即チ精神發育ノ制止ヲ受ケタルモノハ刑法上
 實地上緊要ナリ。其發育制止ノ程度ノ強弱ニヨリ之ニ應ス

白癡

癡愚

ル精神作能ノ高低アルモ。要スルニソハ尋常人即チ平均人
 ニ及バザルモノナリ。

重症ノ白癡ハ言語スラナク。全ク所動性ニシテ。飲食スラ之
 ヲ他ニ仰ク如キモノナレハ。其責任能力ヲ論ズルノ要モナ
 シ。輕症ノ白癡ニテモ。觀念ハ寡薄ニシテ形而下ニ限リ。抽象
 ノ觀念辨別ヲナス能ハズ。故ニ是非曲直ノ辨別ナク。又風儀
 法律ノ概念ニヨリテ自恣ノ動慾ヲ抑ブル能ハス。

癡愚ハ白癡ト成熟精神トノ間ニ數多ノ階級ヲナシ。其最モ
 輕キモノハ發育完成セル精神ノ者ト一銖髮ノ間ニ舛フル
 モノアリ。然レモ其既ニ癡愚トシテ疑ヲ招キシモノハ辨別
 力處決力ニ於テ尋常人ノ如ク完整スル能ハズ。但癡愚者ヲ
 バ悉ク初ヨリ責任能力ナキモノトスルハ稍失當ナリ。癡愚
 者ニシテ通常生活ニ於テ善ク自ラ身ヲ處シ。單一ナル事件
 ニ付キテハ充分ニ其是非ヲ辨ジ。又自ラ反省シテ非行ヲ抑

白癡者ノ責任能力

止スルヲ得ルモノアリ。故ニ責任能力ノ有無ハ癡愚者ニ於テハ必ス箇人毎ニ委細ニ之ヲ檢定セザルベカラズ。然レモ之カ責任能力ヲ計ルニ是非ノ辨別ノ有無ニノミ偏據スベカラザルハ、猶ホ若年者ニ於ケルガ如シ。癡愚者中是非ノ辨別アルモノアリ。而モ其辨別ハ自家ノ性格ニ基キテ生ゼシニアラズ。其自己ノ道德上叡智上ノ鑑識ヨリ出デシニアラズ。他人ノ是トシ非トスル辨別ニヨリ、耳熟概念道德概念ノ記憶ニヨリテ知ルノミ。故ニ其ハ一般ニ是ノ是タリ非ノ非タルヲ知ルト雖モ、事毎ニ時毎ニ、一々之ヲ是ナルガ故ニ爲シ、非ナルカ故ニ止ムルノ應用力ナシ。故ニ癡愚者ハ盡ク皆無責任ナリト認ムベカラズ。多少ノ法律意識アリ、多少ノ性格ヲ具ヘタルモノハ、法律上ノ責任アルベキ者ナレモ、而モ癡愚者ニハ道德上及ビ法律上ノ感觸ノ發育少ナク、其所爲及ビ所爲ノ結果ヲ熟圖スルノ能力制限セラレテ、肉體的動

慾ト薄弱ナル道德的動機ト權衡ヲ得ザルヲハ決シテ忽視スベカラザルナリ。且ヤ癡愚者ニ在リテハ聯想及ビ觀念力一般ニ遲徐ニシテ、反對動機ノ起來延滞シテ、肉體的動慾ハ其未タ發ラザルニ乘シテ其人ヲ動カシ、之ヲ犯行ニ促スニ足ルナリ。癡愚者ニ於テハ概シテ法律上ノ責任能力ノ滅却アルモノト認ムベシトナサバ、癡愚者ノ感觸ノ爲ニ動行シタル場合ニ於テハ其責任ハ皆無トナラザル迄モ極メテ甚タ減スベク。此時ニ方リテハ薄弱ナル道德的反對動機ハ殆ト發現セス、發現スル甚遲滞スベキナリ。

既ニ癡愚アリ、之ニ加ヘテ又精神病(躁狂鬱狂等)ノ發リテ、之カ爲ニ又犯行ヲ提起スルコトアリ。白癡者ノ犯行ヲ見ルニ、或ハ感動ヨリ起リテ、殺傷又ハ破壞的暴行ヲナシ、或ハ食欲慾色慾等肉體的動慾ノ亢盛シ且同時ニ道德上審美上反對動機ノ缺乏ノ爲ニ起リ、或ハ其所爲ノ

輕重ト危險トヲ意識セザルカ爲ニ危險ナル行爲(放火ノ如キ)ヲナシ。或ハ單ニ摸倣ヨリ此ノ如キ所爲ヲナスコト稱兒ノ如ク然リ。癡愚者ノ犯行ヲナスコトハ白癡ヨリモ多シ。而モ其所爲ノ自家ノ計圖ニ出ツルコトハ少ナクシテ。精神完備者ノ使喚ニヨリ又ハ欺罔恐喝セラレテスルコト多ク。癡愚者カ自ラ謀リテ自ラ爲スコトハ大抵感動又ハ動慾ヨリ出ツルニテ。放火、殺傷、風儀ニ關スル罪タリ易シ。

感動ハ癡愚者ノ精神ヲシテ紛乱シ易ク、沈思熟考ニ迫ナカラシムルコト常人ト比スベキニアラズ。殊ニ癡愚ノ重症ニシテ激越性ナルモノヲ然リトシ。誹謗冷遇、身體ノ侵犯ヲ蒙ムルキニ於テ劇甚ナル反應ヲ呈シ易シ。色慾ノ亢盛ハ白癡ニ必シモ之アルニアラズ。其重症ニ在リテハ色情ノ全然發呈セザルモノアリ。唯此亢進症アル場合ニ於テハ猥褻所爲ノ關涉ノ大小輕重ヲ解スルコト能ザルモノ多シ。食慾モ亦強劇

無省慮ニ發呈シテ。屢白癡者ヲシテ法禁ヲ犯サシム。

癡愚者ノ責任能力ヲ判定スルニハ其癡愚ノ程度ハ如何、年齡如何、教育如何、其犯シタル所爲ノ性質如何、其所爲ノ罰ニ當ルコトヲ辨知スルノ難易如何、其犯行ヲ促シタル動機ノ強弱如何、是等諸件ノ相互ノ比準如何、是非ノ辨別ニ迷ヒ之ヲ處決スルノ好機、猶豫ノ有無如何等ヲ檢定スベシ。

悖德狂ニ犯罪行爲ノ多クシテ。之カ爲ニ刑事上頗ル重要ナルハ明ナリ。而シテ此症ニモ強弱ノ別アルコト、廣義白癡ニ白癡ト癡愚トノ區別アルガ如クニシテ。其強度ナル程、是非ノ辨別并ビニ爲不爲ノ自由(自由處決力)少ナシ。サレハ此種ノ人ニ凡テ責任能力ナシトスルハ失當ナルモ。要スルニ其人ハ某々ノ所爲ノ法律ニ禁ゼラル、コトヲ形式上ノミニ知ルモ。其風儀法律ニ關スル眞義ヲ解セス。道德上審美上ノ感觸ナク。彼ハ法律ヲ見テ無用ノ煩累トナスノミ。其所爲ハ吾身

ノ利損ニ付キ自恣ノ動機ニ克制セラレテ。風儀法律ノ感觸概念ヨリ之ヲ中止スル能ハズ。然レモ此爲不爲ノ自由ノ缺乏スルヲ。罪人ノ如ク天賦ノ素質ハ善良ナルモ反對的矯正動機ノ養育教習ノ不全失當ノ爲ニ薄弱トナリ又ハ自恣放逸ノ動慾ガ感動情慾ノ爲ニ増劇セルニアラズシテ。腦髓結構機ノ異常ナル爲ニ彼ノ反對的矯正動機ヲシテ起ルコト能ハズ。加之肉體的動慾ヲシテ疾病的増進セシムルニヨルナリ。之ニ由リテ悖德狂者ニハ爲不爲ノ自由是非撰採ノ自由ナキノミ。而シテ其所爲ノ性質自家ハ固ヨリ直ニ其疾病ニヨルカ然ラサルカヲ判別スベキ標鵠トナルモノニアラザレモ。其食慾倒錯、色慾倒錯又ハ罔妄疎濫ノ行爲トナリテ現ハル、カ爲ニ其人ニ疾病的精神不全アルヲ推スベキト少ナカラズ。

癡愚、悖德狂、及ヒ重深ノ遺傳アリ所謂精神變質症ナルモノ

ニ、主トシテ多ク見ル證候ニシテ、殊ニ刑事上ニ關涉多クシテ重要ナルハ色慾ノ異常ナリ

色慾ハ人身早熟ノ結果トシテ夙ニ發生スルヲアリ。又色慾ノ異常ニ強劇ニ發呈スルヲアリ。是等ハ其人ノ自恣ノ動機ノ強ク自克ノ能力ノ薄弱ナルモノニ於テ其症ノ爲ニ法禁ヲ犯シ易シ。

色慾ノ倒錯ト稱シテ尋常ノ交媾方ニテハ快美飽充ヲ覺ヘスシテ。交媾ニ異常ノ方法ヲ取り。又ハ異常ノ方法ヲ以テ色情ヲ足ラスモノアリ。其甚キ交媾中又ハ交媾外ニ對手ヲ虐待シ殺傷シ其肉ヲ食フアリ。或ハ屍ニ就キテ姦シテ快感ニ堪ヘサルモノアリ。色慾轉倒トテ同性ノ人ヲ戀愛スルモノモ此ニ屬シ。嫉妬ヨリ或ハ殺傷ニ至ルヲアリ。雞姦自ラ足レリトシテ更ニ他性ニ傾向ヲ有セサルモノモ亦其一ナリ。

(二)精神病者ノ責任能力

白癡者ノ責任能力、精神病者ノ責任能力

狹義精神病者ハ法律上、知覺精神ノ喪失ト總稱スル一狀態中ニ包括セラレテ、其病アルモノハ是非ノ辨別ナキヲ以テ法律其所爲ヲ罪トシ論ゼズ。而シテ「知覺精神ノ喪失」テフ七字ノ白癡ヲ稱スルニ適セザルコトハ既ニ述ベタリ。ソハ又精神病ヲ稱スルニモ適セザルナリ。何トナレハ精神病中ニ知覺ナク精神機能ノナキ所謂皮肉中ニ植物機能ノ宿リタリト云フベキガ如キモノモ之アリト雖モ、多數ノ精神病ニハ其精神生活ノ機轉カ尋常度ヲ失シテ事情ノ變異シタル爲ニ異様トナレルニテ、決シテ全ク常態ト關係ナキ程ニ一變セルニアラズ。健精神ニ一回モ來ルコトナキ精神機轉ノ起ルコトナク、猶ホ胃加答兒症ニテ平生存スベキ胃酸分泌ノ病ノ爲ニ増減スルノミニテ、平生嘗テナキ事件ノ生ジ來ルコトナキガ如シ。故ニ精神病者ニモ知覺アリ精神アリ唯其異常ニ經過シ異常ニ興廢スルノミ、諸種ノ無意識ノ狀態、續發性痴

精神病者ノ是非辨別力

精神病者ニ意思自由ナキ理

狂又ハ諸精神病ノ最終末期ニ於テハ或ハ知覺精神ノ喪失アリト謂フベキカ。精神病ヲ包括シテハ此ノ如キノ用語ヲ容ルベカラス。

精神病者ニハ是非ノ辨別ナキモノアリ。而モ其ノ全ク缺亡セズ、是ヲ是トシ非ヲ非トスルノ能力ハ存スルモノアリ。唯諸種ノ精神病ニ通シテ之ナキモノハ爲不爲ノ自由ナリ。法ニ禁ズル行爲ノ罰スベキコトヲ知ルモ、其之ヲ抑留スベキ反對觀念ノ病ノ爲ニ發起スルコト能ハズ又ハ病ノ爲ニ妨ケラレテ之ヲ制壓シ去ルコト能ハザルナリ。故ニ精神病者ノ所爲ヲ是非ノ辨別ナキガ爲ノミニテ罰セズトスルハ妥當ナラズ。

精神病者ニ爲不爲ノ自由即所謂意思自由ナキハ左ノ三點ニヨル

(一) 腦髓ニ疾病アリ。之ニヨリテ、感動、感情、性慾、志欲、妄想、妄

精神病者ノ責任能力

覺ノ亢盛發動アリ。之ヲ動機トシテ其人ノ行爲ヲ提起ス。而シテ其動機ハ皆病ノ爲ニ甚強劇ナリトス。

(二)其人ヲ法禁所爲ニ致スノ動機アルキ。之ニ對シテ道德上審美上法律上ノ反對動機ノ發スルコトナシ。何トナレハ此反對動機ハ

(イ)或ハ腦病ノ爲ニ他ノ高等精神作能ト同ク全ク缺亡スルコトアリ(精神衰弱ノ諸症ノ如キニ然リ)

(ロ)或ハ疾病ノ結果トシテ意想聯合ノ障礙アリテ。之カ爲ニ意識内ニ興起シ來ラサルコトアリ(鬱狂躁狂ノ如キニ然リ)

(三)妄想妄覺アルカ爲ニ自家意識世界意識ヲ惑亂シ。之ニヨリテ其本人ノ性從前トハ一變シテ新異ナル疾病の本人トナリ(妄覺狂、偏執狂ノ如キ然リ)。其ノ法禁所爲ヲナスルモ。發病前ノ本人カ犯スニアラスシテ。精神上別異

鬱狂

ノ人ガ犯シタルナリ。即チ此場合ニ於テハ其人ハ發病ノ前後ニ於テ法律上ノ本人性ハ變ラサルモ。心理上ニハ別異ノ本人トナレルナリ。

(一)鬱狂ヲシテ常ニ抑伏憂鬱沈黙ノ状態ナラシメハ、刑事上論議スルノ興趣少ナシ。然レモ鬱狂者ハ常ニ必シモ此ノ如クナラズシテ、屢劇甚ナル暴行ヲ提起シ、且躁暴狂者ト殆ント別ツベカラサル程ノ運動不穩アリ。是ニ於テカ鬱狂モ亦法醫學上ニ重要ノ疾病タリ。

鬱狂者ノ能動性トナルハ、胸中ノ苦痛ノ堪ヘ難クシテ、甚キハ危懼或亂ノ狀ヲナスニ至ルコトアリテ、之カ反動トシテ來ルナリ。即チ之カ爲ニ劇烈ノ感動ヲ惹起シテ一時精神ノ制止作用ニ克勝シテ暴發スルナリ。此感動ヲ惹起シ、此反動ヲ提起スルモノハ、或ハ苦痛ノ感覺タリ。或ハ痛惱ノ追想タリ。或ハ身體ノ不快(神經痛)タリ。或ハ精神ノ不快(慰樂ノ毫モナ

キ精神感覺脱失、考慮制止、強迫觀念、意思缺乏、等ヲ感スル爲
タリ。其他又堪へ難キ苦悶(怔忡)妄覺妄想ノ之ニ加ハリテ且
行爲ノ動機タルヲアリ。

(イ)心痛ニヨル暴行 鬱狂者ハ譫妄ナク思慮ノ障礙ナク
唯其心痛ヨリ甚キ暴行ヲナスヲアリ。精神感覺倒錯ニヨ
リ浮世生命ノ頼ムベカラサルヲ感シ。倦厭ノ惱煩ニ堪へ
ス。考慮觀念ノ制止セラレ。後來ノ悲慘ヲ豫期憂苦シ。自ラ
能クセス爲ス能ハス思フ能ハサルヲ痛恨シ。疾病ノ変去
スベカラサルヲ恐怖スル等ノ爲ニシテ、危疑惑亂驚慌ノ
状態ヲナシ。此ニ至リテ遂ニ自身又ハ他人ニ對スル暴行
ヲナスニ至リ。而シテ其暴行ニハ外見上多少ノ原因アル
カ如キヲアリ。而シテ其疾病ニヨルハ其反應ノ劇甚ニ
シテ。外因ト比準スルノ少ナキトキニ於テ最分明ナリ。
自殺ハ鬱狂者ニ多ク見ル所ナリ。又關接ノ自殺トテ多ク

ハ怯懦ノ爲メ意思缺乏ノ爲メ。獨リ自ラ殺スヲ能ハスシ
テ。犯罪ニヨリテ自ラ終ラントスルヲアリ。他人ヲ殺害シ
又ハ死ニ處セラルベキ罪ヲ犯シ。且自ラ訴ヘテ吾意ヲ達
セントスルヲアリ。此ノ如キモノニハ大抵叡智ノ薄弱ア
リ。又自ラ忍ハスシテ而モ却テ人ニ忍ブノ意思倒錯アリ。
又生命未來ノ自家ニ非ナルカ爲ニ之ヲ家族ニ推度シテ。
慈愛ヨリ之ヲ殺スヲアリ。主人タル自己ノ死ノ爲ニ子女
等家族ノ生養ニ苦ムヲ憐ミテ吾手ヲ以テ已ニ殉セシム
ルアリ。鬱狂者ハ又自家不能ヲ煩憂スルヨリ。誠ニ其ノ如
クナルヤ否ヲ試ミンカ爲ニ。終極ノ力ヲ盡シテ物具ヲ破
壞シ又ハ人家ニ放火スルヲアリ。倦厭、恐懼、心内ノ寂寥ヨ
リ。其憂悶ヲ遣散セントシ、其緊滿ヲ弛解セントシテ暴行
ヲナスアリ。
心痛ノ一タル望郷心ヨリ種々ノ法禁行爲ヲナスモノア

精神病者ノ責任能力

リ。此症アル患者ニハ其觀念ハ故郷ノミニ關シテ強迫ノ考慮アリ。其憂苦ヨリ又ハ妄覺(故郷ヲ祝又ハ家人ノ聲ヲ聽ク)ヨリ又ハ苦悶、強迫觀念ヨリシテ。放火ヲ以テ郷里ニ至ルヲ得ントシ。又ハ一時ノ憂悶ヲ擺脫セントス。

鬱狂ニハ痛憂性ノ強迫觀念アリ。是レ亦暴行ヲ惹起スルヲ多シ。

心痛又ハ強迫觀念ヨリ出デシ暴行ノ際。偶然劇甚ナル感動ノ加ハリテ。患者ノ思慮ヲ溷濁ナラシムルニアラサルヨリハ。其所爲ハ極メテ冷淡ニ慎重ニシテ方法ニ違ヒ。決シテ自恣ノ目的ヨリ施スコナク。其暴行ヲナシ終ルヤ。其患者カ我目的ヲ遂ケンガ爲ニ取リタル方法ヲ盡シタルニヨリテ。從テ必ズ精神ノ輕脫エントラステンツアリ。或ハ鬱狂ノ一時間歇スニ至ル。此ノ如キキニ於テ患者ハ其所爲ノ輕重ト結果トヲ善ク辨知シ。己レ自ラ法術ニ告クルモノアリ。而シテ

此ノ單一性鬱狂ノ責任能力ナキコトハ疑フベクモアラズ。是非ノ辨別ハ之アルモノ、如クナルモ。其所爲ノ當時ニハ其辨知暗昧トナリ。心痛ノ甚キニ勝ツ能ハズ。意識内容ヲ盡ク其心痛ニ相當シテ。一モ反對ノ觀念ヲ發セシメス。客觀界ハ疾病的感應ニ映シテ其真相ニ現セサルヨリシテ。思慮熟圖ナク、又自由處決力ナシ。其所爲ハ疾病的感覺感動觀念ノ反動ニシテ。病ノ爲ニ内界ヨリ特發シタルニテ。患者カ自ラ可トシテ取リシモノニアラズ。病ノ爲ニ強ヒラレテ然ルノミ。患者ノ感覺觀念ヲシテ病ノ爲ニ亂レザラシメバ。患者ハ決シテ此ノ如ク意思セス、又此ノ如ク行爲セサルナリ。故ニ其行爲ハ犯罪トスベカラズ。

(ロ)苦悶ニヨル暴行 鬱狂者ノ苦悶怔忡ノ爲ニ暴行スルコトアリ。而シテソハ外界ニ目的アリテ之ヲ遂クルガ爲ニ爲スニアラズシテ。唯我心内ノ懼ルベク堪ユベカラサル

精神病者ノ責任能力

苦痛ヲ除却セントスルガ爲ニナスノミ。時トシテ其間ニ
 恐ルベキ妄覺、四周ノ仇讐的誤認、命令的幻聽又ハ譫妄ノ
 起リテ暴行ヲ左右スルヲアリ。而シテ患者ノ痛覺脫失ハ
 自殺ニ易カラシメ。其精神感覺脫失ハ他人ニ對スル暴行
 ヲ爲シ難カラサシメ。其所爲ハ意識溷濁ノ爲ニ無謀、濫
 暴、殘酷、慘烈ニシテ。之ヲ遂ゲタル後ハ患者爲ニ大ニ輕爽
 ヲ覺エ。安靜トナルモ。其暴行ノ重キモノ、片ニハ悔悟、自
 殺、自訴等ニ至ル。

(ハ) 妄想、妄覺ニヨル暴行モ亦鬱狂者ニ少ナカラス。自殺ハ
 其空想ニ出ツル苦惱追跡ヲ免カレンカ爲メ、犯罪ヲ贖ハ
 シカ爲メ、自ラ怪物妖獸トシ之ヲ世ニ除カン爲メ、世界滅
 亡セシ故吾身モ亦命ヲ終ラントスルカ爲メ、或ハ幻聽ノ
 命スル所ニヨリテ之ヲナシ他人ニ對スル暴行ハ之ヲ己
 ニ害ヲナスモノト誤認スルニヨル。又世ノ澆季人間ノ不

躁狂

幸ヲ痛ミ宇宙ノ滅亡ヲ空想スルヨリ愛ノ爲ニ子女ヲ殺
 スニ至ルヲモアリ。

妄想妄覺ヨリ出デシ所爲ハ感動ノ之ニ加ハルヲナキ以
 上ハ患者ノ思慮、計畫等ヲ無ミスルモノニアラズ。暴行後
 ノ狀況ハ妄想ノ揮散性(一時其愛苦驚慌又ハ妄)ナルト堅
 久性ナルトニヨリテ異ナリ。其揮散性ナルキハ所爲後ニ
 懺悔ノ來ルヲ前諸項ニ舉グル暴行ノ如クナルモ。其堅久
 性ナルキハ患者ハ其所爲ヲ疚トセズ且毫モ此ニ管心ス
 ル所ナシ。

妄想ノ所爲ハ爲不爲ノ自由ナキヨリ出ツルモノナリ。何
 トナレハ妄想ハ一病候ニシテ、其前提誤マリ、意識ノ溷濁
 ノ爲ニ矯正シ能ハザレハナリ。

(二) 躁狂ニ發揚狂躁暴狂ノ區別アリ。而シテ刑法上發揚狂ノ
 重要ナルヲ躁暴狂ニ過キタリ。蓋シ躁暴狂ハ多クハ其證候

精神病者ノ責任能力

著明ニシテ、俗人モ猶ホ能ク之ヲ見透スベキモ、發揚狂ニ在
 リテハ、一見、思慮ヲ具フルカ如ク、且叡智作能アルカ爲ニ、甚
 タ判知シ難キ故ナリ。發揚狂ハ之ヲ比スルニ猶ホ飲酒後ノ
 發揚ノ如クニシテ、其障礙甚輕キモ其人ニハ猶ホ責任能力
 ナシ。是レ一ハ性慾及ヒ肉體的興奮ノ疾病ノ爲ニ増進スル
 ニヨリ、一ハ觀念機轉急促トナリ、爲ニ事ヲナス前ニ沈思靜
 慮スル能ハスシテ、其所爲ニハ動機アリ且完全意識アルモ
 而モ(疾ノ爲ニ)強制セラル、ヲ免カレズ。且又酩酊者ト同ク
 其思慮ニ一種ノ障礙アリテ一時、道德上審美上ノ矯正觀念
 ヲ無ミスルガ如キモ亦看過スベカラサルヲナリ。
 躁狂ノ法律ニ抵觸スルハ四ノ一ニヨル。一ハ性慾特ニ色慾
 ハ亢進ニシテ、發揚ノ輕症ニハ不道德ノ行狀(色荒遊蕩、無謀
 ノ愛契)ヲナスノミ。躁暴狂ノ病頂ニ至リテハ、色慾疾病ニヨ
 リテ亢進シ、廉耻風儀ニ頓着ナク(淫亂症)、手淫ニ強姦ニ人前

妄覺狂

ニ耻ツルヲナシ、之ト同ク飢餓、嗜好等ノ肉慾ヨリ竊盜ヲナ
 ストアリ。二ハ其刺戟性及ヒ自家感覺ハ亢盛(自誇)ニシテ、思
 者ノ誇張ナル計圖ニ抵抗シ之ヲ制遏スレハ、聊モ之ニ勝ヘ
 スシテ劇烈荒暴ナル反動ヲ呈スルヲ常ナレバ、之カ爲ニ他
 人ノ名譽ヲ毀損シ、他人ト紛鬪シ殺傷シ公衞ヲ煩擾殘害シ
 法禁ニ違犯スルヲ少ナカラス。三ハ性慾狀ハ衝動ニシテ、發
 揚ノ輕症ニハ(負誇倨傲)ヨリスル行爲ノ如ク、爲ニ遊蕩、盜竊、
 酒荒シテ他ノ名譽財産ヲ意トセス。其重症ニ至リテハ、破壊
 ノ動欲劇クシテ手ニ當ルモノヲ毀害シ、器具、人命、財産(放火)
 ニ擇ブ所ナシ。四ハ妄想及ビ妄覺ナリ。
 (三)妄覺狂ニ罹レル者ノ行爲ハ極メテ唐突ニシテ豫メ察ス
 ベカラズ。妄覺妄想(追跡妄想、被毒妄想)ニ對スル反應タリ。此
 ノ如キ患者ハ旁人ヲ己ヲ害スル者又ハ鬼物動物ト誤覺ス
 ルニヨリ又ハ追跡性、命令性ノ幻聲ニヨリテ暴行ヲナシ易

定期狂及ビ回歸狂

ク。又自ラ苦惱ニ堪ヘスシテ自殺又ハ遁逃企圖ヲナスコトアリ。極メテ自他ニ危険ナリ。

(四)定期狂ノ鬱狂種ハ無譫妄性トシ。躁狂種ハ發揚症トシ來リ。其刑法ト抵觸スルコト。鬱狂及ビ躁狂ノ條ニ述ベタルヲ參看スベク。定期躁狂ハ兼テ性慾ノ倒錯、詐偽、紛争ノ傾向、遊蕩、竊盜酒荒色荒ノ傾性ニヨリテ、公安ヲ害シ且刑法ニ抵觸スルアリ。

回歸狂ハ躁狂狀態ノ鬱狂狀態ト交承スルモノニシテ。其躁狂期ニハ法ヲ犯ス行爲アリ易シ。

定期性譫妄ニハ錯亂狀態ニシテ意識ノ深障礙アリ。定期性疾病慾狀態ハ機質上ノ強迫ヨリ酒荒色荒ニ致サレテ毫モ自ラ制スル能ハサルモノナレバ。二者モニ責任能力ナキコト明ナリ。

偏執狂

(五)偏執狂一般ノ法醫學上重要ナルコト、及ビ其各種ノ症候ハ

既ニ總論ニ述ベタリ。

追跡妄想アル偏執狂者ハ外界ヲ讐敵ナリト自覺シ。之ヲ以テ我身體、我利益ヲ損害スルモノトスルガ故ニ之ヲ抗拒シ之ヲ逆襲スルモノナリ。其他殺ハ正當防衛ノ狀ヲナシ。決シテ密ニ之ヲ害セズ。白晝公道人目ノ證明多キ所ニテ之ヲ屠戮シ。其何故ナルヲ默秘セズシテ。却テ其事ヲ遂ゲタルヲ揚言シ。其事ニ計圖アリ且無顧慮ナルハ注目スベキコトナリ。但患者ガ苦悶發作ノ爲又ハ卒然起リタル幻覺ノ爲ニ暴行スルモノミ此計圖ナシ。又或ハ我被害ヲ公ニセンカ爲ニ故ナク人ヲ殺シ又ハ其他ノ犯罪ヲナスコトアリ。又其苦惱ヲ脱セシムルガ爲ニ自殺スルコトアリ。

此種ノ狂者中法醫學主要ノ位地ヲ占ムルモノハ好訴狂ナリ。

發越性妄想アル偏執狂ハ發揚自誇ノ性質ニシテ。他ヨリ激

續發性精神衰弱

厲サル、ト少ナク。又其妄想ハ他人ヨリシテ之ヲ鑑識シ易キガ故ニ其公衆ニ危険ナルト追跡妄想アルモノ、如クナラズ。

(六)續發性精神衰弱續發癡狂ハ其人ヲシテ刺戟性ナラシメ、智道徳上ニ薄弱ナラシムルニヨリテ、他人ノ所爲ニ暴劇ナル反動ヲナシ。之ニ甚キ暴行ヲ加ヘ。其心ノ轉動シ易ク且精神ノ薄弱ナル爲ニ、他人ノ願使ニ應シテ詐欺盜竊ヲナシ。記憶ノ薄弱ナルニヨリテ錯誤ナル誓約ヲ締ビ。色慾ノ疾病的亢進シテ、道徳的動機ノ之ヲ控制スルナキ爲ニ、姦淫ノ罪ヲ犯シ風俗ヲ壞亂スルヲアリ。又從前ノ妄想ノ殘餘ニ基ツキ時々發來スル躁暴狀態又ハ有苦悶性戀愛狀態ノ爲ニ暴行スルヲアリ。

其檢案ニ當リテハ、必ス其各箇人ニ付テ聯想能力、動行能力、再生能力、辨別概念ノ作能、考慮ノ經過ノ遲速、志欲ノ性狀、感

老耄狂

情興奮性ノ程度、特ニ道徳上ノ觀想、審美上ノ辨別ヲ考試スベク。此ノ如クニシテ然ル後初メテ其責任ヲ論ズベシ。

(七)老耄狂ノ法ニ問ハレントスルハ強姦罪タルト最多シ。強姦ハ殊ニ小兒ニ就キテ之ヲ加ヘントスルナリ。是レ或ハ道徳心薄弱トナリテ淫慾ハ猶ホ存スルニヨリ、或ハ腦髓ノ病機ノ爲ニ淫慾再發シ同時ニ精神ノ薄弱ナルニヨル。若シ此種ノ犯罪アルニ當リテ、其人老衰シ色慾ハ既ニ夙ニ消失シ從來淫佚ナラザリシ人ニ情慾劇ク呈シ、且無省顧ニ、無羞耻ニ、倒錯方ヲ以テ之ヲ遂ケントスルキハ其疾病ノ爲ナルト多シトス。老耄狂ノ初期ニ於テハ道徳心大ニ衰ヘテ肉慾ヲ制シ其所爲ノ輕重ヲ辨ズル能ハサルモ、猶智ノ衰耄未ダ甚ダシカラズ、其非行ノ暴露人ニ知ラル、ヲ防ガントスルモノアリ。此ノ如キモノハ之ヲ鑑別スルト難シ。經過中、前ニ躁狂狀態、色情的妄想、淫亂症等アラハ猶ホ鑑定シ易シトス。

麻痺狂

鬱狂状態アルモノハ餓死滅亡ヲ避ケシメンガ爲ニ宗族ヲ殺スヲアリ。追跡妄想兼苦悶發作ハ誤認ニ出ツル被害者ニ對シ殺傷鬪爭ヲナスアリ。

(八)麻痺狂ハ前驅期ニ於テ専ラ道德心ヲ薄弱ニシ。俗人ニハ但患者ヲシテ稍不徳ニ見エシムルノミ。患者ハ其業務ヲ怠リ。容飾ヲ勉メズ。他人ノ虐待、毀傷、名譽損害、貴人ニ對スル不敬、公衛ニ對スル抗爭、不徳義、色荒、放蕩等ヲナシ。心中ノ紛亂ト健忘トヨリ他人ノ所有物ヲ押領シテ其狀竊盜ノ如ク。計算ト登簿トニ錯誤ヲ致シテ故意ノ偽作ナリト疑ハレ。或ハ又放火等ニ至ルモノアリ。發揚期ニ於テハ酒荒アリ。色荒アリ。他人ノ財物ヲ押領スルアリ。色慾ノ亢盛ハ家内ノ騷動、風俗ノ壞亂、痴情ノ危害、詐欺、鬪爭ヲ醸シ。感情ノ刺戟性ニシテ酒精ニ堪エス以テ客舍住居ヲナスガ爲ニ。毆打、罵詈、加傷、警衛反抗ヲナスヲアリ。既ニシテ妄想ノ加ハリ起ルニ及ビテ

ハ濫妄ノ投機、無用ノ買收贈遺ヲナシテ自家ノ財産ヲ盡シ。又他人ノ所有ヲ我物トシテ押收スルアリ。精神衰弱ノ甚シキニ及ビテハ意識障礙ノ深キ爲メニ頗ル危険ニシテ。自他ノ別ヲ知ラズ。時間場所ノ辨別ナク。我家トシテ他家ニ入リ。我物トシテ器財ヲ輸致シ。他人ノ田圃ニ播種シ。濫多ノ動行ニヨリテ種々ノ損害ヲ致シ。居ル所ヲ竈又ハ爐ト思ヒテ火ヲ點シ、燃へ上ル物ヲ四周ニ散ラスヲアリ。此時期ニ於テハ盜竊多ク耻モナク秘シモセズ。他人ノ(屢賤廉ナル)モノヲ取リ。其方法又淺薄ニシテ最モ發覺シ易ク。健忘ノ甚シキ。竊取後直ニ縛セラル、モ。而モ既ニ其何ガ爲ニ然ルヲ知ラズ。其狀狡兒ガ詐ヲ構フルニ似タリ。觀查ハ病院ニ於テスベシ。彼ハ如何ナル物ヲモ私シ。常ニ其袂ヨリシテ種々ノ(或ハ賤シキ)物ヲ搜出シ得ベシ。誇大妄想、辨別ノ薄弱、妄覺ハ賤ヲ貴トスル。此ノ如ク。且自他ノ概念、法律道義ノ概念ナキ爲ニ

精神病者ノ責任能力

神經衰弱狂

窃盜ヲ敢テスルナリ。意識障礙ノ甚シキ。爲ニ其行爲ヲシテ遲緩、疎拙、無顧慮、殘忍、無計圖ナラシム。

(九)神經衰弱狂ハ臟躁狂、癩癩狂等ト同ク責任能力ノ問題ニ關係少ナカラズ。

神經系統ノ刺戟性衰弱ノ影響ノ爲ニ精神原障礙ヲシテ特ニ著シカラシメ。之ニヨリテ罪責ノ減輕ノ理由ヲナシ。又其原障礙ノ層見疊出ハ責任能力ノ存スルヲ疑ハシムルナリ。加之其身ノ機能(殊ニ血管運動ノ機能)ノ平衡ヲ失ヒ易キハ患者ノ感動ヲシテ甚シク機質上ヨリ發動シテ。之ヲ疾病感動ノ程度ナラシメ。且一般ニ知覺ノ紛亂(即疾病の意識ノ缺亡)ノ状態ニ至リ易カラシムルモノナリ。

神經衰弱狂ハ或ハ一時狂状態ヲナシ、意識缺亡ニ至ルカ爲ニ。法醫上ノ價值ハ他ノ疾病の無意識状態ニ同ク。或ハ慢性癩狂状態ヲナシ。其法醫上ノ價值ハ他ノ神經衰弱症ニ基ツ

臟躁狂

カサル病種ニ同ク。強迫觀念狂モ其觀念ノ累現シ、且劇感動、苦悶ヲ隨伴スルキニハ。其爲不爲ノ自由ノ有無頗ル疑ハシク。又此種ノ者ニハ鬱憂狂ノ暴動發作ノ如キ「苦悶暴發」ノ所爲アリ。カ、ルキニハ意思自由ハ全ク缺亡ス。

(十)臟躁狂 臟躁狂ニハ一種ノ精神原障礙アリ。輕キハ家人家醫ヲ惱マスノミナルモ。意思ノ薄弱、道德的動機ノ弛廢スルニ及ヒテハ屢法ニ禁スル所爲アリ。疾病性感應違和、自恣感情刺戟性、愛憎ノ故ナキ劇變、想像ノ紛興、再生ノ錯違、人ノ耳目ヲ聳動スルノ思欲、色事感覺ノ異常、強迫觀念等ノ爲メニ此ニ至ルナリ。其責任能力ノ有無ヲ別ツコトハ極メテ難ク。各人各例ニ付キテ講究セサルヘカラズ。單一ノ臟躁家ノ責任アリ、臟躁狂者ノ無責任ナルコトハ、共ニ疑フベキコトナシト雖也。其健疾兩間ニハ原障礙ノ多寡繁簡ニヨリテ推移ノ階級數多アリ。疾病の感應、疾病の感動、疾病ニ基ク性慾ノ倒錯

精神病者ノ責任能力

觀念ノ外形上内容上ノ障礙ニヨリテ意思ノ常ヲ得サルアリ。其人ヲシテ或ハ責任不能ナラシム。故ニ鑒定家トシテハ當ニ臆躁ノ程度ヲ確定シ。且其ノ其人ノ感觸考慮行爲ニ於ケル影響ヲ説明スベシ。臆躁家ニ異常ノ感觸アリトテ爲ニ自由意思ナシ又は非ノ辨別ナシトハ云フベカラザルモ。自克ノ能力及ヒ内外原因ヨリノ衝動ヲ抗拒スル能力ノ常人ヨリ薄弱ナリトハ認メザルベカラザルヲ多カルベク。是レ亦刑罰ヲ減輕スルノ事狀トハナルヲ得ベシ。

一時性臆躁狂ハ稀有ナレハ癲癇ノ同様症ノ如ク緊要ナラズ。且意識障礙モ輕ク。妄覺妄想ノ内容モ驚怖スベキモノ少ナク。其所爲ノ夢寐ノ如ク且無意識ニ行ハレ。其時ノ追想濁濁又ハ缺亡シ。發作ノ前後ニ臆躁性前驅症及後繼症アリ。懦弱性間代性痙攣強梗又ハ大舞蹈病疾病ノ合併アルガ如キハ犯行當時ノ精神狀態ノ診斷ニ須要ナリ。

癲癇狂

慢性臆躁狂ニ責任能力ナキハ言ヲ須タズ。而シテ其診斷ハ往々ニシテ甚難シ。診斷上ノ要標ヲ詳盡シ。觀查ノ時ヲ充分ニシ。殊ニ其證候ノ梗概ヲ通覽シテ其一事一行ニ拘泥セザルベシ。患者ハ往々伴狂シ。且故意ニ病症ヲ混加スルヲアリ。之カ爲ニ誤ラルベカラズ。且又伴狂アリタリトテ其者ハ精神病者ニアラズトハ云フベカラズ。諸種ノ精神病特ニ此病ニハ病症ヲ誇稱虛構スルノ傾向アルモノナリ。

(十一)癲癇狂 癲癇家ハ道德上叡智上ノ抵抗力ノ薄弱ナル爲ニ感動性興奮自恣ノ衝動不習儀ノ衝動ヲ制スル能ハズ。其刺戟性ニシテ疾病感動アルニヨリテ暴行ヲナシ。其幻覺追跡妄想強迫觀念苦悶等ノ癲癇前癲癇後ノ錯亂感應違和ト合シテ甚シキ暴行ヲナサシム。

癲癇患者ノ責任能力ニ就キテハ明確ニ之ヲ言フヲ得ベシ。癲癇者モ時トシテハ一生涯精神障礙ニ罹ラザルヲアレバ。

精神病者ノ責任能力

癲癇病アリタレハトテ。直ニ其人ヲ罪ニ問ハストスベカラズ。而モ是等ハ破格ニシテ。癲癇者ノ多數ハ一時又ハ長續ノ精神病アルガ故ニ癲癇者ノ法庭ニ訊鞠サル、場合ニハ其責任能力如何ヲ考究スベシ。

癲癇ノ變質ノ著キモノニ責任能力ナキハ疑ヒモナケレド。其人カ(少クモ檢診時ニ)一見精神尋常ナルカ如ク而モ其所行ノ狀況(濫妄、殘忍、追想ノ溷濁)ハ其異常ヲ推サシムル場合ニ於テハ判定甚タ難シトス。癲癇アリタリトテ責任能力必シモ缺亡セザルモ。其精神病症狀ノ倏去ルヲ屢之アリ。犯罪行為ハ癲癇發作中ニアリタルモ、人其發作ヲ知ラズ(眩暈性又ハ夜間發作)或ハ精神冥濛狀態ノ意識清明ニ推移ル時ニ之アルヲアリ。故ニ判官亦須ラク之ヲ判決ノ際ニ忖度スベシ。監獄中ニハ癲癇ニ注意セサル爲ニ其病アルモノヲ多ク容ル、ト云フ。癲癇アレハ之ヲ減輕理由トナスコトハ刑法上

原則トシテ通スベシ。進歩シタル法律ガ慈善ノ主義ヨリ減輕事狀ト認メタルモノ、中ニテハ醫學上神經系統全體ヲ侵犯スル機能性神經病殊ニ癲癇ト推認スベクシテ而モ其鑑別ノ屢爲スベカラザル疾病ナトニ於テ。其惠澤ノ洽ネキヲ見ルベキナリ。

一時性癲癇狂ニハ常ニ意識ノ障礙アリ。自家意識溷濁又ハ缺亡スルアリテ。爲ニ其所爲ノ追想ハ缺乏又ハ消亡ス。是レ法醫上重要ノ件ナリ。

又其ノ衝動性動作アルモノニハ癲癇發作前、癲癇發作後、代理的精神障礙中、又ハ發作後ノ精神障礙中ニ色情ノ亢奮ノ起ルコトアリ。之ニヨリテ種々ノ風俗罪(姦淫、強姦、陰具暴露等)ヲ觸犯スルコトアリテ。法醫上注目スベキモノタリ、苦悶アリテ四周ヲ仇讐ト誤認スル症ノアルモノハ之ガ爲メニ自他ニ危險ナル暴行ヲナス。其狀鬱狂ノ暴動發作ノ如ク又衝動

慢性中酒狂

動作ノ如シ。此ノ如キ發作ノ獨自離立シ來ルアリ。
 妄覺性譫妄アル一時狂ニテハ其妄想ノ被害的ナルモノハ
 固ヨリ慘劇ノ暴行ヲ爲シ。宗教妄想アルモノモ或ハ傍人ヲ
 瀆神家ト認ムル爲、或ハ神佛ノ命令(聽)ニ基キ或ハ極樂淨土
 ニ導カントテ、殺傷ヲ企ツルアリ。
 慢性癲癇、狂ハ其癲癇ニ基クカ爲ニ意識障礙并ニ錯亂ノ甚
 シク昏迷狀態朦朧狀態ノ間作スル等ヨリ法醫上尋常非癲
 癇狂ト區別スルノミ。
 (十二)慢性中酒ハ一個ノ腦病ナリ。其責任能力ニ付キテハ之
 ヲ概説スヘカラズ。蓋シ酒荒ノ作用結果ハ其人ノ體質ニヨ
 リ、酒ノ性質、酒ノ分量、飲酒ノ持續ニヨリテ異ナルモノナレ
 ハ。酒客ノ精神狀態ト責任能力トノ關係如何ハ之ヲ遽ニ斷
 定シ去ルベカラズ。其責任ノ程度ニ至リテハ其人其時ニ隨
 ヒ定ムベキナリ。

慢性中酒ノ腦病タルヲ知ルハ其身體症候ニヨルベシ。
 其證候ニ兼テ性質ノ變化、道德心ノ缺乏アラハ之ヲ身體
 證候ト同一ノ原因ヨリ生ジタルモノトスベシ。慢性中酒ノ
 未タ高頂期ニ至ラサルモノハ拘囚中酒精ヲ廢スル爲ニ其
 證候消退シテ診斷ニ困難ナリ。
 中酒ノ爲ニ精神衰弱甚キモノニハ責任能力ナシ。其病ノ初
 期ニ於テハ其犯行ノ殊ニ酒荒中又ハ感動中ニ施サレタル
 事ニハ減輕ノ酌量スベキアリ。
 酒客ノ危險ニシテ犯罪行爲ヲナスコアルハ。其道德上叡智
 上ノ精神薄弱、不習儀ナル自恣ノ嗜好アリ、且異常ニ劇烈ナ
 ル感動ヲ制遏スル能ハザルニヨルナリ。窃盜、委托物費消僞
 證、姦淫、殘忍、家人又ハ他人ノ殺傷、官吏抗拒等ハ酒客ノ多ク
 ナス所ノ犯罪ナリ。慢性中酒家ニハ幻覺、錯覺(爲ニ外界ヲ敵視ス)、追跡譫
 妄、苦悶發作、衝動々作(殺傷放火)及ヒ嫉妬妄想アリ。是等ニヨ

リテ法律ニ抵觸スルヲアルベキナリ。嫉妬妄想ハ中酒狂ニ固有ニシテ之ナキヲ殆稀ナリ。而シテ其妄想タルハ決シテ匆卒ニ判別シ易カラズ。

酒客譫妄ニ在リテハ幻覺、(人物誤認)、追跡譫妄、苦悶等ヨリ他人ニ暴行ヲ加フルヲ稀ナラズ。瀕死ノ苦悶ハ屢自殺ヲ招キ。或ハ遁逃企圖ノ爲ニ身ヲ危クスルヲアリ。

中酒性妄覺症ニモ幻覺ノ累現シ。驚クベキ怖ルベキノ幻像幻聲ニヨリ、之ニ對スル劇キ感動ニヨリ、又ハ外界ノ誤認ヨリシテ暴行ニ致サル、トアリ。意識ノ深障礙アル爲ニ其所爲ハ躁暴無省顧ナリ。

中酒性精神病ハ鬱狂、躁狂、偏執狂、麻痺狂等アリ。鬱狂ハ幻覺及ヒ苦悶ノ爲メニ危険ニ。躁狂ハ重症躁暴狀態中ニ放火殺傷ヲ行ヒ。偏執狂ハ幻視、幻聽、妄想(嫉妬、被害、苦悶ノ爲ニ暴行ヲ他ニ加フルヲ屢ナリ)。

衝動性精神病

疾病性無意識狀態

中酒性癲癇ニハ無意識ノ譫妄狀態アルヲ尋常癲癇ニ同ク。其發作ハ酒荒後ニ多ク。酒ナキハ止ミ。累積シテ來リ。發作後精神病障礙多ク。患者ハ之カ爲ニ傍人ニ危険ニシテ。驚怖スベキ譫妄、妄覺アリ。外界ヲ仇敵トシテ誤認シ。且之カ爲ニ苦悶危疑ニ至ルヲアリ。是等皆暴行ノ原ナリ。

(十二)衝動性精神病ニテハ其動作タル患者自ラ其動因ヲ分明ニ意識セス。或ハ全ク之ヲ意識セズ。其舉作ハ全ク機質上ノ必迫ヨリ出ツルガ故ニ。患者ハ其行爲ニ就キテ責任ナク。其行爲ノ結果ヲ其人ニ鞠問スベキニアラス。

(十四)疾病性無意識狀態ハ慢性ノ獨立精神病トハ區別スベキモノニシテ。而モ其意識ノ溷濁(又ハ缺亡)ハ責任能力ヲ無キモノニシテ。此狀態ヲ一定形ヲ具有スル精神病ト同ク無責任トスルニ付キテハ。現行刑法用語即チ知覺精神ノ喪失ニテ足レトシ。此語ハ却テ此精神狀態ニ適切ナリ。法

精神病者ノ責任能力

酩酊状態

律上知覺精神ノ喪失ヲ以テ必ラスシモ其完全ノ缺亡ヲ稱セザルカ如ク。疾病性無意識状態ヲ之ニ當テ、應用スルニモ。必スシモ完全ノ意識缺亡状態ヲノミ無責任ト認ムベカラズ。精神ノ夢寐ノ如ク茫乎トシテ存シ。其知覺其理性ヲ應施スル能ハサルモ。夢像、幻覺、譫妄等ヲ以テ外界ト應接シ以テ法禁ノ所爲ヲ犯スガ如キモノ。亦須ラク此數中ニアルベシ。意識清明ト無意識トノ間ニハ數多ノ階段アルニヨリテ診斷上ノ困難ハ頗ル少トセス。要スルニ無意識状態中ノ所爲ハ熟慮ノ能アリ意思ノ自由アリテスル所爲ニアラズ。其人ノ知識意思ニ無關係ナル内部ノ疾病機轉ヨリ出ツルモノニシテ。其人ニ所爲ノ責任ヲ歸スヘキニアラス。此ニ屬スルモノ、中酩酊状態、感動状態ニ付キテ少シク責任能力如何ヲ述ベン。

酩酊中ニナシタル犯行ハ無罪又ハ刑ノ減免ヲ受クベキモ

ノナリト論辯スルヲ屢アリ。實際上ニ於テモ酩酊ハ一ノ異常状態ニシテ場合ニヨリテ法律上ノ責任ヲ輕限シ又ハ除却スベキコトアリ。然レモ法醫上ノ鑑定ニ際シ各箇人ニ付キテ慎重ニ處置スベキコト、酩酊ノ責任問題ニ過グルモノアラズ。何トナレバ其責任ノ有無ハ酩酊者ノ犯行當時ノ状態如何ニ關シ。此状態ハ又其人ノ體質ニヨリ又其誘因殊ニ其飲料ノ種類分量、之ヲ飲用セシキノ狀況等ニヨリテ決スベキモノナレバナリ。

酩酊ノ責任問題ニ付キテハ二個ノ極點論者アリ。一方ハ醇然タル心理上及ヒ臨牀上ノ點ヨリ說ヲナスモノニシテ。酩酊ヲ人工精神病トシ。責任能力ヲ全ク無ミスルモノト辯明シ。凡テ其法律違犯ノ所爲ヲ不問ニ附シ。止ムナクハ警察ノ罰則又ハ公衆ニ危險ナル爲ニ一時監禁スベシト論シ。又一方ニハ道德上ヨリ立論シ。酩酊ニハ責任ヲ無ミスベキ理由

精神病者ノ責任能力

ナク。犯行ノ當時ニ理性及ヒ道德上ノ理由ナキ時スラモ當ニ然ルベシ。之ヲシモ責任ナシトスレバ。他ノ失徳ノ所行モ亦其罪ヲ論スルヲ得スシテ。刑罰茲ニ廢スベシト論スルアリ。此兩者ハ共ニ極點論ニシテ。某々法律ハ正ニ其中間ヲ執リ。酩酊ニ爲不爲ノ自由ナキ場合アルヲ酌ミ。酩酊ヲ不論罪中ニ列擧シ。但其無意識ノ程度ニ至リタルヲノミ此ニ算入シ認定スルモノアリ。意識ノ缺亡セサルモノ、如キハ責任能力ヲ無ミセズ。唯減刑事狀ト認ムベキトモ之ナキニアラズ。

サレバ法醫上酩酊ニ二個ノ狀態ヲ區別スベク。一ハ自他ノ意識ノ存在シ甚シクモ溷濁スルモノニシテ。一ハ其缺無ナルモノナリ。而シテ之カ區別ノ標徴トナルハ追想力ノ有無ナリ。

酩酊家ノ所行ニ付キ犯罪ノ故意アリタルヤ否ヤヲ決スル

ニ醫師ノ與カルトハ稀ニシテ。通例ハ判官ノミニテ其責任ノ有無ヲ定メ。其際ニハ證人ノ陳述ニ基キ飲料ノ性種、分量、所爲ノ情況及ヒ心理上ノ徵候一般ニヨリテ之ヲ決スベク。犯罪ノ時點ハ精密ニ之ヲ究査スベク。意識ノ缺亡ハ所爲時ノ情況殊ニ所爲ノ形況、處置、精神ノ狀勢等ヨリ推スヲ得ヘシ。但判官タルモノガ知覺精神ノ喪失ト云フヲ嚴ニ偏守スルヨリ、酩酊者ガ意識ノ溷濁中猶ホ外界ト應接シ言語ニ連續アリ、行爲ニ連續アルヲ見テ、意識ノ猶ホ存スルモノト認メテ。此ノ如キ場合ニモ自家意識ノ消亡スルコトアルヲ顧ミザルカ如キコトアラハ。甚遺憾ナリ。又此程度ナル無意識狀態ニ於テ意識ノ時々忽然清明トナリ又忽チ元ノ溷濁ニ沒スルコトモナキニアラズ。即チ前後不覺ニ酩酊セルモノガ犯行ノ直グ後、逮捕ノ瞬時又ハ醉臥ノ熱室ヨリ出ツルルニ當リテ。其姓名年齢ナトヲ問ニ應シテ答ヘ。一時注意自覺ノ復リ

疾病性酩酊

熱譫妄及ヒ飢乏
譫妄

來ルヲナキニアラズ。但後ニ至リテ其等ノヲ記スルヲハ
 アラス。然ルニ是ノ如キ一二ノ適切ナル所爲ノ爲ニ其者ハ
 前後不覺ニ泥酔シ意識ナキ迄ニ酩酊セルモノニアラズト
 セラル、¹往々ニシテ之アルベシ。
 酩酊家ハ他人又ハ其所有ヲ損害シテ以テ自ラ誇リ。風俗ヲ
 壞亂シテ強姦ニ及ヒ。配偶ノ名譽ヲ傷リ。貴顯ニ凌辱ヲ加ヘ
 又ハ殺傷ニ至ル¹屢アリ。
 疾病性酩酊即疾酗ニ至リテハ法醫上醫家ノ鑑定ヲ要スル
¹必須ナリ。是レ病酗ナルヤ否ヤヲ判スルニハ其人ニ體質
 上疾病的要素アルヤ否ヤヲ究ムベク。是レ法律家ノ能ク辨
 スル所ニアラザレハナリ。
 熱譫妄飢乏譫妄ノ状態ニ於テモ暴行ヲナス¹アリ。其譫妄
 状態ニテナシタル¹ハ一般ノ心理的標徴所爲ノ狀況及ヒ
 病狀(所爲時ノ精神作用溷濁)ヨリ推斷スベシ。若シ人アリ疾

感動状態

病殊ニ熱病ノ間又ハ其快復期ニ暴行ヲナシタルキハ。其譫
 妄ノ爲メニ惹致サレタリト考フル¹必モ失當ニアラズ。
 感動ニ出ツル犯罪(感激犯罪)ハ法律ニ於テ之ヲ精神ノ安穩
 ニシテ均平セル時ニ處決實施セシ行爲ト區別シ。減輕酌量
 ノ理由トナスモノアリ。而シテ感動時必シモ思慮ナカラズ
 熱思ノ時必シモ感動ナキニアラザルカ故ニ其限界ヲ立ツ
 ル¹頗ル難シ。
 法律ハ又一定ノ所爲ニシテ感動ニ基クベキモノヲハ罪ト
 シテ論セズ。即チ正當防衛ノ所爲ニ際シ震駭恐怖等ノ爲ニ
 防衛ノ度ヲ越エタル所爲ノ如キ是ナリ。
 第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ム¹ヲ得ザルニ出ラ
 人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論ビズ
 一、財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出
 タル時

精神病者ノ責任能力

二、盜犯ヲ防止シ又ハ盜贖ヲ取還スルニ出タル時
三、夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶
牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

改正刑法草案第七十一條 危急ノ暴行ニ對シ自己又ハ
他人ノ財産ヲ防衛スル爲メ己ムヲ得ズシテ行ヒタル
所爲ハ罪トシテ論ゼズ

其防衛ノ度ヲ越ユルモ暴行ニ因リ激シキ感動ヲ發シ
直チニ行ヒタル所爲ハ亦罪トシテ論ゼズ。

其他猶ホ感動ニ出ツル所爲トスベキモノニシテ減輕酌量
セラル、モノハ日本刑法ニ於テ左ノ條項アリ

刑法第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直
ニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス
第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ
知ルヲ能ハザルモノハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直
チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタルモノハ其罪ヲ宥恕ス
但本夫先ニ其姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラズ
第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り
若クハ門戶牆壁ヲ踰越毀損セントスル者ヲ防止スル
爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス
第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕スベキ罪ハ各
本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

改正刑法

第七十二條 自己又ハ親屬ニ暴行若クハ重大ナル侮辱
ヲ受クルニ因リ怒ヲ發シ直チニ加害者ニ害ヲ加ヘタ
ルモノハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス
第七十三條 前二條ノ規定ハ不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴
行又ハ侮辱ヲ招キタル者ニ之ヲ適用セズ但其所爲ノ

性質ニ因リ第七十一條ノ場合ニ於テハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ七十二條ノ場合ニ於テハ一等又ハ二等ヲ減ズルコトヲ得

第二百九十四條 本夫其妻ノ現ニ姦通スルヲ覺知シ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ其姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第二百九十五條 一家ノ耻辱ヲ蔽フカ爲メ又ハ養育ヲ爲ス能ハサルコトヲ恐ル、爲メ父母祖父母其初生ノ兒孫ヲ殺シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第二百九十六條 前二條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

其他不遇ナル愛情(自殺企圖ヨリ愛婦ヲ殺スガ如キ)嫉妬又ハ困窮危疑(生計困窮ノ爲ニ家人ヲ殺傷スルガ如キ)ノ如キモノモ其罪ノ酌量ヲ要スベキモノアリ。私産者ガ羞耻、困窮

憂慮、不幸、不遇等ノ爲ニ殺兒ノ舉動ニ出ツルガ如キモ亦然リ。而シテ是等ヲ酌量スルノ標準ハ皆醇然心理上ノ判斷ナレハ。法官ノ能ク醫家ヲ須タスシテ辨スル所ナリ。而シテ其人ノ性質(奇僻、感動シ易キ、精神ノ薄弱等)ハ參酌セザルベカラズ。又法官ハ感動ノ輕發ハ精神病ニ多クアル初發ノ徵候タルヲ記スベシ。

疾。病。性。感。動。ノ。行。爲。ニ。責。任。ノ。能。力。ナ。キ。ハ。論。ス。ル。迄。モ。ナ。キ。ナ。リ。

(丁)責任能力ニ關スル鑑定ノ梗概

責任能力ノ有無ヲ判別スルニ付テ鑑定家ニ取リ主要ナルハ被診者ノ親驗實查ノミニアラズ。鑑定家カ被診者ヲ其所爲ヲナセシキ又ハ其直ク前、直ク後ニ視查スルコトハ極メテ稀ニシテ。鑒定上ノ判斷ハ主トシテ其既往史、從前ノ履歷ニ基カサルベカラザルモノナレバ。凡テ其人ノ精神状態ニ影

血統

響アル事柄ハ皆之ヲ駁詳ニセザルベカラズ。
 鑒定ハ即チ左ノ諸項ニヨリテ之ヲ査定シ之ガ案ヲナスベシ。
 (一)血統 血統ノ有無ノミニヨリテ以テ精神疾病ノ鑒定ヲ決定スベキニアラズ。是レ唯之カ證左ノ一助トナルノミ。但血統ハ其精神ノ變質ノ生來又ハ前幼時ニ得タルモノナルハ殊ニ悖德狂ノ如キモノ、鑒定ニ際シテハ大ニ重キヲ置クベキモノタリ。
 鑒定人ガ被診者ノ先代ニ付キテ聞舉シ得タル事實ハ之ヲ嚴正詳確ニ批判シ用フベク。副系統ニ於ケル一二ノ精神病神經病ノ如キハ甚キ遺傳トハ認ムベカラズ。兩親ノ相互ニ血族ナル如キモ甚ク重視スベキニアラズ。學問上血族結婚ノ子孫ニ及ホス影響ハ未タ明瞭ナラザルナリ。兩親及ヒ祖父母ノ精神病重症神經病、癲癇、酒客ナル等ハ重視スベキモ

犯行以前ノ經歷

犯行ノ種類及ヒ其動機

ノナリ。兄弟又ハ兩親ノ兄弟ノ如キハ其多數ガ精神ニ病ミタル片ニ肝要ナリ。
 (二)犯行以前ノ經歷 特ニ注目スベキハ被診人ハ學校ニ於テ、從來ノ生活ニ於テ、白痴又ハ癡愚タルノ徵候ヲ呈セシヤ否ヤト云フ。及ヒ被診人ハ叡智上作能完備ナルニモ關セズ、其考慮、感情行爲ニ奇偏ナル所アリテ精神病ノ前驅トモ認ムベキモノナリシヤ否ヤ(心氣症、嫌人症、濫溺症、感動亢奮症)ト云フ。ナリ。又其他精神上身體上ノ禍害(殊ニ頭傷、癲癇症)ニシテ精神ノ強健ナルヲ充分ニ害フニ足ルモノアリタルヤ否ヤモ緊要ナリ。
 (三)犯行ノ種類及ヒ動機 要點ハ其所爲ハ被告ノ從來ノ行狀、性質、慣習ニ矛盾スルカ、犯罪所爲ヲナシテ法律ニ觸レタルハ初度ナルカ如何ニアリ。數度犯罪所爲ヲナセシコアラバ、其種類ヲ考查スベク。殊ニ其前後同種類ナルハ重視スル

責任能力ニ關スル鑒定ノ梗概

ニ足レリ。蓋シ其所爲自家ノミヲ以テ既ニ其人ノ精神病狀
 態ヲ推スベキモノアリ。屍ヲ發掘シテ之ヲ辱シメ、人肉ヲ食
 ヒ、婦人ノ襯衣ヲ窃ミ、多人數ヲ殺傷シ、無數ノ創傷ヲ負ハシ
 メ、甚キ剝切ヲナスカ如キヲ然リトス。是レ固ヨリ必シモ皆
 狂者ノナス所ニアラス。然レモ其人目ヲ聳カシ其異ニ驚カ
 シムル點ニ於テ、此ノ如キノ精神病者ノ多ク爲ス所タル
 ヲ顧慮スベキナリ。
 犯罪ハ所爲ニシテ外界ニ更ニ之カ動因ナキモノハ精神病障
 礙ニ出テシモノタルヤノ疑ヲ生セシムルモノナリ。殊ニ其
 所爲ノ重大繁錯ニシテ、精神恍惚等ノ爲メニ生スル不意識
 行爲半意識行爲トハ認メ難キ場合ニ於テ然リトス。若シ人
 アリ卒然街路ニ遇フ人ヲ刺傷殺害スルカ如キトキニハ誰
 人モ一見シテ以テ狂者ノ所爲トナスベク。實際ニ於テモ此
 ノ如キノ所爲ノ偏執狂妄覺狂癡癡狂ニ於テ其懷抱スル妄

想ヨリシ、鬱狂癡癡狂ニ於テ其煩惱タル苦悶ヨリシ、或ハ一
 時性躁狂發作トシ又衝動性動作トシテ來ルコト多シ。然レモ
 動機ノ缺亡ノミヲ以テ決シテ責任能力ヲ無ミスルモノト
 スベカラズ。其動機ノ輕微ニシテ所爲ノ重大ナル(不準比)ヲ
 以テ其行爲ノ精神障礙ニ基クモノナルコトヲ斷言スベカラ
 ズ。健精神ノ人モ些細ノ理由ヨリシテ往々ニシテ重キ犯行
 ヲナスコトアリテ。輕キ怨恨紛争ノ爲ニ不測ノ非ヲ遂クルノ
 例少ナカラズ。況ンヤ其所爲並ヒニ其履歴ヲ詳ニスモ、其人
 ノ精神ノ内生活、其想像ノ強弱、其冀望、其判斷ノ如何ヲ推知
 スルコトハ頗ル難クシテ、其所爲ヲナスニ當リ其人ノ思想ニ
 取リテ充分ナル動因必ス無カリシヤ如何ヲ知ルコトハ甚難
 キニ於テヲヤ。鑒定醫家ガ所爲ノ動機ニ重キヲ置クニ過當
 ナルハ遺憾ナシトセズ。
 要スルニ動因ヲ詮量スルニ當リテハ唯其有無輕重ノミナ

責任能力ニ關スル鑑定ノ梗概

ラズ、其動因ノ被診者ニ於ケル輕重如何ヲ考究スベク。精神
 刺戟性ノ増進セル場合ニ於テハ健人ニ於テモ病人ニ於テ
 モ準他輕少ノ原因ニテ感動所爲ヲ發シ易シト知ルベシ。
 又精神病ヨリ出ツル所爲ハ動因ヲ缺クモハト限ラズ。充
 分ナル動因アリ其所爲ニ適當ノ動因アリ(報讐、財産上ノ利
 益、嗜欲ノ飽足)トモ犯罪當時ノ精神病ヲ非認スルノ理由ト
 ナラズ。
 又被診者ノ舉稱スル動因ヨリシテ其所爲ハ疾病ナルヲ知
 ルベキトアリ。偏執狂者ガ故ナク街路ヲ過クル人ヲ傷ケテ
 其人カー目撃ヲ以テ已ニ劇痛ヲ加ヘタリト稱スル時ノ如
 キ、鬱狂者カ己カ子ノ餓死スルヲ欲セヌカ爲ニトテ之ヲ殺
 シタルキノ如キ、麻痺狂者ガ其近隣ニ火ヲ放テ居城ヲ築カ
 ントスル時ノ如キ是ナリ。
 (四)其○犯○行○ノ○施○爲○ニ付キテハ犯罪前ノ狀況、犯罪間ノ狀況、犯

犯行前ノ狀況

罪後ノ狀況ヲ考フベシ。

(イ)犯○行○前○ノ○狀況 犯罪ヲ行フ前ニ被診人ハ神明散亂無
 故ノ興奮激越無意識ノ狀態ヲ呈セシカ。其談話ハ一種
 奇異ニシテ解スベカラザリシカ。身體ニ著甚ノ變常ナ
 カリシカ。其顔貌ニ上衝浮脹ノ狀アリシカ。遲鈍其他ノ
 異變ナカリシカ。歩行ノ際ニ盪搖等ナカリシカヲ考覈
 スルヲ要ス。

犯行間ノ狀況

(ロ)犯○行○間○ノ○狀況 俗人ハ其犯行ヲナスニ熟思計圖ヲ以
 テシ熟巧狡猾ニ之ヲナスヲ以テ責任能力ノ有無ヲ論
 シ。甚シキハ之ヲ以テ精神病ナルヤ否ヲ判セントスル
 モノアリ。然レモ是レ必スシモ然ラズ。熟思計圖狡猾ハ
 犯行當時ノ犯者ノ精神病ニアラザルヲ證スベクモア
 ラズ。精神病者ニシテ感觸ノ障礙又ハ妄想ヲ主要ノ徵
 候トシテ其他論理的考慮方ノ減却セザルモノ、如キ

責任能力ニ關スル鑑定ノ梗概

犯行後ノ狀況

ハ能ク熟計按策シテ我意思ヲ貫クモノナリ。殊ニ追跡妄想アル偏執狂者ノ如キハ其妄想ヲ潜メ其妄想ヨリノ驅動ヲ藏シ謀ヲ重キ計ヲ設ケテ以テ事ヲ行フモノナリ。而レモ亦狂者ニハ注意謹重ノ能ハ缺亡スルヲ間々著シキト多シ。市ニ入リテ店前ニ就キ物ヲ竊ミ徐々ニ其所ヲ去リ。捕ヘラル、モ猶之ヲ還付スルヲ拒ムガ如キハ。強顔ナル盜兒ニアラザレバ、精神薄弱ナル癡愚者ナリ。又一方ヨリ之ヲ察スレハ健精神ナル人ノ所爲モ卒然ニ行ハレテ。思慮計圖ノ更ニナキト少カラズ。犯罪ヲナスニ當リテ濫妄ナル荒暴及ヒ不仁ノ極タル慘酷ヲ願ミサルカ如キモ精神病タルニ疑アリ。

(ハ)犯行後ノ狀況。精神病者ハ通例其事ヲ犯シタル後自ラ之ヲ掩匿セントセス。却テ或ハ其事ヲ遂ゲタルヲ喜ビ誇リテ語ルモノナリ。之ニ由リテ鑑定人ハ多クハ其

現在症

所爲後ノ謹慎、悔悟ノ言、惠助、其事跡ヲ掩藏セントノ苦心、遁走其他刑ヲ免カレシトスル苦心ノ有無ニヨリテ精神ノ健疾ヲ決セントスルノ傾アリ。然レモ是等ノハ唯犯者カ其所爲ヲ意識セシトテ證スル迄ニシテ。其犯行前犯行間ニ意識ノ清明ナリシトテ證明スルニアラズ。且又一方ニ於テハ意識ノ溷濁(強劇ノ感動又ハ疾病感動)中ニ犯罪シタル人モ其所爲後ニ謹慎悔悟ノ狀ヲ表ハシ。或ハ罪ヲ知リテ奔竄シ。分明ニ狂セル人ニ於テモ亦然ルヲアリ。故ニ是等ノ事アリタルハトテ。直ニ犯者ノ精神ハ強健ナリト推定スルハ不當ナリ。

(五)現症。即チ鑑定人自家ノ親驗ノミニヨリテ犯者ノ所爲ハ責任ナキモノト認ムベキト稀ニ之アリ。生來ノ高度白癡ニ精神身體ノ諸候アリタルモノ如キ即チ然リ。又現症ト犯罪ノ種類トヲ參看シテ其他既往歴ヲ知ラズシテモ確ニ斷

責任能力ニ關スル鑑定ノ梗概

定スベキコトアリ。其症ニヨリテ慢性精神病アルヲ確定スベキルノ如キ即チ然リ。例ヘハ某縣ノ知事ノ邸ニ闖入セントシ。警吏ニ誰何セラレテ怒ヲ發シ。知事ヲ詬罵スルモノアリ。爲ニ捕ヘラレ。其者ノ經歷ハ不明ナルモ數日ノ後其精神状態ニ疑起リ。鑑定ニ委テラル、ニ。其者ハ偏執狂者ニシテ。其固着妄想ハ之ヲシテ己コソ某縣ノ知事ニシテ、現知事ハ吾下僚ナリト固執セシムルカ如キコトアラハ。其所爲ノルハ爲不爲ノ自由ヲ失セシコトハ疑ナシ。

鑑定人ハ數度被告ヲ其家ニ於テ又監獄ニ於テ親査スルモ必スシモ其精神状態ヲ斷定シ得ザルコトアリ。殊ニ

- 一 精神障礙ガ定期性ニ發作スル時(癲癇ノ如キ)
- 一 患者カ其病ニ付キ匿狂スルルル
- 一 犯者ガ巧ニ伴狂シ又ハ其真ノ精神異常ヲ過稱シテ爲ニ不明ナラシムルルル

ニ然リトス。

之ヲ要スルニ監獄ハ其胥吏アリテ能ク常ニ之ヲ監査スルガ故ニ鑑定上ノ視察ニ不便ナシトセララル、モ。決シテ然ラズ。患者ハ監獄内ニ在リテハ絶エズ視査サル、モノト覺ユルヲ以テ。人來リ臨ム毎ニ屢何ヲ現ハシ何ヲ藏クスベキカラ悟ルニ至ルナリ。故ニ鑑定ニ難キ場合ニ於テハ數週間之ヲ癲狂院ニ致シテ視察スルヲ要ス。是レ同棲者ト共ニ散步、遊戯、業務ニ與カルカ爲ニ醫師看護人ナトノ己ヲ絶エズ視察シ居ルヲ忘ルレハナリ。殊ニ監獄内ニ於テ精神病學ニ通スル醫師ナキ場合ニ於テ然リトス。現今法律上其明文ナク、習慣上法官ノ之ヲ許諾スルコトノ難キハ甚遺憾ナリ。精神病ノ視査ニ勘能ナキ人ノ中ニ投セラレタル被告ヲハ、時々臨檢シテ其精神ノ健疾ヲ判別セントスルハ或ル場合ニ於テ極メテ困難ナリ。

責任能力ニ關スル鑑定ノ梗概

第三十二章 精神病患者ニ對スル犯罪

法律文(刑法)

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス
藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス
第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者

ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス
第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
改正刑法草案第三百三十五條 暴行脅迫ヲ以テ滿十二歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ三等

有期懲役ニ處ス
方畧ヲ用ヒテ婦女ヲ睡眠若クハ昏絶セシメ其他精神ヲ喪失セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス
十二歳ニ滿サル幼女ヲ強姦シタル者ハ二等有期懲役ニ處ス
第三百三十六條 睡眠昏絶其他精神ノ喪失ニ乘シ婦女

精神病患者ニ對スル犯罪

ヲ姦淫シタル者ハ前條ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス
第三百三十七條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者
ハ二年以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百三十八條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所
爲ヲ行ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處
ス

第三百三十九條 滿十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫
ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ一月以上一年以下
ノ有役禁錮ニ處ス

十二歳ニ滿サル幼者ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所
爲ヲ行ヒタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處
ス

第三百四十條 前數條ノ罪ハ被害者又ハ其法律上ノ代
人ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ズ

第三百四十二條 十五歳ニ滿サル者又ハ瘋癲白癡者ノ
淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ十一日以上二月以下
ノ有役禁錮及五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

説明 第五十七(姦淫罪ニ改正ヲ加ヘタルコト)
睡眠昏絶其他精神ノ喪失ニ乘シ婦女ヲ姦淫シタル者
ハ強姦ニ非スト雖モ其婦女ヲ害スルヲ強姦ト大ニ異
ナル所之ナカル可シ而シテ現行刑法ニハ此點ニ付キ
何等ノ規定ヲ爲サ、ルカ故ニ其姦淫セラレタル婦女
十二歳以上ナルキハ其犯人ヲ罰スルヲ得サルカ如
キ不當ノ結果ヲ生ス可シ即チ改正法ニ於テハ特ニ此
場合ヲ規定シ強姦ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減シテ罰ス
ルトトナシタリ又現行刑法ハ十二歳未滿ノ幼女ヲ姦
淫シタル者ハ輕懲役ニ處スト規定シタリト雖モ此場

合ニ於テハ縱令不完全ナリトハ言ヘ其幼女ノ承諾アリタルモノナレバ之ヲ重罪ニ處スルハ嚴ニ過クルヲ以テ改正法ハ之ヲ輕罪トナシタリ

又現行刑法ハ十六歳未滿ノ男女ノ淫行ヲ勸誘シ媒合シタル者ノ罪ヲ定メタレモ白癡癲癩者ニ對シテ是等ノ所爲ヲ行ヒタル者ニ付テハ何等ノ規定ヲ設ケサルナリ而シテ白癡癲癩者ハ全ク精神ヲ喪失シ又ハ其不充分ナル者ナルヲ以テ仍ホ幼者ト同ク茲ニ其規定ヲ設ケサル可カラサルナリ即チ改正法ハ此點ニ付キ現行刑法ノ不備ヲ補ヒタリ

刑法ハ即チ法律上全然未成熟ノ年齢ナル兒女及ビ身體上又ハ精神上ノ機能障礙ニヨリテ抵抗能力ナキモノニ姦淫ノ所爲ヲ行フモノヲ重罪ト認メ(但改正刑法ハ幼女ノ承諾ヲ經タル場合ヲ認メテ輕罪トス)猥褻ノ所行ヲナシタルモ

昏絶睡其他精神ノ喪失ニ乘シタル姦淫

ノヲ輕罪ト認メタリ。抑身體及ヒ精神上ノ機能障礙ハ疾病ノ爲ニ既ニ先ツ存スルモノアリ。又故意ニ他人ヨリ加フルモノアリ。即チ身體的機能障礙ハ或ハ暴行脅迫ヨリ致サレ。或ハ疾病衰弱麻痺等ノ疾病ヨリ致サレ。精神的機能障礙ハ即チ法律ニ所謂精神ノ喪失ニシテ或ハ精神ノ疾病。或ハ他人ノ方略ヲ以テ此状態ニ致サレテ此ニ至ルアリ。醉眠昏絶等ニ在リテハ身體并ヒニ精神ノ機能障礙ヲ并具シ。凡テ無意識ノ状態ヲ指スモノト推認スベシ。

(一) 昏絶睡其他精神ノ喪失ニ乘シタル姦淫

睡眠昏絶其他精神ノ喪失トハ凡テ自家意識ノ一時性喪失スル状態及ヒ諸種ノ精神病ヲ云フモノニシテ。而シテ其ハ必スシモ意識全ク缺乏シテ身ニ何事ヲ加ヘラレシヤヲ辨スルヲモナキ程ノ深甚ナル場合ノミヲ指サスニアラズ。高度ナル意識ノ缺乏ヲモ包兼スルナリ。左ノ數者ハ即チ此ニ

精神病者ニ對スル犯罪

屬スルモノトナス。

(一) 無意識狀態

(イ) 昏絶、假死、昏迷等ノ狀態

(ロ) 睡眠、睡後酩酊樣狀態(此狀態ナル婦人カ己ノ意思ニ非スシテ交媾ヲ許スヲアリ。例ヘハ他人カ夫婦ノ床ニ忍ヒ入り。妻ハ夫カ吾傍ニ臥スモノト認ムベシ。交媾ヲ許スルニ於テノ此ノ如キヲアリト認ムベシ)

(ハ) 睡中遊行狀態

(ニ) 泥醉、中毒、熱譫妄ニテ自家意識ノ全ク缺乏セル片

(ホ) 癲癇ノ昏迷狀態、朦朧狀態、臆蹙癲癇者、臆蹙病者ノ一時性意識缺亡狀態

是等ノ場合ニ於テ意識ノ缺亡ハ全ク一時性ニシテ、其ハ其者ガ訴庭ニ出テ、判定ヲ仰クノ時ニ於テハ多クハ既ニ經過シ去ルモノナレバ、之ヲ判スルニ當リテハ其意識缺亡ノ毒物(酒精、嗎囉仿、謀等)ノ爲ニ惹致サレタルトキニ於テ其物ニ關スル毒物學上精神病學上ノ經驗ヲ參照シ、又其前其後

其間ノ情況ヲ審査スベク。是等ノ告白ハ詐構ニ出ツルヲ多ク。又麻醉藥作用間ノ如キニ於テハ、幻覺錯覺ノ其無意識狀態中ニ茫冥ナカラニ起リ、醒覺スルキ又意識ニ上リ來リテ被姦淫ノ空想ヲ起スヲアリ。慎重ニ之ヲ檢診セザルベカラズ。

睡眠中ノ姦淫ニシテ其婦ノ之ヲ覺ルヲナク遂クベキヲナシ。但睡眠中其位置狀態、交媾ニ易キ場合ニ於テハ之ヲ壓制シテ姦淫ヲ遂クルニ易ク。或ハ其女ノ醒覺前ニ陰莖挿入ヲナスベキヲハ之アルヲ得ベク。非常ニ熟睡セル場合(過勞後又ハ酒精飲用後ノ年少者ノ熟睡ノ如キ)ニ於テ殊ニ然リトス。

(二) 精神病

精神病ハ廣義ニ於テ白癡ヲモ包含シ。自由意思ノ缺亡シ。又己ニ加ヘラレタル事件ノ輕重是非ヲ辨スル能ハザルモノ

精神病者ニ對スル犯罪

ナリ。而ルニ之ニ乗シテ施シタル姦淫及ヒ之ヲシテ猥褻ノ所爲ヲ行ハシメタルモノ、罪ハ現行刑法中ニ規定セラレズ。改正草案ニハ精神ノ喪失ヲ以テ之ヲ稱セリ。此ニ關スルモノハ殆ント皆白癡又ハ癡愚ナリ。狹義ノ精神病者ニ對スル犯罪トハ其狂人タルヲ知リナガラ知ラザル爲シテ詐誘スルモノニテアルベシ。其詐誘タルノ證明ハ其婦ガ其近邊ニ於テ精神病者トシテ普ク知ルキ又ハ其證候ノ著明ニシテ一見猶ホ之ヲ辨スベキキノ他ニハ頗ル困難ナリ。又亦精神病者ニシテ其疾病的動機ヨリシテ自ラ肉交ヲ要求シ男子ヲ挑ム所ノモノアリ。躁狂(發揚)臟躁狂、色情妄想アル妄覺狂偏執狂ノ如キモノヲ然リトス。且是等ノ精神病ハ俗人ヨリ其病ナルヲ認知シ難キト多シ。此ノ如キノ場合ニ於テハ詐誘ナルノ明カナル場合ニテモ猶ホ減輕スベキモノアリ。

睡眠昏絶其他無意識ノ状態ニ構陷シテノ姦淫

此種ノ犯罪ハ法律上被害者ノ告訴ヲ待テ訴追スルモノナレハ。被害者丁年以上ナルキ先ツ之ヲ禁治産ニシ、法律上代人ヲ以テ告訴ヲ提起スベシ。

(二) 睡眠昏絶其他無意識ノ状態ニ構陷シテノ姦淫

法律ニ於テ暴行脅迫ニヨリ女人ヲ抗拒不能ニ致シ之ヲ姦淫スルヲ重罪トス。脅迫繫縛、數人下手ノ如キ此ニ屬スルモノナリ。而シテ今之ヲ細論スルノ要ナシ。

之ヨリモ必要ナルハ無意思無意識状態ニシテ。是ハ或ハ器械的手段ニヨリテ致サレ。或ハ麻醉藥等ヲ以テ睡眠又ハ精神喪失ヲ致サシムルナリ。

頭上打撲又ハ絞扼ニヨリテ昏絶セシムルガ如キハ所謂器械的手段ニヨルモノナリ。

催眠劑タル囁囉仿謨、抱水格魯拉兒、又ハ酒類ヲ用ヒ或ハ傾性ノ特ニ存スルノ人ニ催眠術ヲ施シテモ亦以テ此状態ヲ

精神病者ニ對スル犯罪

惹致スベシ。

姦淫ノ目的ヲ以テ對手ノ精神ヲ喪失セシムベキ麻醉藥中ニテ酒精飲料ハ其最ナルモノナリ。而シテ法律上方略ト稱スルハ其目的ヲ遂グル爲ニ取ル方法手段一般ヲ指スモノナレバ。對手タル婦女子ノ成長セルト然ラサルトヲ問ハズ。其婦女ガ酒精飲料ノ何物ナルヲ知ルト否ト、又其過飲ノ爲ニ何ノ状態ノ惹致サル、ヤヲ解スルト然ラザルトヲ問ハズ。其物質ヲ他ノモノト指定シテ之ヲ服用セシメ。或ハ他ノ目的ニ供スルモノトシテ服用セシムルモ。都テ皆之ヲ包括シテ謂ヘルナリ。

他ノ物質即チ阿片、莫兒比涅、呀囉仿謨、抱水格魯拉兒等ノ催眠劑ガ無意思無意識状態ヲ惹起スルヲモ。誰人モ知ル所ナリ。而シテ麻醉間ニ交接ヲ遂グル爲ニ是等ヲ用ヒタルノ確實ナル事例ハ甚稀ニシテ。外科手術等他ノ目的ノ爲ニ麻醉

セシメ。其間ニ於テ婦女子ヲ姦淫シタルノ例ハ之アリト云フ。

要スルニ是等ノコトアルニ當リテハ其事件ノ當時無意識状態アリシヲ確定スルコト緊要ナルモ。是レ頗ル難キ事ニシテ。其事件毎ニ其狀況ヲ藥物學上及ヒ心理學上ニ考試シテ之ヲ察セザルベカラズ。上ニ述べタル諸ノ方法ヲ以テ完全ナル精神喪失即無意識状態ヲ致スベキハ明ナルモ。而モ亦差愧其他ノ理由ヨリ實際之ナカリシ無意識状態ヲ虚稱スルコトアリ。殊ニ酒精過用ニテ微醉セシノミニテ色情亢盛ヲ致シ、之ニ加ヘシ暴行ハ會其好機タルコトアルナリ。故ニ犯罪ノ成立ヲ認ムルニハ交接アリシヲ證明スルノミニテハ足ラズ。其當時完全ナル無意識状態アリシコトヲ證明スベシ。之ヲ決スルニハ當人カ其無意識状態ノ時刻及ヒ持續ニ關スル追想如何ヲ視ルベシ。若シ果シテ眞ニ無意識ナリシ者ナリ

セバ。其人ハ久シク其事アリシヲ知ラズ。局所ノ惱患又ハ交
媾後ノ懷孕等アルニ及ヒ。之ニヨリテ初メテ其姦淫セラレ
タルヲ覺ルベキノミ。意識ノ状態ハ相互鞫問ニヨリ又其
被害間被害後ノ情况ノ審明ニヨリテ之ヲ確定スベシ。此場
合ニ於テハ法律上精神喪失ト稱スル所ノ状態ニ被姦淫時
ノ追想ノ存スベキノ謂ハレナシ。

又交媾ノ實施ヲ確ムルヲモ甚緊要ニシテ。神經性ニシテ色
事上刺戟性ナル婦女子ハ。嘔囉仿謨麻醉等ニ於テ交媾ノ幻
覺ヲ起シ以テ他ヲ誣訴スルヲアリ。

第三十三章 精神病ノ惹致

法律文(刑法)

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又
ハ兩肢ヲ折リ及ビ舌ヲ斷リ陰陽ヲ毀廢シ若クハ知覺
精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ
殘廢シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁
錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ
罹リ又ハ職業ヲ營ムヲ能ハザルニ至ラシメタル者ハ
一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラザルモノハ一月以上
一年以下ノ重禁錮ニ處ス
疾病休業ニ至ラズト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ
十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業廢篤疾又ハ
死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一
等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ

犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ創ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハザル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但救唆者ハ減等ノ限ニ在ラズ

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ズ

第三百七條 健康ヲ害スベキ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ

處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癡篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ

致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十一條 前數條(精神病者ニ對スル犯罪ノ項ニ詳載ス)ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルモノハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癡篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

改正刑法草案

第二百八十八條 人ヲ毆打シテ其身體若クハ精神ニ疾病創傷ヲ生ゼシメ因テ死ニ致シタル者ハ二等有期徒刑ニ處ス

第二百八十九條 人ヲ毆打シテ五官ノ一ヲ失ハシメ又ハ四肢ノ一若クハ陰陽ノ使用ヲ失ハシメ其他重大ナ

ル不治ノ疾病創傷ヲ生ゼシメタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第二百九十條 人ヲ毆打シテ前條ニ記載シタルヨリ輕キ疾病創傷ヲ生ゼシメタル者ハ三月以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

其疾病ノ時間二十日ニ至ラザルハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス但シ被害者ノ告訴アルニ非サレバ訴追スルコトヲ得ズ

第二百九十一條 豫メ謀テ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ逃走ヲ便ニシ若クハ罪ヲ免カル、爲メ其犯罪ノ當時前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タズ亦各一等ヲ加フ

第二百九十二條 二人以上共ニ毆打シテ人ヲ疾病創傷ニ致シタルハ其疾病創傷ノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ其輕重ヲ知ルコト能ハザルハ重病重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス

共犯人豫メ通謀シテ毆打シタルハ各自ニ重病重創ノ刑ヲ科ス

第二百九十三條 詐稱誘導シテ人ヲ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ズ

第二百九十九條 疎虞懈怠ノ爲メ又ハ規則習慣ヲ遵守セザルニ因リ第二百八十九條ニ記載シタル疾病創傷ヲ生セシメタル者ハ十一日以上二月以下ノ無役禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十七條 擅ニ人ヲ制縛監禁シテ重キ脅迫ヲ行ヒ

又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲シタル者ハ前二條ノ刑擅ニ人ヲ制縛シタルモノハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス擅ニ人ヲ監禁シタルモ禁シタルモノハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス各一等ヲ加フ

第三百十八條 前數條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ豫謀毆打創傷ノ例ニ擬シ重キニ從テ處斷ス

第三百十九條 擅ニ人ヲ制縛監禁シ其制縛監禁ノ爲メ不虞ノ變災ヲ避クルコト能ハサラシメ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ擬シ重キニ從テ處斷ス

制縛監禁ヲ受ケタル爲メ又ハ凌虐ノ所遇若クハ脅迫ヲ受ケタル爲メ被害者自殺シ又ハ自ラ創傷シタルハ亦同ジ

毆打創傷ニ所謂
知覺精神ノ喪失

第三百四十一條 前數條ノ罪(精神病者ニ對スル犯罪ノ
 項ニ詳載ス)ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ
 毆打創傷ノ各本條ニ擬シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷
 ス

刑法ハ負傷(毆打創傷)又ハ虐待ニヨリテ精神ノ疾病(知覺精
 神ノ喪失)ヲ致シタル場合ニ於テ、其病ヲ以テ不治ノ重傷ト
 ナセリ。立法ノ主意ヲ考フルニ其精神ノ疾病ト云フモノハ
 腦病ノ精神證據ヲ主徵トスルモノニシテ一定ノ證狀經過
 ヲ有スル獨立ノ症ヲ指シタルモノナルベク。知覺精神ノ喪
 失ナル現行刑法ノ文字ガ其當ヲ得サルコトハ前ニ既ニ論ジ
 タレバ今又更ニ可不ヲ詳論スルノ要ナシ。且又刑法上單ニ
 知覺精神ノ喪失ト稱稱スルモ。此ヲ以テ無意識、昏絶、幻覺、譫
 妄ノ如キ一時性精神原障礙ヲ指セシモノト云フベカラザ
 ルハ明ナリ。何トナレバ法文ニハ單ニ知覺精神ノ喪失又ハ

精神ノ疾病ト稱スルモ。之ヲ「兩目ヲ瞠シ」「兩耳ヲ聾シ」「兩肢ヲ
 折リ」「舌ヲ斷チ」「陰陽ヲ毀敗シ」等長久不治ノ疾病ト竝記セル
 ガ故ニ。知覺精神ノ喪失モ亦長久不治ノモノヲ指稱シタル
 ヤ明ラケシ。其一時性障礙ノ類ノ如キハ現刑法ニテハ二十
 日營業不能ヲ致シタルノ罪ニ擬スベキカ。他ニ擬スベキノ
 地ナシ。蓋シ立法家ハ案ヲナスニ當リテ急性ノ精神病ニシ
 テ(永久不治ニハアラザル)負傷ノ後ニ起ルコトアルヲ知ラザ
 リシモノカ。此症ヲ致シタルヲ以テ永久不治ノ狂疾ヲ致セ
 シモノト同視スベシトナセシニモアラザルベク。又單ニ一
 時ノ營業不能ヲ致セシト同視スベキモノトナセシニモア
 ラザルベシ。改正草案ニハ第二百八十九條第二百九十條ニ
 於テ此項ヲ當ツベキノ餘地アリ。

改正刑法草案ニハ「人ヲ毆打シテ其身體若クハ精神ニ疾
 病創傷ヲ生ゼシメ因テ死ニ致シタル者ハ二等有期徒刑

毆打凌虐ヲ精神病ノ原因トシテノ診案

ニ處ス』ト云ヘル條アリ。此「身體若クハ精神ノ疾病創傷」ノト云ヒシハ慣用法ニヨルモノカ。又ハ省字法ヨリ出デタルモノカ。稍用語ニ不當ノ嫌ナキニアラズ。身體ニ取リテハ疾病創傷ノ二語共ニ妥貼ナルモ精神ニ關シテハ甚不當ニシテ語法ヲ得ザルモノト謂ツベシ。且其「精神ノ疾病ヲ生ゼシメ因テ死ニ致シタル者」ト云フハ毆打負傷ノ爲ニ精神病ヲ發シ、其精神病徵候ノ爲ニ命ヲ終ルモノヲ謂フカ。抑亦毆打ノ爲ニ精神病ヲ發シ直ク死亡ニ歸スルヲ謂フカ。甲ナラハ迂ニ過キ。乙ナラハ之ナキヲ如何。

此問題ニ付キテハ現存精神病ハ果シテ其以前ノ毆打凌虐ノ爲ニ生シタルヤ如何ヲ究ムル極メテ緊要ナリ。精神病ノ發生方ハ未タ明ナラズ。精神病ノ原因ハ多種ナルガ故ニ。虐待毆打後ニ精神病ノ生ジタル場合ニ於テ二者ノ因果タル關係ヲ知ルハ決シテ容易ナラズ。或ハ虐待ト時ヲ同ク

機械的震盪ヨリ起ル精神病

シテ精神病ノ素因アリ。又ハ他ノ虐待ニ關セヌ發病ノ要素アリ。又ハ他ノ虐待ニ關セヌ發病ノ要素アルヲハ看過シテ、其虐待ヲハ過重視スルヲアリ。或ハ其虐待ノ甚シカラズ、且被虐待者ノ身體ニ視ルベキ痕跡ノ殆無レ之ヨリ之ヲ甚シク輕視スルヲアリ。

精神病ハ負傷又ハ虐待ノ爲ニ起ル場合ニ於テ或ハ其機械的效力(腦震盪腦損傷)ニヨリテ惹起セラレ。或ハ其爲ニ誘發サレシ感動(驚愕、恐怖、憤怒)即精神震盪ニヨリテ惹起セラレ。乙者ノ如キハ癲癇其他ノ神經病ニ屢見ル所ニシテ。此ノ如キハニハ身體ノ創傷ハ頗ル微ニシテ其重視スベキモノナラズ、或ハ負傷ノ全クナキヲアリ。鑑定家ハ爲ニ虐待ト精神病トノ因果タル關係ヲ非認スルヲ往々之アリ。

(一) 機械的損傷ニヨリテ起ル精神病

機械的損傷トハ頭部其他ノ損傷ヲ云ヒタルニテ。之カ爲ニ

精神病ヲ發スルヲ稀ナラズ
 (イ)頭、部、損、傷、ヨ、リ、精、神、病、ヲ、惹、起、ス、ル、ニ、ハ、其、損、傷、タ、ル、必、ズ、シ、
 モ、重、キ、モ、ノ、ニ、限、ラ、ズ、頭、蓋、骨、ノ、損、傷、ハ、之、ヲ、軟、部、ノ、ミ、ノ、損、傷、
 ニ、比、ス、レ、ハ、精、神、病、ヲ、發、ス、ル、ヲ、多、キ、モ、ノ、ナ、リ、而、シ、テ、軟、部、骨、
 部、ノ、損、傷、ニ、精、神、病、ノ、繼、發、ス、ル、ハ、前、腦、ニ、直、接、又、ハ、間、接、ノ、損、
 傷、ヲ、致、ス、カ、爲、ナ、ラ、ズ、ン、バ、ア、ラ、ズ、其、損、傷、ハ、必、ス、シ、モ、重、キ、モ、
 ノ、ニ、ハ、限、ラ、ズ、ト、知、ル、ベ、シ、其、損、傷、中、ノ、重、要、ナル、ハ、前、頭、葉、顛、
 顛、葉、顛、頂、葉、ノ、穹、窿、部、ノ、挫、傷、腦、膜、間、溢、血、頭、蓋、骨、傷、ニ、シ、テ、骨、
 片、壓、入、ノ、儘、治、癒、セ、ル、モ、ノ、等、ナ、リ、ト、云、フ、其、精、神、病、ハ、直、ニ、其、
 原、因、ヲ、表、示、シ、運、動、感、覺、ノ、障、礙、ヲ、兼、有、シ、テ、病、竈、ヲ、推、定、セ、シ、
 ム、ヘ、キ、ヲ、ア、リ、
 其、原、因、ト、成、果、ト、ノ、相、ヒ、承、續、ス、ル、時、刻、ニ、付、キ、テ、ハ、二、種、ア、リ、
 頭、傷、後、直、ニ、發、ス、ル、モ、ノ、及、ビ、時、經、テ、發、ス、ル、モ、ノ、是、ナ、リ、
 (一)頭、傷、後、直、ニ、起、ル、精、神、病、ハ、兩、者、ノ、因、果、タ、ル、關、係、明

白、ナ、レ、バ、鑑、定、ノ、困、難、ナ、シ、其、病、症、ハ、或、ハ、昏、睡、ニ、尋、キ、又、
 ハ、腦、膜、炎、ノ、症、ニ、尋、キ、テ、直、ニ、不、治、ノ、重、症、癡、狂、ヲ、ナ、ス、
 多、ク、其、豫、後、ハ、甚、不、良、ニ、シ、テ、殆、ン、ト、不、治、ナ、リ、其、症、タ、ル、
 或、ハ、震、盪、病、狀、ニ、尋、キ、譫、妄、ア、ル、嗜、眠、狀、態、恐、怖、性、妄、覺、苦、
 悶、ヲ、起、シ、五、官、感、覺、並、ニ、運、動、ノ、障、礙、ヲ、兼、有、シ、數、月、ニ、シ、テ、
 治、セ、ル、ヲ、見、シ、ヲ、ア、リ、或、ハ、癡、鈍、狂、ノ、症、ヲ、呈、シ、好、良、ノ、豫、
 後、ヲ、ナ、セ、シ、ヲ、ア、リ、
 (二)頭、傷、後、時、ヲ、經、テ、起、ル、精、神、病、負、傷、後、精、神、病、ヲ、發、ス、
 ル、迄、數、週、乃、至、數、月、ノ、前、驅、期、ア、リ、此、前、驅、症、ノ、全、ク、ナ、キ、
 下、稀、ナ、レ、ハ、其、期、ヲ、精、密、ニ、考、究、ス、ル、ハ、負、傷、ト、發、狂、ト、
 ノ、因、果、ノ、關、係、ヲ、明、ム、ル、ニ、必、須、ナ、リ、右、ノ、前、驅、症、狀、ハ、精、
 神、上、ニ、テ、ハ、感、情、刺、戟、性、記、憶、薄、弱、精、神、ノ、急、卒、疲、勞、等、タ、
 リ、血、管、運、動、上、ニ、ハ、頭、上、衝、ノ、傾、性、飲、酒、不、堪、タ、リ、精、神、知、
 覺、上、ニ、ハ、頭、痛、眩、暈、タ、リ、五、官、感、覺、ニ、テ、ハ、其、機、能、ノ、缺、亡

モアレド、視神經聽神經ノ感覺過敏ノ方多シ。運動及ビ感覺上ニハ運動麻痺、感覺脫失ノ持久ニ存スルニアリ。又時々反覆スル卒中様發作、癲癇發作タリ。是等ノ症狀ニシテ其發呈ノ時期、負傷ノ時ニ近ク、其部位ニ於テ負傷部ニ相當シ、進行性經過ヲ取り、其他ニハ原因アルヲ認ムベカラサルキハ其負傷トノ關係ハ益明確ナルベシ。

其病症ハ一定セズ。殊ニ多キハ麻痺、狂ナリ。重症躁狂ニシテ忽チ癡狂ニ轉スルモノモ多シ。其豫後ノ不良ナルヲ以テ知ルベシ。頭傷ハ較明ナル精神病ヲナサハルモ精神ハ完整ヲ害フニ至ルヲアリテ、頭傷後ニ精神機能ノ衰弱(精神ノ急卒ナル疲勞)殊ニ血管運動中樞ノ機能衰弱(上衝ノ傾性、飲酒不堪)ヲナスニ足レリ。此ノ如キキニ於テハ甚シク譫妄、感動ニ傾性ヲ

精神的震盪ヨリ起ル精神病

生シ、感情興奮性ノ増進ヲ致スヲ稀ナラズ。此ノ如キモノニハ僅微ノ原因ニテ急性慢性ノ精神病發リ易シトス。

(ロ)末梢部ノ損傷モ亦精神病ヲ誘起スベキモノニシテ、或ハ準他僅微ノ損傷モ之カ爲メ又ハ其ヨリ生ゼシ癍痕ノ爲ニ末梢神經ノ末端ヲ刺戟スルキニ於テ之ヲ惹致スルヲアリ。是等ハ所謂反動性精神病ニ屬スベキモノニシテ(末梢性癲癇ニ類ス)或ハ鬱狂ノ状態タルヲアリ。或ハ躁狂ノ状態タルヲアリ。或ハ定期性發作性ノ症タルヲアリ。其豫後ハ前諸者ヨリハ幸良ニシテ、反射刺戟ノ本タル癍痕ヲ除キテ全ク治セル例モアリ。

(二)精神的震盪ニヨリテ起ル精神病

精神的震盪ニヨリテ起ル精神病ハ機能性精神病タリ。其發生方ハ二様ニシテ一ヲ

(イ)精神的發生方トシ、虐待ノ爲メニ致サレタル恐怖驚愕

等痛愛性ノ感動ニヨリテ精神病ヲ起スモノニシテ。其症ハ鬱狂、心氣性鬱憂、神經性アル鬱憂、臟躁狂タリ。又一ヲ(ロ)血管運動的發生方トシ。虐待ノ際、恐愕ノ爲ニ起リタル血管痙攣又ハ血管麻痺ヨリ精神病ヲ惹致スルモノニシテ。其病症ハ昏迷、原發性癡狂、昏迷性鬱狂、急性躁暴狂等タリ。

虐待後ニ於テ醇然タル精神的ニ發生スル精神病ニシテ猶ホ一ノ緊要ナルモノアリ。即姦淫後ニ起ルモノハ是ナリ(刑法第三百五十一條、改正草案第三百四十一條)

虐待後起リタル精神病ガ機械的損傷ニヨリシカ。又ハ精神的震盪ニヨリシカヲ判スルニハ。其病ノ發育ノ狀、其形種及ヒ經過ヲ見ルベシ。其病症ノ機械的損傷ニヨリシモノニハ機質性叡智性ニシテ。他ハ機能性感動性ナリ。其病ノ發シ方ハ機械的損傷ニヨリシモノニテハ(精神機能ノ直ニ亡失セ

虐待後ノ精神病ノ機械的震盪ニヨリテ起ルノ診別

シモノハ除キ)漸次ニシテ前驅症狀アレレ。他ニハ急卒ニシテ負傷後直ニ發ス。其病狀ハ機械的損傷ニヨリシモノニハ叡智ノ深障礙ヲ兼テタル重症腦病ノ症狀(癡狂、譫妄、運動性腦神經ノ麻痺、感覺脫失、五官作用ノ障礙、半身不遂、癲癇發作、失語等)タリ。他ニハ臟躁心氣病ノ症ヲ有スル機能性精神病ニシテ。痙攣アルトモ、ソハ精神作用ヨリ發リテ且多少ノ調節アリ。且又精神的震盪ヨリ起リタルモノヲ見ルニ多クハ皆其人ニ精神病ノ素因アリ。或ハ其體質神經性ニシテ遺傳多ク。或ハ月經等ノ爲ニ一時神經系統ノ興奮性増進セルヲアリ。然レモ亦此ノ如キ素因毫モナクシテ、虐待ノ爲ニ精神的震盪ヨリ狂疾ヲ惹起スルモノモ之アリ。要スルニ此ノ如クシテ遺傳素因アルモノ多ク。其一旦精神病ヲ發スルヤ。其病症ハ進行性ナルヲ多キヲ以テ。精神的震盪ヨリ起リタル精神病モ亦通例豫後不良ナリ。

第三十四章 處分能力ノ有無ニ就テ
法律文(改正民法第一編)

第一章、人

第一節、私權ノ享有

第一條 私權ノ享有ハ出生ニ始マル

第二節、能力

第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス

第四條 未成年者ガ法律行為ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルベキ行為ハ此限ニアラズ

前項ノ規定ニ反スル行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

第五條 法定代理人カ目的ヲ定メテ處分ヲ許シタル財產ハ其目的ノ範圍内ニ於テ未成年者隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得目的ヲ定メスシテ處分ヲ許シタル財產ヲ

處分スル亦同シ

第六條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者ハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ未成年者ガ未ダ其營業ニ堪エサル事跡アルキハ其法定代理人ヲ親族編ノ規定ニ從ヒ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 第八條 第九條 第十條 第十一條 第十二條 第十三條

(禁治產ノ部ニ出タス)

第十七條 左ノ場合ニ於テハ妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス(一二五六器ス)

三、夫カ禁治產者又ハ準禁治產者タルキ

四、夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラル、トキ

第四章、法律行為

第二節、意思表示

處分能力ノ有無ニ就テ

第九十六條 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ベシ

第九十八條 意思表示ノ相手方カ之ヲ受ケタル時ニ未成年者又ハ禁治産者ナリシトキハ其意思表示ヲ以テ之ニ對抗スルヲ得ズ但其法定代理人カ之ヲ知リタル後ハ此限ニアラズ

第三節、代理

第一百二條 代理人ハ能力者タルコトヲ要セズ

第一百一十條 代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

- 一、本人ノ死亡
- 二、代理人ノ死亡、禁治産又ハ破産

第四節、無効及ビ取消

第一百二十條 取消シ得ベキ行爲ハ無能力者クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者、其代理人又ハ承繼人ニ限り

之ヲ取消スコトヲ得

第六章、時効

第一百五十八條 時効ノ期間滿了前六ヶ月内ニ於テ未成年者又ハ禁治産者ガ法定代理人ヲ有セザリシトキハ其者ガ能力者ト爲リ又ハ法定代理人ガ就職シタル時ヨリ六ヶ月内ハ之ニ對シテ時効完成セズ

第一百五十九條 無能力者ガ其財産ヲ管理スル父母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ付テハ其者ガ能力者トナリ又ハ後任ノ法定代理人ガ就職シタル時ヨリ六ヶ月内ハ時効完成セズ

第三編、債權

第一章、總則

第三節、多數當事者ノ債權

第四款、保證債務

處分能力ノ有無ニ就テ

第四百五十條 債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス(二、三ヲ略ス)

一、能力者タルヲ

第二章、契約

第一節、總則

第一款、契約ノ成立

第五百二十五條 第九十七條第二項ノ規定ハ申込者ガ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相手方カ死亡若クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第七節、貸借

第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ズ(各項略ス)

第十節、委任

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者ガ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十二節、組合

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス(一、二、四、略ス)

三、禁治産

第五章 不法行為

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行為ノ責任ヲ辨識スルニ足ルベキ知能ヲ具ヘザリシトキハ其行為ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セズ但故意又ハ過失ニヨリテ一時

處分能力ノ有無ニ就テ

ノ心神喪失ヲ招キタルハ此限ニ在ラス
第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナ
キ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其
無能力者ガ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任
ス但シ監督義務者ガ其義務ヲ怠ラサリシハ此限ニ
在ラス但監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル
者モ亦前項ノ責ニ任ズ

民法人事編

第一章、私權ノ享有及行使

第三條 私權ノ行使ニ關スル成年ハ滿二十年トス但法
律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラズ

第四章、婚姻

第一節、婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件

第三十條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラザレハ婚

姻ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十條 父母、祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル
能ハサルトキハ滿二十年ニ至ザル者ニ限リ後見人ノ
許諾ヲ受ク可シ

第四十一條 父母ノ知レサル子ハ二十年未滿ニ限リ後
見人ノ許諾ヲ受ク可シ

第四十二條 育兒院ニ在リテ父母ノ知レザル子ノ婚姻
ハ二十年未滿ニ限リ院長ノ許諾ヲ受ク可シ

第五節、婚姻ノ不成立及ヒ無効

第五十五條 人違、喪心、又ハ強暴ニ因リテ雙方又ハ一方
ノ承諾ノ全ク欠缺シタル婚姻ハ不成立トス

第六節、婚姻ノ効力

第七十條 左ノ場合ニ於テ婦ハ夫ノ許可(贈與ヲ爲シ之
ヲ承諾シ不動產ヲ讓渡シ之ヲ擔保ニ供シ借財ヲ爲シ

處分能力ノ有無ニ就テ

債權ヲ讓渡シ、之ヲ質入シ元本ヲ領收シ保證ヲ約シ及
ビ身體ニ羈絆ヲ受クル約束ヲ爲スコト又和解ヲ爲シ
仲裁ヲ受ケ及ヒ訴訟ヲ起スコトヲ得ルコトヲ要セズ
第二、夫カ禁治産又ハ准禁治産ヲ受ケタルキ
第三、夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ルトキ
第六章、親子

第二節、否認訴權

第一百一條 夫カ民事上ノ禁治産ヲ受ケタルトキハ後見
人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ否認訴權ヲ
行フコトヲ得

第七章、養子縁組

第一節、養子縁組ニ必要ナル條件

第一百六條 何人ト雖モ養子ト爲ル可キ者ヨリ年長ニシ
テ成年ナルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得ズ

遺言ヲ爲ス能力アル者ハ遺言養子ヲ爲スコトヲ得

第二節、養子縁組ノ儀式

第一百五條 滿十五年ニ至ラサル子ノ縁組ハ父母之ヲ
承諾スルコトヲ得

父母ノ一方ガ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハザルト
キハ他ノ一方ニ於テ縁組ヲ承諾スルコトヲ得
父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルキハ其家
ノ祖父母若シ其一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能
ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ縁組ヲ承諾スルコトヲ
得

第一百六條 滿十五年ニ至リタル者ハ父母ノ許諾ヲ受
ケテ縁組ヲ承諾スルコトヲ得
父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルキ
ハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

處分能力ノ有無ニ就テ

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ク可シ若シ祖父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

第十七條 父母祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルキハ二十歳未満ノ者ニ限リ前二條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ後見人之ヲ承諾シ又ハ許諾ヲ與フ

第二十條 育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ縁組ハ第百十五條及ヒ第百十六條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ院長之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フルコトヲ得

第四節、養子縁組ノ不成立及ヒ無効
第二百二十七條 縁組ハ人違、喪心又ハ強暴ニ因リテ承諾

ノ全ク欠缺シタルトキハ不成立トス

第八章、養子ノ離縁

第一節、協議ノ離縁

第三十七條 養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲リタル者ハ協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得然レモ十五年未満ニテ養子ト爲リタル者ノ離縁ハ滿十五年ニ至ラサル間ニ限リ養子ヲ爲シタル者ト縁組承諾ノ權ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

第二節、特定原因ノ離縁

第四十二條 養子ヲ爲シタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ離縁ヲ請求スルコトヲ得養子ト爲リタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ實家ノ父母祖父母又ハ戸主ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

處分能力ノ有無ニ就テ

第四百十三條 養子ノ滿十五年ニ至ラサル間ハ縁組承諾ノ權ヲ有スル者ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第九章、親權

第一節、子ノ身上ニ對スル權

第一百五十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ受クルニ非サレハ父母ノ住家又ハ其指定シタル住家ヲ去ルコトヲ得ズ

第二節、子ノ財産ノ管理

第一百五十三條 父ハ未成年ナル子ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ自己ノ財産ニ於ケル如ク其財産ヲ管理ス

第十章、後見

總則

第六十一條 後見ハ成年者ノ父又ハ母ニシテ生存スル者ノ死亡ニ因リテ開始ス

父母共ニ生存シ又ハ其一方ノ存在スルモ親權ヲ行フ能ハサルトキ又ハ母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭スルトキモ亦同シ

第五節、後見人及ビ親族會員ノ缺格、除斥及ヒ罷黜

第八十條 左ニ掲クル者ハ後見人タルコトヲ得ズ又

親族會員タルコトヲ得ズ

第一、未成年者

第二、民事上禁治産及ヒ准禁治産者

第三、未成年者ノ身分又ハ財産ニ對シテ訴訟ヲ爲ス人

及ヒ其人ノ尊親屬、卑親屬、配偶者

第八十一條 左ニ掲クル者ハ後見及ヒ親族會ヨリ除斥セラル可シ現ニ任務ニ從事スル者ハ之ヲ罷黜ス

第一、甚シキ不行跡ノ人

第二、後見管理ニ不能又ハ不正實ヲ顯ハセル後見人

處分能力ノ有無ニ就テ

第三、任務ヲ免黜セラレタル裁判上ノ保佐人
第四、公權剝奪公權停止及ヒ刑事上禁治産ヲ受ケタル人

第五、復權ヲ得サル破産者及ヒ家資分散者

第六節、後見人ノ管理

第八十四條 後見人ハ未成年者ヲ監護シ其教育ヲ擔任ス

第九十七條 後見人ノ其權内ニ於テ爲シタル行爲ハ未成年者ヲ羈束ス

第十一章、自治産

第十三條 未成年者ハ婚姻ヲ爲スニ因リテ當然自治産ノ權ヲ得

第十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ滿十五年ニ達シタル未成年ノ子ニ自治産ヲ許スコトヲ得

第二十五條 後見ニ服スル未成年者ノ滿十七年ニ達シタルキハ親族會ハ其未成年者ニ自治産ヲ許スコトヲ得

第二十六條 自治産ノ未成年者ハ之ヲ保佐ニ附ス

第二十七條 後見人ニ關シテ定メタル免除缺格除斥及ヒ罷黜ノ規則ハ之ヲ保佐人ニ適用ス

第二十八條 自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ元本ヲ領収スルコトヲ得ズ

第二十九條 第九十四條ニ掲ケタル行爲ニ付テハ自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條 自治産ヲ許サレタル未成年者カ不行跡又ハ財産管理ノ失當ニ因リテ自治産者タルニ適セザルキハ親族會ハ其自治産ヲ廢止スルコトヲ得未成年

處分能力ノ有無ニ就テ

年者ハ自治産廢止ノ日ヨリ親權又ハ後見ニ服シ成年ニ達スルマテ復自治産者ト爲ルコトヲ得ズ

第十二章、禁治産(下ニ出タス)

第十三章、戸主及ヒ家族

第二百五十七條 戸主ガ家族ニ對シテ婚姻其他ノ事件ニ付キ許諾ヲ與フベキ場合ニ於テ未成年ナルトキ又ハ意思ヲ表スル能ハザルトキハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フモノ又ハ後見人之ヲ代表ス

第十四章、住所

第二百六十三條 戸主ハ本籍ヲ移ス地ノ身分取扱吏ニ申述シテ住所ヲ變更スルコトヲ得

未成年者又ハ民事上禁治産者タル戸主ノ住所ハ親族會ノ許可ヲ得テ後見人之ヲ變更スルコトヲ得

民法財産編

第二部人權及ビ義務

第一章、義務ノ原因

第一節、合意

第二款、合意ノ成立及ヒ有効ノ條件

第三百五條 合意ノ成立ニ必要ナル條件ノ外尙ホ其有効ナル爲メニハ左ニ掲クル二個ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

第一、承諾ノ瑕疵ヲ成スヘキ錯誤又タハ強暴ノナキコト
第二、當事者ノ能力アルコト又ハ有効ニ代理セラレタルコト

第三百十三條 強暴ハ當事者ノ一方カ抵抗スルコトヲ得ザル暴行脅迫ヲ受ケタルニ因リ枉ケテ合意ヲ爲シタルトキハ承諾ヲ阻却ス

處分能力ノ有無ニ就テ

當事者ノ一方カ不可抗力ニ出テタル急迫ノ災害ヲ避クル爲メ熟慮スルノ暇ナクシテ過度ナル義務ヲ約シ又ハ無思慮ナル讓渡ヲ爲シタルトキモ亦同シ
 暴行脅迫又ハ災害カ抵抗ス可カラサルニ非サルモ當事者又ハ第三者ノ身體財産ノ爲メ切迫ニシテ一層重大ノ害ヲ避クル爲メ當事者ヲシテ合意ヲ爲スニ決意シタルトキハ強暴ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス
 第三百十四條 強暴ニ因リテ身體財産ニ危難ノ恐ヲ受ケタル第三者カ當事者ノ配偶又ハ直系ノ親屬若クハ姻屬ナルトキハ其強暴ハ常ニ之ヲ當事者ニ加ヘタリト看做ス
 此他ノ人ニ付テハ親屬ナルト姻屬ナルト又ハ外人ナルトヲ問ハズ裁判所ハ此等ノ者ニ對シテ加ヘタル強暴カ當事者ノ承諾ニ及ホセシ影響ヲ其事情ニ從ヒテ

查定ス

第三百十七條 強暴ノ場合ニ於テ裁判所ハ當事者ノ男女年齢強弱智愚及ヒ相互ノ身分ヲ斟酌ス可シ然レモ卑親屬ノ尊親屬ニ對スル尊敬ノミニ出テタル畏懼ハ合意ヲ取消ス理由ト爲ラズ
 第三百十八條 錯誤強暴詐欺及ヒ無能力ハ之ヲ推定セス其申立ニヨリ之ヲ證スルコトヲ要ス
 第三百十九條 前數條ノ場合ニ於ケル銷除訴權ハ無能力者又ハ瑕疵アル承諾ヲ與ヘタル者ノミニ屬ス
 第三節、不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪
 第三百七十二條 親權ヲ行フ尊屬親ハ己レト同居スル未成年ノ卑屬親ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ズ
 後見人ハ己レト同居スル被後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ズ

處分能力ノ有無ニ就テ

瘋癲白痴者ヲ看守スル者ハ瘋癲白痴者ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ズ

教師、師匠及ビ工場長ハ未成年ノ生徒習業者及ヒ職工ガ自己ノ監督ノ下ニ在ル間ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ズ

第三百七十六條 自治産ナルト否トヲ問ハズ未成年者ハ其有意又ハ粗忽ニテ加ヘタル不正ノ損害ニ付キテハ刑事上責任ヲ免ルベキト雖モ民事上責任アリト宣告セララル、コト有リ

第二章、義務ノ効力

第四節、義務ノ諸種ノ體様

第一款、成立ノ單純、有期又ハ條件附ナル義務

第四百十三條 合意ノ主タル目的ヲ不能又ハ不法ノ條件ニ繋ラシメタルトキハ其合意ハ無効ナリ

第三章、義務ノ消滅

第七節、銷除

第五百四十四條 無能力者又ハ錯誤ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人又ハ強暴若クハ詐欺ニ因リテ承諾ヲ獲ラレタル人ノ約シタル義務ハ五ケ年ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ履行ノ訴ニ對シ此等ノ者ヨリ爲シタル抗辨ニ因リテ裁判上之ヲ銷除スルコトヲ得

第五百四十五條 右時効ノ期間ハ強暴ニ付テハ其強暴ノ止ムマテ錯誤ニ付テハ其錯誤ヲ覺知スルマテ詐欺ニ付テハ其詐欺ヲ發見スルマテ無能力ニ付テハ其無能力ノ止ムマテ之ヲ停止ス
然レモ瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治産者ノ合意ニ付テハ右時効ハ其者カ能力ヲ復シタル後其承諾シタル行

處分能力ノ有無ニ就テ

爲ノ通知ヲ受ケ又ハ其行爲ヲ了知シタル時ヨリ進行ス

第五百四十七條 未成年者又ハ禁治産者ノ財産ニ關シ後見人ノ爲シタル合意及ヒ行爲ハ無能力者ノ利益ノ爲メ法律ノ定メタル方式及ヒ條件ヲ遵守セザリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ得

未成年者自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ行爲ニ付テハ特別ナル方式及ヒ條件ニ依ラザリシトキ又禁治産者ノ行爲ニ付テハ何等ノ場合ヲ問ハズ亦其行爲ヲ銷除スルコトヲ得

第五百五十條 商業又ハ工業ヲ營ムノ許可ヲ得タル自治産ノ未成年者ハ其營業ニ關スル行爲ニ付テハ之ヲ成年者ト看做ス然レモ其未成年者ハ普通法ニ從フニ非サレハ不動産

ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五百五十二條 承諾ノ瑕疵ニ因リテ行爲ノ銷除ヲ得タル成年者ハ其行爲ニ因リテ既ニ受取リタル總テノ物ヲ返還スル責ニ任ズ

第五百五十三條 不動産ノ讓渡カ無能力、錯誤又ハ強暴ノ瑕疵ニ因ル銷除ニ服スルトキハ第三百五十二條及ヒ第三百五十三條ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ第三取得者ニ對シテ其銷除ヲ爲スコトヲ得

民法財産取得編

第十章、寄托及ヒ保管

第一節、寄托

第一款、任意寄托

第二百九條 寄托ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スルモノニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ズ

處分能力ノ有無ニ就テ

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二百三十四條 代理ハ無能力者ニモ有效ニ之ヲ委任スルコトヲ得然レモ其代理人ハ委任者ニ對シテハ無能力者ノ制限アル責任ノミヲ負擔ス

第四節 代理ノ終了

第二百五十一條 代理ノ履行又ハ其履行ノ不能及ヒ代理ニ付シタル期限ノ到來又ハ條件ノ成就ノ外尙ホ代理ハ左ノ諸件ニ因リテ終了ス(第一第二第四畧ス)

第三、委任者又ハ代理人ノ死亡破産無資力若クハ禁治産

第十三章 相續

第一節 家督相續

第二款 家督相續人ノ順位

第二百九十七條 法定ノ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ得ベキ正當ノ原因ハ左ノ如シ(第一第三第五第六ヲ畧ス)

第二、民事上禁治産及ビ准禁治産

第四、家政ヲ執ルニ堪ヘサル不治ノ疾病

第四節 相續ノ受諾及ヒ拋棄

第一款 單純ノ受諾

第三百二十四條 受諾ハ左ノ原因ノ一アルニ非ザレハ之ヲ銷除スルコトヲ得ズ(第四畧ス)

第一、身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ受諾シタルトキ

第二、詐欺ノ爲ニ受諾シタルトキ

第三、無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ受諾シタルトキ

處分能力ノ有無ニ就テ

此銷除訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル銷除訴權ノ期間及ヒ條件ニ從フ

第三款、拋棄

第三百三十八條 相續ヲ拋棄シタル者ハ他ニ受諾シタル相續人アリト雖モ左ノ場合ニ於テハ其拋棄ヲ銷除スルコトヲ得

第一、身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ、
拋棄シタルトキ

第二、詐欺ノ爲メニ拋棄シタルトキ

第三、無能力者又ハ後見人ガ方式ニ違ヒテ拋棄シタルトキ

此銷除訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル銷除訴權ノ期間及ビ條件ニ從フ

第十四章、贈與及ビ遺贈

第一節、贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力(下ニ出タス)

第二節、贈與(下ニ出タス)

第三節、夫婦間ノ贈與ノ特例

第三百六十六條 未成年ノ夫又ハ婦ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ人ノ許諾及ビ立會ヲ得且夫婦財産契約ヲ以テスルニ非サレハ贈與ヲ爲スコトヲ得ズ

第四節、遺贈(下ニ出タス)

第五節、包括ノ遺贈又ハ遺贈ニ基ク不分財産ノ分割
第四百九條 不分財産ノ分割ハ所有者各自ノ合意ヲ以テ自由ニ之ヲ爲スコトヲ得

然レモ左ノ場合ニ於テハ裁判ヲ以テスルニ非サレハ其分割ヲ爲スコトヲ得ス(第二第三畧ス)

第一、所有者中ニ未成年者禁治産者又ハ瘋癲者アリ

處分能力ノ有無ニ就テ

テ其後見人又ハ假管理人アラザルトキ
第四百十三條 未成年者禁治産者癡癲者又ハ不在者ノ
爲メ定メタル規定ニ違ヘル分割ハ其者ノ利益ニ於テ
ノミ假定ノモノトス

第四百十四條 分割ノ際利益ノ相反スル無能力者又ハ
不在者ノ數人アルトキハ其各自ノ爲メ臨時保佐人又
ハ管理人ヲ指定ス可シ

第十五章、夫婦財産契約

第四百二十三條 婚姻ヲ爲スコトヲ得ル未成年者ハ婚
姻ノ許諾ヲ與フ可キ尊屬親又ハ家見人ノ立會ニテ財
産契約ヲ爲スコトヲ得

民法債權擔保編第一部對人擔保

第二章、債務者間及ビ債權者間ノ連帶

第二節、債務者間ノ連帶

第五十八條 債務者ノ一人ノ無能力又ハ承諾ノ瑕疵ニ
基キタル答辨方法ハ其人自身ニ非レハ之ヲ援用スル
コトヲ得

第五章、抵當

第二節、抵當告示

第二百十七條 未成年者ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ノ法
律上ノ抵當ヲ登記スルト同一ノ場合ニ於テ同一ノ條
件ニ從ヒ後見人之ヲ登記スルコトヲ要ス
後見人登記ヲ爲サ、ルトキハ後見監督人又ハ親族會
員其登記ヲ爲スコトヲ要ス若シ之ヲ爲サ、ルトキハ
未成年者ニ對シ連帶シテ損害賠償ヲ負擔ス
未成年者モ亦自治産者ト爲リタル後ハ其登記ヲ求ム
ルコトヲ得

第二百十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ禁治産

處分能力ノ有無ニ就テ

者ノ法律上ノ抵當ニ之ヲ適用ス

民法證據編

第一部、證據

第二章、直接證據

第二節、口頭自白

第三十五條 自白ハ其自白ニ繫ル權利ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有效ニ之ヲ爲スコトヲ得ス但法律上自白ノ證據ヲ禁シタル事實ニ非サルトキニ限ル

第四十一條 一方ノ當事者カ廢疾其他ノ原因ニ由リテ語ルコトヲ得スト雖モ書面又ハ容態ヲ以テ裁判所ニ答フルコトヲ得ルニ於テハ裁判所ノ自白ノ規則ヲ之ニ適用ス

第二部、時效

第四章、時效ノ停止

第三十一條 期間五ケ年以下ノ時效ハ成年者ニ對スル如ク未成年者及ヒ禁治產者ニ對シテ進行ス但後見人ガ此等ノ者ノ權利ヲ行フコトヲ怠リ又ハ正當ノ原因ナクシテ此權利ヲ覺知セサル場合ニ於テハ此等ノ者ヨリ其後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケズ

五ケ年ヲ越ユル時效ニ關シテハ其期間ハ成年ニ達シタル未成年者又ハ精神ノ回復シタル禁治產者ヲシテ常ニ其權利ヲ行フ猶豫ヲ得セシムル爲メ最終ノ一ケ年停止ス

第三十三條 前二條ノ規定ハ無能力者ハ自身ニテ爲シタル行爲ノ銷除訴權ノ時效停止ニ關シテ財產編第五百四十五條及ヒ第三百四十六條ニ定メタルモノヲ妨ケス

處分能力ノ有無ニ就テ

民事訴訟法

第一編、總則

第二章、當事者

第四十五條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス職權ヲ以テ訴訟能力、法律上代理人タル資格及ヒ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ニ欠缺ナキヤ否ヤヲ調査ス可シ

第六十三條 原告若クハ被告自ラ訴訟ヲ爲サ、ルトキハ辯護士ヲ以テ訴訟代理人トシテ之ヲ爲ス
辯護士ノ在ラサル場合ニ於テハ訴訟能力者タル親族若クハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲シ若シ此等ノ者ノ在ラサルトキハ他ノ訴訟能力者ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

第二百二十六條 裁判所ハ辯論ニ與カル者數又ハ啞ナル

トキ之ニ文字ヲ以テ理會セシムルコトヲ得サル場合ニ限リ通事ヲ立會ハシムルコトヲ得

第二百二十七條 裁判所ハ相當ノ演述ヲ爲ス能力ノ缺ケタル原告若クハ被告又ハ訴訟代理人若クハ保佐人ニ其後ノ演述ヲ禁シ且新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ演述セシム可キコトヲ命ス可シ

第一百三十八條 訴訟能力ヲ有セザル原告若クハ被告ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ之ヲ爲ス

第二百六條 左ニ掲クルモノヲ妨訴ノ抗辨トス(他項畧ス)

第四、訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辨
第三百十條 左ノ者ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルコトヲ得(他項畧ス)

第一、訊問ノ時未タ滿十六歳ニ達セサル者

處分能力ノ有無ニ就テ

第二、宣誓ノ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ノ發達ノ缺クル者

第三百六十四條 訴訟無能力者ノ法律上代理人カ訴訟ヲ爲ストキハ法律上代理人若クハ訴訟無能力者ヲ訊問ス可キヤ又ハ此等ノ者ヲ共ニ訊問ス可キヤ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ決定ス

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁ヲ忌避スルコトヲ得無能力者、聾者、啞者、及ヒ、公權ノ剝奪人又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

處分能力 (Dispositionsfähigkeit) ハ治産能力 (Verfügungsfähigkeit) トモ謂ツヘク、一箇人カ其事務ヲ自ラ處辨シ、其利益ト權利トヲ自ラ保護スルノ能力ヲ云ヒ、就中其財産ヲ司配シ、之ヲ整理シ、法律上有效ナル契約ヲ結ビ、結婚ヲ遂ゲ、遺言ヲナスノ能

處分能力ノ定義

力ヲ指スモノニシテ、民法上、私權行使ノ能力ト稱ス。

此能力アルニハ法律上規定スル處ノ成熟年齢ニ達シ、且左ノ三件ヲ具備スルヲ要ス。

(一) 民事交際 (bürgerlicher Verkehr) 上ノ法規及ヒ慣例ニ付キ充分ナル經驗アルコト。

(二) 右ノ經驗ヲ吾事ニ當リテ直ニ應施スルニ必須ナル辨別力アルコト。

(三) 處置ノ利害當否ヲ選擇シ且自ラ獨リ決斷スルヲ得ルコト。

責任能力ニ就テモ一定年齢ニ達シテ初メテ完全ヲ期シタルカ如ク、處分能力(即チ善ク民事上ノ事件ニ處置スル能力)モ亦之ヲ一定年齢後ニ望ムヘシ、而シテ民法上ノ成年ハ諸國ノ法律ニ就キ見ルニ多クハ刑法上ノ成年ヨリ後レタリ。是レ責任能力ニテハ其要徳義ノ點ニ在レテ、處分能力ニテ

民法上ノ成年

處分能力ノ有無ニ就テ

ハ其要、叡智ノ點ニアリテ。道德心ノ發達ハ養育、照準、教化ニヨルモノニシテ。小兒ハ既ニ之ヲ家庭ニ受ケテ、準他夙早ニ成立スルモ。社交上ニ於ケル權利義務ノ辨識ニ至リテハ。其人カ公衆社會ニ立交リテ後ヨリ初メテ生ズルモノナリ。サレハ法禁行爲ノ何タルヲ辨シ、亦自恣ノ驅動ヲ抑ユルノ能力ハ。社會ノ一人トシテ己カ權利義務ヲ行使保護スル能力ノ如キ繁錯ナルモノニ比スレハ容易ニシテ且夙ニ存スベキナリ。然ルニ我民法ハ其成年ヲ滿二十歳トシテ。之ヲ刑法ニ規定スル成年ト同一ニセリ。

又諸國多數ノ法律ニハ民法上、處分能力ニ數多ノ程度ヲ立テ。成年以下ヲ小兒 (Kindheit) 幼年 (Unmündigkeit) 未成年 (Minderjährigkeit) ノ三期ニ區別シ。小兒ニハ治産ノ自由ナク。幼年ニハ治産ノ自由ヲ制限シ。未成年ニハ治産ノ自由ヲ或ル事件ニ關シテノミ制限シタレ。我民法ニ於テハ成年未成年ヲ別チ

禁治産

行爲ノ銷除

未成年ニ於テ十五歳以上(或場合ニハ十七歳以上)ナルモノニ條件ヲ附シテ治産ヲ許セリ。即親權ノ下ニ立テル未成年者ハ十五歳ニ至レハ自治産ヲ許サル、トヲ得ベク。後見ニ服スル未成年者ハ十七歳ニ至レハ親族會ヨリ自治産ヲ許サル、トアルヲ得ルト規定セリ。而シテ其ノ十五歳未滿(又十七歳)ナルモノハ財産ヲ取得スルトヲ得ス、契約ヲナシ契約ヲ受クルトヲ得ス、損害ヲ申立ルヲ得ス。女子ニシテハ自ラ婦德ニ關スル名譽ヲ防護スルヲ得ズ。

處分能力ハ法律規定ノ年齢ニ達シタル後ニ之アリ。然レモ此年齢ニ達シタル後ニテモ法律上、其治産自由ヲ禁スルコトアリ。之ヲ禁治産ト云ヒ。必ス所治區裁判所判事ノ裁判言渡ヲ待テ初メテ之ヲ爲スコヲ得ルモノナリ。而シテ其禁ヲ解キテ其人ノ權利ヲ回復スルモ、亦解禁ノ裁判言渡ヲ經ザルベカラズ。禁治産ノ中ニシタル民事上ノ行爲ハ法律上、烏

處分能力ノ有無ニ就テ

有ニ歸スルモノニシテ之ヲ「銷除」ト名ツク。禁治産者ニハ後見人ヲ附スルノ規定タリ。法律ハ又處分能力ノ完全缺亡ニ至ラズ其度ノ稍輕キモノアルヲ認メ之ニ「準禁治産」ヲ爲ス。一ヲ得ト規定シ。而シテ其執行其解禁ニ付キテハ禁治産ト規定ヲ同クシ。準禁治産者ニハ保佐人ヲ附ス。トセリ。

處分能力ハ完全尋常ナル精神状態ヲ須ツモノニシテ。精神ニ疾病アルハ處分能力ヲシテ制限セラレシメ又ハ其缺亡ヲ致ス。禁治産ハ即チ此場合ニ於テ之ヲナシ。又此ノ如キ人ニハ其他民事上ノ行爲ニ就テモ權利義務ヲ行フノ能力減弱乃至缺亡ス。我民法ニ從ヘハ精神病者ナル名稱ヲ附セザルモ其立法ノ精神ヲ推シテ解シ云フニ。精神病者ハ家督相續ニ於テ遺産ノ受諾拋棄ニ於テ贈與遺贈ニ於テ契約ニ於テ後見人トシテ親族會員トシテ皆此點ニ減弱乃至缺亡アル爲ニ私權ノ制限褫奪ヲ受クベキモノタリ。

心神喪失及ヒ心神耗弱

然ルニ法醫上一ノ困難ナル問題ノ生セルハ民法第十二章第二節ニ准治産ノ規定ヲ設ケ。心神耗弱者ヲ以テ聾啞者旨者及ヒ浪費者ト同視シ。准禁治産ヲ爲スコトヲ得ベキモノトセルヲナリ。抑心神喪失ト稱シ。心神耗弱ト稱セルハ。其ニ立法ノ旨意ヲ得タルモノト云フベキカ。心神喪失ノ字面ノ非ナルハ責任無能力トシテ刑法ニ知覺精神ノ喪失ト云ヘルノ非ナルト同ク。心神喪失ト云ヘル中ニハ精神病即チ癡狂ヲ包容スベクシテ。精神病ニモ其他ノ状態ニモ見ルベキ無意識ノ状態ヲ指セルニ非サルハ民法ナル丈ニ刑法ヨリハ猶更判然タリ。而シテ論法上ヨリ考フルニ之ヲ心神耗弱ト對峙セシムル以上ハ。語弊上喪失トハ其全ク缺亡セルヲ指シ。耗弱ハ缺亡迄ニハ至ラザル諸程度ノ減弱ヲ指スモノト解スルヲ當然ノ解義トナスニ至ルナリ。司法家ハ設令。實際ニ於テ此ノ如キ舛誤ナシト論ズベシト云フト雖モ。耗弱

處分能力ノ有無ニ就テ

者ト喪失者トノ差別ハ醫學實地上頗ル混雜ナル紛亂ヲ來
 タス。必ヤ多カラシ。心神喪失ニ代ヘテ「白癡癲狂等精神障
 礙」ト云フヲ最モ適當ト信ズ。若シ然ラズハ或ハ心神耗弱ノ
 准禁治産又ハ禁治産ニスベキ程度ヲ示スベシ。然レモ是モ
 亦到底實地上ノ紛亂ヲ致スヲ免ヌカレザルベシ。要スルニ
 精神耗弱者ヲ准禁治産トナスノ一項ハ的切ヲ缺ケリ。
 處分能力ノ有無ニ就キテ法醫ガ某人ヲ診査スルニ當リテ
 ハ其人ノ心神喪失ノ常況ニ在ルヤ否ヤヲ檢スベク。而シテ
 其人ノ心神喪失ニ屬スルヤ、又ハ心神耗弱ニ屬スルヤヲ說
 明スベシ。此法律上ノ要求ハ醫學ノ上ヨリ考フレハ、甚應對
 ニ苦ム所ナリ。何トナレハ心神耗弱者トハ立法家ノ考案ニ
 ヨレハ尋常人ヨリモ智力ノ稍薄弱ナルモノヲ指セルナル
 ベシ。然レモ其薄弱ノ程度ニ付キテ紛爭ノ起リタルハ、其
 薄弱ノ程度ハ果シテ何ニヨリテ定ムベキヤ。幾何度以下ヲ

禁治産トシ、幾何度以上ヲ准禁治産トスベキヤ。是レヲ判ス
 ルコトハ頗ル難シトナス。之ヲ決スルニハ固ヨリ法醫家ノ鑒
 定ヲ根據トスルノ他ナキモ、精神病學上、立法家ノ望ミシカ
 如キ精確ナル人間叡智ヲ測ルノ尺度ナシ。鑑定家ニシテ精
 神病殊ニ白癡ノ爲ニ智力ノ障礙セラル、ヲ以テ之ヲ心神
 喪失ト診定シ。而シテ其學問上正當ニカク認ムベキノ理由
 アラハ、司法家ハ果シテ之ヲ孰レニ決スベキヤ。要スルニ心
 神喪失ト稱スル文字ニモ足ラサル所アリ。心神耗弱ト稱ス
 ル文字モ充分ナル意義ヲ盡サス。精神ノ薄弱ト稱スルモノ
 ハ、中ニハ精神ノ喪失ニ至ル迄ノ諸階級ヲ包蓄スベク。而シ
 テ精神ノ喪失ナルモノ亦其完全ノ缺亡ヲ指シタルニアラ
 ザルヤ明ナレバナリ。(精神病者即狂者ニハ精神ノ異常アル
 モ精神ノ缺亡ハ必ス存セズ)
 其他生來(又ハ最幼時ニ得シ)聾啞、盲ノ如キモ亦之ヲ所謂心

處分能力ノ有無ニ就テ

神喪失ト同格ニシテ可ナランカ。之ヲ浪費者ト同視スルハ
稍失當ナルベシ。其理由ノ如キハ責任能力ニ就キテ論スル
所及ヒ左ニ猶論及スル所ヲ見テ知ルベシ。

我民法ノ成文ヨリ考フルニ法醫カ處分能力ニ就キテ診査
決定スベキハ二ノ場合ニ之アリ。其一ハ某人ヲ禁治産准禁
治産ニシ又ハ其財産ヲ假管理ニ附スベキヤ、又ハ既ニ此言
渡ヲ受ケタルヲ解除スベキヤ如何ト云フキニアリ。又一ハ
禁治産、准禁治産、財産假管理ヲ受ケザル人、某々ノ民法上所
置ヲナシ。而シテ其當時其行爲ヲ銷除スベキ精神障礙ノ狀
態ニアリタリト主張サル、キニアリ。

(甲)禁治産、後見ノ設置

法律文(改正民法)

第二節、能力

第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本

人、配偶者、四親等内ノ親族、戸主、後見人、保佐人又ハ檢事
ノ請求ニヨリ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第八條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス

第九條 禁治産者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條
ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス

第十一條 心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ヒ浪費者ハ準禁
治産者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得

第十二條 準禁治産者ガ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ
其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一、元本ヲ領収シ又ハ之ヲ利用スルコト

二、借財又ハ保證ヲ爲スコト

三、不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目
的トスル行爲ヲ爲スコト

禁治産、後見ノ設置

四、訴訟行為ヲ爲スコト
 五、贈與和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
 六、相続ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト
 七、贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト
 八、新築改築増築又ハ大修繕ヲ爲スコト
 九、第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル賃貸借ヲ爲スコト
 裁判所ハ場合ニ依リ準禁治産者カ前項ニ掲ケサル行為ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得
 前二項ノ規定ニ反スル行為ハ之ヲ取消スコトヲ得
 第十三條 第七條及ヒ第十條ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ準用ス

民法人事編

第十二章、禁治産

第一節、民事上禁治産

第二百二十二條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ時々本心ニ復スルコト有ルモ其治産ヲ禁スルコトヲ得
 第二百二十七條 疾病ノ性質ト資産ノ狀況トニ從ヒテ禁治産者ヲ自宅ニ療養セシメ又ハ之ヲ病院ニ入ラシムルハ親族會ノ決議ニ依ル但瘋癲病院ニ入ラシメ又ハ自宅ニ監置スル手續ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム
 第二百三十條 禁治産者ハ禁治産ノ裁判言渡ノ日ヨリ無能力者トス
 裁判言渡後ニ爲シタル禁治産者ノ行為ハ之ヲ銷除スルコトヲ得
 禁治産ノ裁判言渡前ニ爲シタル禁治産者ノ行為ニ關

禁治産。後見ノ設置

シテモ其行爲ノ當時ニ於テ喪心ノ明確ナルトキハ銷
除訴權ヲ行フコトヲ得

第二百三十一條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配
偶者、親族、姻族、戸主、後見人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其
禁ヲ解ク可シ

禁治産者ハ解禁ノ裁判言渡後ニ非サレハ其權利ヲ回
復スルコトヲ得ス

第二節、準禁治産

第二百三十二條 心神耗弱者、聾啞者、盲者及ヒ浪費者ハ

準禁治産者ト爲シテ之ヲ保佐ニ付スルコトヲ得

準禁治産ノ言渡ハ配偶者、三等親内ノ親族及ヒ戸主ノ
請求ニ因リ區裁判所之ヲ爲ス

保佐人ニ付テハ第二百二十四條及ヒ第二百二十五條
ノ規定ヲ適用ス

第二百三十五條 準禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、

配偶者、親族、姻族、戸主、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ
其禁ヲ解ク可シ

第四節、瘋癲者ノ財産ノ假管理

第二百三十八條 禁治産ヲ受ケサル瘋癲者アルトキハ

配偶者、親族、戸主及ヒ檢事ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ特
別法ニ定ムル手續ニ從ヒ之ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ自
宅ニ監置スルコトヲ得

此場合ニ於テハ裁判所ハ直チニ假管理人ヲ指定ス

第二百三十九條 瘋癲病院ニ入り又ハ自宅ニ監置セラ
レタル者ハ入院中又ハ監置中其財産ヲ管理シ及ヒ處
分スルコトヲ得ス

第二百四十一條 瘋癲者ノ入院中又ハ監置中行爲ヲ爲
シタル證據アルキハ其行爲ヲ銷除スルコトヲ得、但相

手方カ瘋癲者ノ本心ニテ行爲ヲ爲シタルコトヲ證ス
ルトキハ此限ニ在ラズ
某々カ自ラ治産スルヲ禁シ之ニ後見ヲ附スル手續ハ民事
訴訟法ニヨリテ之ヲ定ム

民事訴訟法補則

第二十條 禁治産ノ申立ハ治産ヲ禁セラル可キ者ガ

普通裁判權ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十一條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコ

トヲ得其申立文ハ申立ノ理由タル事實及ビ證據方

法ノ表示ヲ包含ス可シ

第二十二條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ビ證

據方法ニ依リ職權ヲ以テ心神喪失ノ常況ニ在ルヤ

否ヲ定メル爲ニ必要ナル探知ヲ爲シ且適當トスル

證據方法ヲ調フ可シ

裁判所ハ訴訟手續ヲ開始スルノ前診斷書ノ提出ヲ
命スルコトヲ得

檢事ハ總テノ場合ニ於テ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ
追行スルコトヲ得

證人及ヒ鑑定人ノ訊問及ヒ宣誓ニ付テハ民事訴訟
法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 裁判所ハ公開セサル法廷ニ於テ一人又
ハ數人ノ鑑定人ノ立會ヲ以テ治産ヲ禁セラル可キ
者ヲ訊問ス可シ此訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サ
シムルコトヲ得

右訊問ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ實施シ難ク又ハ裁判
ノ爲メニ必要ナラズ又ハ治産ヲ禁セラル可キ者ノ
健康ニ害アリトスルトキハ之ヲ爲サ、ルコトヲ得
第二十四條 禁治産ノ宣告ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

禁治産。後見ノ設置

右宣告ハ豫メ治産ヲ禁セラル可キ者ノ心神喪失ノ常況ニ付キ一人又ハ數人ノ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 裁判所ハ治産ヲ禁セラル可キ者ノ身體ノ監護又ハ財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 禁治産ニ付キ爲シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人及ヒ檢事ニ之ヲ送達ス可シ

第二十八條 禁治産ヲ宣告スル決定ハ法律上ノ後見人アルルハ其後見人ニ職權ヲ以テ之ヲ通知ス可シ

第二十九條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ訴訟手續ハ第廿二條ノ規定ヲ準用ス
第三十條 禁治産ヲ宣言スル決定ニ對シテハ一ヶ月

ノ期間内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

訴ヲ起スノ權利ハ禁治産者其後見人及民法ノ規定

ニ從ヒ禁治産ノ申立ヲ爲スノ權ヲ有スル者ニ屬ス

右期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ヲ知リタル日

ヲ以テ始マリ其他ノ者ニ對シテハ後見人ノ選定ヲ

以テ始マリ又法律上ノ後見ノ場合ニ於テハ其決定

ヲ法律上ノ後見人ニ通知スルヲ以テ始マル

第三十一條 訴ハ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方

裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 禁治産ニ對シテ不服ヲ申立ル訴ニハ他

ノ訴ヲ併合スルコトヲ得ス

反訴ハ之ヲ爲スコトヲ許サズ

第三十五條 第二十三條及ビ第二十四條第二項ノ規定ハ不服ノ申立ノ訴ニ付テノ訴訟手續ニ之ヲ準用

ス裁判所ハ區裁判所ニ於テ爲シタル鑑定ヲ十分ナ
 リト認ムルトキハ鑑定人ノ訊問ヲ爲サ、ルコトヲ得
 第三十六條 不服申立ノ訴ヲ理由アリトスルトキハ
 禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消ス可シ
 然レモ此取消ノ判決ハ後見人ノ既ニ爲シタル行爲
 ノ效力ニ影響ヲ及ホサス
 第三十八條 受訴裁判所ハ禁治産事件ニ付キ爲シタ
 ル總テノ終局判決ヲ區裁判所ニ通知ス可シ
 第三十九條 禁治産ノ解止ニ付テハ第二十五條ヲ除
 ク外本章ノ規定ヲ準用ス
 第四十條 準禁治産事件ニ付テハ左ノ特別ナル規則
 ヲ除ク外本章ノ規定ヲ準用ス
 第二十二條第二項ハ浪費ニ之ヲ適用セズ
 又同條第三項第二十五條第二十三條及ヒ檢事ニ關

スル規定ハ總テノ準禁治産者ニ之ヲ適用セス
 準禁治産ヲ開止スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツ
 ルコトヲ得

證人ヲ審問シ、鑑定人ヲ招致シ、被告ニ處分能力カナキコノ
 判明セハ、區裁判所ハ其禁治産ヲ宣告ス。
 鑑定人トシテ醫ノ其人ヲ診査スルニ當リテハ、主トシテ先
 ズ其人ハ心神喪失ノ狀況ニ在ルヤ否ヤヲ決スベシ。然レモ
 心神喪失ナル稱ハ諸種ノ精神病ノ狀態ニシテ治産シ得サ
 ルモノヲ指スニ足ラザルガ故ニ、法醫ハ須ラク精神病學上
 ヨリ病名ヲ附シ、之ヲ心神喪失即チ尋常ナル精神作用ヲ失
 ヒタルモノト認ムベキヤ否ヤノ説明ヲ下スベシ。之ヲ心神
 耗弱者ナル不明不倫ナル稱呼ト區別スルコトニ付キテハ最
 モ注意ヲ置カザルベカラス。
 民事鑑定ニ於テモ被告ノ精神狀態ヲ豫メ知ルコト必要ニシ

テ。裁判終決ノ日、初メテ鑑定醫ヲ致シテ精神状態ヲ鑑定セシムルハ不適當ナリ。精神状態ノ健疾ヲ知ルニハ長時日ノ親驗實視ト既往症ノ精究トヲ要スルモノナリ。鑑定ノ材料ニ不足アラハ。參考人ノ尋問ヲ請求スベシ、特ニ價值アルハ主治醫ノ証言、既往症、從來ノ健疾ヨリ、從來ノ經歷、性質、品行ノ如何等ナリ。

(二)精神病者(白癡及ヒ狹義精神病)ノ處分能力

生○來○ノ○白○癡○ニハ數多ノ程度アリ。愚鈍癡鈍ヨリ以テ懦弱性白癡、高度ノ白癡ニ至ルマテ。其間ノ段階凡ソ幾多ナルヲ知ラス。其最モ輕キモノト最モ重キモノトヲ比セハ。其差異ノ甄然タルハ固ヨリナルモ。其間ナル諸程度ノ判別ニ至リテハ實ニ困難ナリ。故ニ之ヲ禁治産及ヒ完全處分ノ二ツニ別ツハ猶ホ便宜ナリ。此ノ如キ場合ニ於テ。其人ガ己ガ行爲ノ輕重(結果)ヲ辨別シ、之ニヨリテ意思ヲ處決シ得ルヤ否ヤヲ

白癡

見レハ。以テ二者ヲ分別スベケレハナリ。我民法ノ如ク之ヲ三級ニ區別スルルキハ。完全ニ處分不能ト認ムベキヤ。又ハ保佐人ヲ置キ之ニ諮詢シツ、半ハ處分スルノ能力アリト認ムベキヲ考察セザルベカラス。白癡ニ屬スベキ癡愚ノ中ニハ、通常生活ニシテ左程智力ヲ要セヌトニ付キテハ、自己ノ利損ヲ辨シ民事上ノ義務ヲ盡スヲ解スルモノ少ナカラス。然レモ亦道德微智ノ狹隘低度ナル爲ニ其意思確立セス。他人ヨリ容易ニ誘拐シ轉動スベキヲ以テ常人ノ爲ニ利用セラレ爲ニ又損耗ヲ蒙リ易シ。殊ニ其處分スベキ事項ノ繁雜ニシテ之ヲ急速ニ處斷スベキハ於テ、此微智薄弱ノ程度明トナルヲ見ルベキナリ。故ニ法醫家ハ精神ノ薄弱ノ程度如何ヲ診斷スルノミニテハ足ラス。其精神薄弱ノ程度ト其該當スル事件トノ關係比準如何ヲ醫學上ニ詮量スベシ。立法家カ心神耗弱トシテ準禁治産ヲ命セントスルノ主意ハ

白癡者ノ處分能力

癡狂

蓋シ此邊ニアラレ。然レモ是レ該當事件ニ付キテ處分能力
 ノ有無ヲ論ス可キノミ。初メヨリ之ヲ有無不全ノ三段ニ分
 ツトハ至難至艱ナリ。
 生來ノ白癡癡愚者ハ其病狀ハ夙ニ(殊ニ小學教育時)較明ト
 ナリ。其人カ小兒ノ齡ヲ過キテ自ラ生養スルニ據レハ精神
 機能ノ不充分ナルトハ益分明トナリ行キ。且生活上社會上
 緊要ノ地位ニ立ツトナカルベキヲ以テ緊要ノ度少ナシ。
 癡狂ニ罹レル人ハ其行爲頗ル妥貼ナルカ如キモ。亦處分能
 力ノ疑ハシク、禁治產ヲナスベキトアリ。此ノ如キ患者ニハ
 意思缺乏、勇氣缺乏アリ。爲ニ自ラ其權利其利益ヲ保護スル
 トヲ敢テスル能ハス。又民事上職務上ノ義務ニ從フトヲ敢
 テスル能ハザルモノナリ。癡狂者ニシテ鬱憂苦悶ノ爲メ、疾
 病的自卑自棄ノ爲メ、從前ノ罪業ニ悔悟スルノ過敏ナルカ
 爲メ、懺悔ヲ表ハシ罪障ヲ攘ハントシテ我財有ヲハ貧人ニ

躁狂

妄覺狂及ヒ偏執狂

施與シ寺院ニ附施シ以テ自ラ倒産スルモノアリ。
 躁狂ハ輕キモノ(即所謂發揚狂)スラ、理性ヲ缺キタリ。其自家
 感覺ノ亢盛シ。且疾ノ爲ニ心ヲ種々ノ企圖計畫ニ用フルヤ。
 最モ甚キ過誇疎濫ノ射倖事業ヲナシ。諸方漫遊ニ金錢時日
 ヲ浪費シ。色情亢奮ノ爲ニハ身ヲ戀愛ニ委テテ損失ヲ招キ。
 身分事情ノ不相應ナル結婚ノ契約ヲナシ。此ノ如クシテ暫
 時ニ數世累襲ノ身代ヲ蕩盡スルトアリ。
 妄覺狂、偏執狂ニハ一見叡智ノ能力ノ猶ホ完備スルカ如ク。
 妄想ノ存スルヲ見ルノミニシテ。且屢其病症ヲ隱匿(匿狂)ス
 ルコトアリテ。其處分能力ノ有無ヲ鑒スルト頗ル困難ナル
 コトアリ。發越性妄想(誇大妄想、宗教妄想)アルモノハ其症狀
 夙ニ發生シ、且容易ク其妄想ヲ吐露シ、其妄想ノ性質又其疾
 病ニ出ツルトヲ知リ易キモ。抑鬱性ノ妄想(被害妄想)アルモ
 ノハ診斷此ノ如クニ容易ナラズ。殊ニ其早期ニ於テ然リト

シ。其人ニ就キテ妄想ヲ証明スルヲ難シ。匿狂ハ殊ニ多ク。妄想ヲ隠匿シテ見ハサ、ルモノ、如キハ、長久ノ觀察、反復ノ診査、其舉作ノ全體ヲ評價追究シテ後纔ニ之ニ決スベキナリ。其後期ニ至リ病症ノ猶盛トナルニ及ビテハ患者ノ之ヲ掩藏スルヲ能ハサルカ爲ニ診斷ハ左程ニ困難ナラズ。

俗人中ニハ此ノ如キ患者ニ處分能力ノ一部不能アリトシ、其全部ヲ無シトスベカラズトノ說ヲナスモノアルヲ猶ホ偏執狂者ノ責任能力ニ付キテ其妄想ニ關シタルヲノミニハ責任ナク。其他ニハ責任アリト認ムルカ如クナリ。蓋シ此ノ如キ病者ニハ妄想ノ宛然精神内ニ獨立シテ其ノ他ノ心意界ヲ犯サ、ルガ如ク、一生ノ間睿智ノ割合ニ損耗セサルアルガ如クナルカ故ニ此說アルナリ。然レモ熟ラ之ヲ察スルニ。患者ヲシテ若シ妄想以外盡ク健全ナラシムレハ。彼ハヨク妄想ノ妄想タルヲ知リテ之ヲ批正スベク。妄想ヨリ生

定期狂及ビ回歸狂

精神ノ清明ナル間歇時

ズル衝動ノ妄想ナル病症ヨリ生スルコトヲ知リテ之ヲ克制スベク。妄想(時トシテハ極メテ愚罔非理ナル)ヲ改メ妄想ヲ抑へ。之カ爲ニ己カ舉作ヲ左右セラル、ガ如キナカルベシ。如何ナル處置ヲ以テシテモ、如何ナル説明ヲ以テシテモ、其妄想ノ(少クモ病中)確乎拔クベカラス、其妄想ニ從ヒ舉作ヲナシテ、我利損權義ヲ顧ミザルハ。即チ睿智ノ不全薄弱ナルノ明徴ニアラズヤ。然ルヲ猶ホ一部處分不能ト認メントスルハ抑亦失當ノ意見ナリ。

定期狂及ビ回歸狂ニ付キテハ鬱狂、躁狂、妄覺狂ニ述ベシ所ヲ以テ足レルヲ以テ論スルノ要ナシ。其時ニ發スル精神ノ清明ナル間歇時ニ就キテハ少シク論スルヲ要ス。

精神ノ清明ナル間歇時ハ法律家ノ最モ顧慮苦心スル所ニシテ。現今改正ノ途ニ上リ居ル我民法ニハ「心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ時々本心ニ復スルコト有ルモ其治産ヲ禁ズル

コトヲ得ト規定セリ。是レ蓋シ此般ノ事ヲ指シタルナルベシ。但此間歇時ニ處分能力ノ有リヤ無シヤハ別問題トシテ。其用語ハ極メテ不當ナリトス。何トナレバ精神病者ニ本心ナルベキモノ、存スル理由ナク。其不當ナルハ「疾病ニシテ健康ナリ」ト云フノ不倫ナルカ如ク。本心アルハ即チ病ノ去リ健康ニ復シタルノ時ニシテ、所謂禁治産ノ原因已ミタル時ナリ。立法家ガ「本心ニ復ス」ノ文字ヲ用ヒタルハ前ノ「常況」ト云ヘルニ對シ用ヒタルナラン。サスレハ之ヲ間歇時ノ義ニシテ語ヲ選ヒシナラハ猶ホ可ナラン。常況ト云ヘル語ノ當ヲ得ザルモ上ニ論シタルカ如シ。

扱テ此所謂間歇時ハ精神病者ニ見ルヲ稀ニシテ。且醫學上、之ヲ其病ノ寛解時ト區別スルヲ極メテ難ク。定期狂ニハ其存在最モ較明ナレモ。ソレスラモ之ヲ熟察スレハ醇然病患ナキ時トハ認ムベカラズ。鬱狂、躁狂、妄覺狂、偏執狂ニハ學說

續發癡狂

上之アリト認ムベク。諸種ノ癡狂ニハ之ヲ認ムベカラズ。改正民法ニ於テ「本心ニ復スルコト」ノ場合ヲ除キタルハヨシ。心神喪失ノ語ヲ用ヒ猶ホ常況ノ二字ヲ用フルハ如何アルベキ。常況トハ蓋シ其久キニ亘ルモノヲ指セルカ。

清明間歇時ニ就キテ疑問ノ起リタル場合ニハ當ニ其人其症ニ就キテ之ヲ考究スベク。一概ニ其處分能力ノ有無ヲ決スベカラズ。要スルニ清明間歇時ハ極メテ稀ナルモノナレハ若シ之ヲ稱道シテ其中ニ民法上ノ違犯アリタルハ頗ル疑ヲ存スベキモノナリ。

續發癡狂ニ就キテハ生來ノ癡狂(白癡、癡愚)ノ條ニテ論ジタルヲ參照スベシ。續發偏執狂ニハ妄想ノ存スル他、明ニ精神ノ衰弱ヲ見ルベク。之ヲ心神喪失ノ状態ト診スルヲ難カラズ。

後天性癡狀ハ其他、腦卒中(腦竈病)後、頭傷後、癲癩ノ經過中ニ

精神病者ノ處分能力

腦卒中狂

來リ、又老耄狂麻痺狂トナリ發ス。
 腦卒中癡狂ハ間、回復シテ從前ノ智力ヲ得ルニ至ルコアリ。
 而モ多クハ叡智ノ薄弱ハ永ク殘存スルヲ常トシ、其薄弱ハ
 或ハ輕キコアリ、或ハ重キコアリ、其重キモノハ診斷ニ易ク、
 且其人ノ處分不能ヲシテ疑ナカラシムルモ、其著シカラザ
 ルモノニアリテハ斷定頗ル容易ナラズ、乃チ其叡智ハ之ヲ
 罹疾前ニ比スレハ薄弱ナル迄ニシテ、到頭直ニ癡愚ト云フ
 ベカラザルモノアリ、此ノ如キ人ノ精神薄弱ハ其罹病前ノ
 精神狀態ヲ知レル人ニハ明ラカニ辨スベキモ、之ヲ知ラザ
 ル人ニハ左程常人ヨリ下レリ、所謂ハレザルモノナリ、故ニ
 其人ハ自ラ事ヲ處スルニ當リ氣力ト理解トヲ以テスルコ
 從前ノ如クニアラザルコト固ヨリナルモ、之ヲ處分能力ナ
 シト云ハンハ妥當ニアラザルベク、又或ハ一步ヲ讓リテ其
 叡智ハ常人ヨリ下リ、記憶ノ衰弱アリ、意思ノ寡少アリ、精神

老耄狂

ノ容易ニ疲勞スルコトアリトスルモ、其人ニシテ日常ノ事能
 殊ニ自家ノ事務ヲ正ク見解シ自ラ處辨スルコトヲ得ルモノ
 ナリセバ、一モ二モナク直ニ之ヲ癡默ナリ不能力者ナリト
 云フハ亦妥當ヲ缺キタリト云フベシ、若シ夫レ其人カ日常
 暗熟ノ事物ヲ忘却シ、其善ク知レル人ヲ辨別セズ、疎大ナル
 舛誤ヲナシテ之ヲ悟ラズ、單一ナル事理ヲモ理解セザルト
 キハ、之ヲ處分能力ナシトスルコト固ヨリ至當ナリ。
 腦卒中後ニハ癡默又ハ癡愚ノ他ニ、道德心ノ缺亡及ヒ倒錯
 アリ、又妄想アリ、(追跡妄想)又ハ異常ナル刺戟性及ヒ感情轉
 換ノ傾向アリ、診査ノ際此ニ注目スベシ。
 老耄狂、老人ニ精神ノ衰弱アルハ理ノ見易キモノナリ、其叡
 智薄弱ニシテ漸次ニ來リ、且其度輕ク猶ホ生理的ト稱スベ
 キ程ノモノハ緊要ナラズ、年ノ加ハルニ從ヒ記憶減シ、智力
 衰へ、意思ノ力減スルモ、自家ノ事務ヲ處辨スル能ハズシテ、

精神病者ノ處分能力

爲ニ之ヲ癡狂ト稱スベキ程ノコトハ最高年齢ニ至ルモ稀ナリ。然レモ又一一定ノ誘因アリテ精神ノ強劇倏急ニ荒廢ニ傾クコトアリ。種々ノ重病殊ニ肺炎ノ如キハ其誘因中ノ重要ナルモノニシテ。是ヨリノ後身體遽ニ消削シ精神衰耗シテ高度ノ記憶薄弱ヲ呈シ、自ラ爲スベキ所ヲ知ラズ、思想寡弱ニシテ小兒ノ如クナルニ至ルアリ。此ノ如キモノハ處分不能ナルコトハ論スル迄モナシ。

老人ニハ道德心ノ虧缺ヲ致スアルコト稀ナラズ。之カ爲ニ其人ノ性行、從前トハ一變シ。或ハ之ヲ第一症候トシテ老耄狂ヲ發スルコトアリ。習禮風儀ヲ顧ミス、放慢縱肆トナリ、起居飲食不整規トナリ、浮薄ナル情交ヲ訂シ、妓館ニ遊ビ、其他色ニ荒ミ已マス。爲ニ或ハ刑法ヲ觸犯シ。或ハ大ニ自家ノ損失ヲ招クコトアリ。其色情ノ爲ニ、我ガ意ヨリ又ハ他人ニ使喚セラレテ、結婚契約、結婚、贈與等ヲナスコトアリ。

癡癲狂

癡狂ノ苦悶アルモノハ老人ニ多ク。追跡妄想(主ニ傍人及ヒ親戚ニ關スルモノ)モ少ナカラズ。老人ニハ通例先ヅ癡狀ノ症狀アリ。已ニシテ忌疑ノ性及ヒ心氣性鬱憂ヲ發シ。此症發作性ニ増劇シテ。其憂鬱其妄想ヨリ。或ハ忌疑、被害妄想ヨリ親族ヲ怨恨シテ之ニ餘財ヲ贈遺セズ。或ハ憂鬱、苦悶宗教妄想ヨリ其財産ヲ寺觀ニ贈與遺贈シ。爲ニ自他ノ大損失ヲ招クガ如キコトアリ。

癡癲狂ハ諸種ノ精神病中處分能力ニ關シテ最モ緊要ナルモノナリ。是レ其病ノ漸次ニ發育シテ。其初ニハ病タルコト殆ント知ルベカラズ。且數月ノ寛解、状態アリテ其診斷ヲ困難ニシ。而モ其間躁狂性發揚アリ、又過溢ナル誇大妄想アリ。爲ニ艱難ナル勞役ニ服シ、無謀ナル射倖ヲ敢テシ、證券紙幣ノ揮散、贈與、約條、結婚、濫妄ナル財産ノ蓋盡家計ノ失墜ヲ致スアリ。若シ幸ニシテ早ク之ヲ診斷シ得ハ。之ヲ後見ニ付シ是

精神病者ノ處分能力

癡狂及ビ心氣狂

等ノ大害ヲ未然ニ防グヲ得ベシ。但醫士ノ能ク之ヲ早期ニ診シ得タル場合ニ於テモ。其症狀ノ輕クシテ一見善ク事ヲ辨スルモノ、如クナルヲアリ、又一時寛解スルヲアルガ爲ニ。其家人、關係人并ビニ法官迄ガ之ヲ誤リ信シテ醫ノ言ヲ採聞スル能ハザルヲ多キハ遺憾ナリ。

臆○躁○家○心○氣○家○ニシテ其重症ナルモノハ。其異常ナル感情ヨリ出ツル衝動ヲ克制スル能ハス。容易ニ身ヲ之ニ委シテ他アル能ハス。叡智ノ障礙モ亦之ニ附隨シ起ルアリ。其症候ノ益顯著ナル程、其人ノ處分能力ハ彌減殺スベシ。況ンヤ其狂疾ノ發セシモノニ於テヤ。其ノ刑法ヲ觸犯スルト同ク。自他ノ民事上ノ利損ニ處置スルノ能ナキモノナリ。

癡○癩○者○及○ビ○飲○酒○家○ノ如キハ定期性ニ精神障礙アルモノニシテ。其發作以外ノ時ニ處分能力ノ備ハレルヤ否ヤハ。其人其症ニ付キテ之ガ診案ヲ下スベシ。

癡癩狂及ビ中酒狂

無意識狀態

諸○種○ノ○疾○病○性○無○意○識○狀○態○ガ○刑○法○上○責○任○不○能○ト○認○ム○ベ○キ○如ク。處分能力ノ此狀態中ニ缺亡スルハ明瞭ナリ。

(二)聾啞者ノ處分能力

聾啞者ノ處分能力

聾○啞○者○ノ○處○分○能○力○ノ○有○ア○ル○ハ○疑○ハ○シ○。是○レ○一○ハ○聾○啞○者○ニハ通例精神能力ノ發達不完全ナルニヨリ。又一ハ其思想交通能力ノ不充分ニシテ。其最上ナルモノモ文字ノ語、記號ノ語ニ限リタルニヨルナリ。其處分能力ヲ考究スルニ。聾啞ニ二種ヲ別ツベシ。一ハ充分ナル教育ヲ受ケタル聾啞又ハ精神發達後ニ聾セシモノ。一ハ生來ノ聾啞ニシテ教育ヲ受ケザリシモノナリ。甲者ノ癡愚ニ比スベク。乙者ノ白癡ニ比スベキヲハ前ニモ述ベタリ。即チ教育ノナキ聾啞者ハ處分不能ナルヲ論ナク。其教育ヲ受ケタルモ素性ノ元來薄弱ナルモノニハ教育ノ効果甚薄微ニシテ。精神ノ素性善ク發育スベキモノニテモ。教育ニヨリテ處分能力ノ完全ニ達スルヲ

聾啞者ノ處分能力

ハ稀ナリ。聾啞者ニシテ文字ヲ善ク用ヒ得ルモノ、如キハ處分アリト云フベシ。
聾啞者ヲ一概ニ浪費者ナリト同括シ、準禁治産トスルノ當ヲ得ザルハ右ノ理由ニテ明ナリ。

(三)失語者ノ處分能力

民法上聾啞者ト甚相近キモノハ失語ナリ。失語トハ自己ノ考慮ヲ言語(詞言、文言、記號言語)ニテ發表スル能力ノ缺亡又ハ難澁ナルヲ云ヒ。通例ハ精神衰弱ヲ併呈スレド。醇然タル失語ニシテ精神薄弱ナキモノアリ。故ニ失語ハ腦病アルヲノミ指示スルモノニシテ、其精神狀態ハ別ニ之ヲ診査スルヲ要ス。而シテ失語家ニハ語聾症錯語症ノアル爲ニ之ヲ錯亂又ハ癡鈍ト誤認シ易キノ虞アリ。患者ノ狀貌ノ整ヒ、舉作ノ正ク、自ラ語リ自ラ書スルノ誤マレルヲ知り、傍人之ニ正シキヲ語レハ則チ満足ヲ表シ、言語ハナキモ事物ノ意味

失語者ノ處分能力

ヲ推シ示シ得ルカ如キハ皆精神ノ健全ナルヲ表ハスニ足レリ。失語ニハ臨床上數多ノ階級アリ、合併症モ種々ナレハ。其醫學上判定ハ各症毎ニ之ヲ下スベシ。

失語ハ大都分テ三類トスベシ。

(一)叡智消亡スルカ。假令少シク之ヲ殘存スルモ、言語文字ニテ其考慮ヲ外ニ發ハスヲ能ハサルモノハ。其ノ處分不能ナルヲ無教育ノ聾啞者ト同ジ。

(二)叡智作能ハ限ラレタルモ消失ニ至ラズ、考慮ヲ發表スル能力モ大ニ妨ケラル、モノハ。教化ヲ蒙リシ聾啞者ノ如シ。

(三)叡智ニハ缺乏ナク、言語ノ能ノミ缺ケタルモノハ成長後聾啞トナリシモノト對比スベク。其普通理解スベキ記號ヲ以テ意想ヲ表ハスヲ能ハザルモノヲ。自己ノ事務ヲ處分スル能力ナキモノトス。

(四)處分能力ニ關スル鑑定書編成ノ梗概

處分能力ニ關スル鑑定書ノ編成

既往症

現在症

處分能力ニ關スル鑑定ハ。既往症、現在症及ヒ結論ヲ具備スベキハ總論ニ述ベタルカ如シ。

既往症ハ簡潔ヲ要シ、精神病ノ原因トシテ關係ノアルト及ヒ患者ノ話頭ニ上リシ事實ヲ擧クベシ。(例ヘハ患者カ診查對話ニ於テ世界周遊ヲ談シ。而モ其事、既往症中ニナクハ。之ヲ點檢スルモノヲ以テ誇大妄想アリシモノトナサン。)

現在症ニ就テハ身體症狀精神症狀ヲ別チ考察スベク。身體症狀ハ之ヲ概括シ記スベク。而モ之ヲ精神症狀ト善ク照ラシ合セ記スベク。例ヘハ精神症狀中ニ麻痺狂ニ類スルト多クアラハ。身體症狀中麻痺狀ノ痿弱アリヤ無シヤヲ明ラカニシ、以テ診斷上ノ區別ニ疑ナカラシムベシ。精神症狀ハ感情界觀念界意思界ノ順序ニ從ヒ之ヲ檢スベシ。之ヲ記スルニ當リテハ敘事上、意義ノ暢達ヲ望ムカ爲ナラバ之ヲ前後スルモ可ナリ。例ヘハ發揚患者ニシテ言語多キモノ、鑑定

ハ觀念經過發動ノ狀況ヨリ記キ下シテ、後ニ感情ノ内容發動ニ及ブベキカ如シ。身體狀況ニシテ精神症候ノ標徴タルモノハ又別項トシ記スベシ。

次ニ其精神ノ異常ノ點ヲ一括シ。民法上ノ區別ニ從ヒテ其種類ヲ確定スベシ。而シテ此事決シテ容易ナラザルガ故ニ今一二ノ例ヲ示サンニ左ノ如シ。

(イ)鬱狂、何某ハ持續ノ心痛ヲ抱キ。而モ外界ノ事狀ニシテ其原因トスベキモノアルナク。自ラ其狀態ノ病ナルトヲ辨ゼズ。爲ニ事毎ニ物毎ニ痛憂ヲ以テ之ヲ認受シ。其業務ニ對シテ勵精スルトモセズ。サレハ何某ハ即チ感情生活ニ病ヲ受ケ。之カ爲ニ又其理解ノ能、意思ノ力ヲ害ハル。從テ己カ行爲ノ輕重(結果)ヲ熟察スルト能ハズ。自己ノ利損ヲ見テ事ヲ處スル能ハサルモノニシテ。心神喪失ノ常況ニ在ルモノト謂ツベシ。

處分能力ニ關スル鑑定書ノ編成

(ロ)續發癡狂 何某ハ記憶ノ減弱ニ惱ミ。殊ニ近事ノ經歷ニ就キテ然リ。其辨別力モ一見稍常ノ如クナルモ。而モ著ク薄弱ナル所アリ。其性格ハ小兒ノ如ク且柔懦ニシテ。其感情ハ憂鬱ニシテ刺戟性ナリ。故ニ何某ハ感情ノ異常アリ。其意思力モ亦弛靡シ。記憶ノ能力減衰シ。精神ノ産出力ハ著ク薄弱ナリ。何某ハ即チ自ラ事務ノ輕重(結果)ヲ熟察スルノ能力ナキモノナリ。

(ハ)妄覺狂偏執狂 何某ハ妄覺ノ爲ニ其外界ノ事變ヲ知覺スルコト正キヲ得ス。一種ノ追跡妄想誇大妄想ノ爲ニ論理ニ從ヒテ事ヲ考察スルコト能ハズ。爲ニ其感情ハ常ニ長ク刺戟性トナリ。從テ其性格ハ家人關係人ニ對シ仇敵ノ心ヲ懷キ。自己ニ不利益ニシテ且法律ノ規定ニ適セサル所爲ヲナスベキモノナリ。凡ソ其人ノ理解力疾ノ爲ニ常ヲ失シ。其感情其性格唯妄想ニ支配セラル、人ハ理性的

ニ外界ニ應接スル能ハザルモノニシテ。心神喪失ノ常況ニ在ルモノト認メザルヲ得ズ。

(ニ)錯亂症 何某ハ其舉作、兒戲ノ如ク或ハ何事ニモ心ヲ動カサス。或ハ發揚興奮シ。要スルニ其感應ハ常ニ其時ノ外事狀ト齟齬セリ。其應對其談話ハ支離滅裂ナル字句ノ無聯絡ニ排次サル、ノミ。何某ハ即チ自ラ語ラントスル所ヲ他人ノ解スベキ様詞ニ出タスコト能ハズ。故ニ何某ハ全ク理性ニ從ヒ事ヲナス能ハス。心神喪失ノ常況ニ在ルモノトス。

(ホ)麻痺狂 何某ノ感情ハ外況ニ應セズ、過度ニ爽快ニシテ、故ナク劇變シ。記憶辨別ノ障礙甚シク。且其意思ハ其無可有ニシテ過溢ナル誇大妄想ニヨリテ決セラレ。其性格ハ從來ノ習慣性トハ全然相異スルモノタリ。其精神生活ハ爲ニ智力ニ於テモ感情ニ於テモ意思ニ於テモ深キ障

碍ヲ蒙レリ。何某ハ理性ヲ以テ外界ト應接スル能ハザルモノニシテ余ハ之ヲ以テ精神喪失ノ常況ニ在ルモノト認ム。

此ノ如クニ精神状態ノ記述考研ヲ終リナハ。乃チ之ニ學問上ヨリ病名ヲ下シ。押印ヲ以テ鑑定事ヲ終ルベシ。

(乙)禁治産ノ解除

禁治産ハ回復スベカラザルモノニアラズ。禁治産ヲ爲セシ事情ノ除カレテ後ハ禁治産モ亦止ムベキモノナリ。

禁治産ハ其本人、其配偶、親族、姻族、戸主、後見人又ハ檢事ノ請求ニヨリテ之ヲ解クヲ得ベシ。

治産ノ禁ヲ解クノ手續ハ事理ノ上ヨリ正ニ其禁ヲ置キシキト同ク精細ニ周密ニ之ヲナスベキヲ明ニシテ。未タ精神障礙ノ常ニ復セザルモノニ私權ノ行使ヲ許スノ弊害ハ、精神障礙アルモノニ後見ヲ付セザルノ弊害ト同ジカルベシ。

鑑定醫タルモノハ須ラク先ツ禁治産回復ニ付テノ判定ハ之ヲ禁治産ニ付テノ判定ニ比スレハ甚難キヲニ注目スベシ。蓋シ或人カ疾ニ罹レルヤ否ヤヲ診決スルハ精神ニ病アリシモノガ治セシヤ否ヲ診決スルヨリモ易ク。精神ノ衰弱セルモノニ禁治産ヲ爲スベキ民法上ノ條件アリヤ否ヲ診決スルハ、從來精神衰弱ノ爲ニ禁治産ヲ受ケ自ラ事ヲ善ク處辨スル能ハザリシモノニ其禁ヲ解クベキヤ如何ヲ診決スルヨリハ易シ。

此事件ニ付キテハ學問上ヨリ見テ精神ノ全ク健康トナリ回復セシヤ否ヤヲ判スルヨリハ。後見ヲ付シタルモ、禁治産ヲ爲スニ充分ナル理由アリテ、由リテ之ヲ附シタルモノナリヤ如何。其理由トナリシモノ現時猶ホ續キ存スルヤ如何。禁治産ヲ爲スベキノ理由ハ止ミタルモ之ニ代リテ準禁治産ノ理由ヲ生ジタルヤ如何ヲ判スルヲ必要トス。後見ノ解

除ハ疾病ノ治療ヲ問フニアラズ。元禁治産ヲ致セシ原因ナクナリテ理性的ニ舉作辨決シ所爲ノ輕重(結果)ヲ洞察スルノ能力ノ回復セシヤ否ヤヲ問フナリ。

診査ニヨリテ禁治産ヲ致セシ理由復タ既ニ存セズ。又准禁治産トスベキノ理由モ存セズバ。裁判言渡ニヨリテ後見ヲ除キ其日ヨリシテ其者ハ完全ナル民法上ノ權利ヲ得ベシ。

實地上精神病ノ猶ホ存スルヲハ旁ノ人之ヲ知ラズシテ禁治産ヲ解カントヲ望ミ、或ハ似非同情ノ爲ニ其病ヲ幸好ト誤認シ既ニ治セリト信スルコトアリ。或ハ後見ノ解除ヲ望ム親族アリテ、病人ノ精神健康トナリ處分能力ノ復セルヲ僣稱スルコトアリ。又亦患者ノ自ラ匿狂スルコトアリ。故ニ其鑑定ヲナスニハ前度ノ所行、禁治産ノ理由、爾後ノ疾病ノ經過ヲ詳ニシ。反復精細ニ親ク接話スルコト必須ニシテ。患者ニ對シ、又其事ニ力ヲ盡ス關係人ニ對シ、多少ノ疑惑ヲ抱クコトヲモ

要ス。時トシテ其能力ノ如何ハ實際社會ニ立タシメテ之ヲ檢スベキコトアリ。是レ自家ノ家内ニ於テ作能ノ充分ナルコトハ未ダ以テ公衆生活ニ自處スル能力ノ完備ヲ標ハスニ足ラザルガ故ナリ。

精神病ノ眞ニ治療セル徵証ハ其罹リタル疾病ヲ明ニ認知スルコト及ビ従前ノ精神的本人ノ回復シ、其性格、特性、其長所、缺點、傾向等モ已前ノ如クニ復スルコトナリ。而シテ回復ノ能ク此ノ如クニ至ルモノハ蓋シ多カラス。精神病後ニ於テ智力猶ホ多少薄弱ニシテ、其感應性質ノ未ダ全ク罹病前ニ復セザルモ、其變常ノ僅微ナルヤ。其人之ヲ處分不能トハ云フベカラザルコトアリ。

法律ハ又此解禁ニ關シ民法上ノ能力ヲ回復セルヤ如何ヲ問フノミナルモ、亦旁執務能力ノ回復ヲ問フコトアリ。是レ責任アル職務ニ付キ頗ル重要ナリ。

(丙) 禁治產ヲ受ケザリシ無能力者ノ行爲

精神病者ハ民法上ノ規定ニヨレバ、之ニ禁治產ヲナスコトヲ得。而シテ其未タ禁治產ヲ受ケザリシモノニシテ民法上ノ所爲ヲナシ。而シテ其所爲ハ『心神喪失』ニ基クト云フヲ以テ之ヲ銷除スベシト主張セラル、コトアリ。此主張ハ其關係ヲ左ノ數者ニ及ボスベシ。

- 一 合意、契約、賣買
- 一 結婚
- 一 執務、後見、子女養育、親權行使
- 一 證言、宣誓
- 一 償還
- 一 遺言

右ニ關スル鑑定并ヒニ處置ハ處分能力ニ付キ總括シテ述ベシ所ニヨリテ其各者ノ法律規定ヲ顧ミテ之ヲ施スベシ。

但此場合ニ於テ處分能力ハ非認セラレズ法律上、之アルコトヲ承認セルガ故ニ。禁治產ヲ加フベキノ條件ガ該當所爲ヲナセシ當時ニ既ニ存シ。其權使義務ノ執行スルニ必要ナル條件ガ其當時既ニ缺亡セシコトヲ證明セザルベカラズシテ。若シ是等ノ證明ナキ以上ハ其當時ニ於テハ處分能力ハ完備セシモノト云ハザルヲ得ス。故ニ其人ニ其時處分能力ナカリシト云フコトヲ爭ハントスル人ハ須ラク其不能ノ證左ヲ提起セザルベカラズ。若シ民事上ノ所爲ヲナセシ時ニ當リ理性ノ缺亡、行爲熟察ノ能力ノ缺乏アリシコトヲ證明スルコトヲ得ナバ。其人物ガ其當時權利義務ノ執行能力ナカリシモノト認ムベキハ固ヨリナリ。

既往ニ溯テ處分能力ヲ論スルノ場合ハ甚ダ多クシテ。管ニ精神病者ニ付テノミナラス。又其他ノ原因ヨリ精神障礙ノ起リタルモノニ付テモ之アリ。熱譫妄中ノ所爲ニ關スルモ